男女共同参画に関する町民意識調査
報　告　書

苅　田　町

令和４年３月

目　次

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的 …… 1
２．調査項目 …… 1
３．調査の性格 …… 1
４．回答者の属性 …… 1
５．調査結果利用上の注意 …… 3

Ⅱ　調査結果

第１章　男女共同参画に関する考え方について
１．性別役割分担意識 …… 5
２．男女の地位の平等感 …… 8
３．女性が職業をもつことについての考え方 …… 22

第２章　子どもの育て方、教育について
１．子どもの教育についての考え方 …… 25
２．男女共同参画を進めるために学校教育の場で力を入れること …… 31

第３章　家庭生活について
１．家庭内の役割分担の状況 …… 33
２．配偶者にもっとしてほしいこと …… 36

第４章　職業について
１．就業状況 …… 38
２．職場の女性にあてはまること …… 42
３．男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて …… 44
４．男性が育児休業・介護休業制度を取得することについて …… 46
５．男性が育児休業を取得しない（できない）理由 …… 47
６．生活における優先度 …… 49

第５章　社会活動への参画について
１．地域活動での男女の役割分担の状況 …… 51
２．地域の役職に女性が推薦された場合の対処 …… 54
３．断る（断ることをすすめる）理由 …… 57
４．自治会役員に女性が少ない理由 …… 59
５．災害に備えるために必要なこと …… 61
６．男女がともに仕事と家庭、地域活動に積極的に参画していくために必要なこと　63

第６章　社会分野における男女共同参画について
１．「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知 ･････････････ 65
２．地方議会における女性議員の理想の割合 ･････････････････････････････ 67

第７章　暴力などの人権侵害について
１．セクシュアルハラスメントの経験・見聞き ･････････････････････････････ 69
２．セクシュアルハラスメントを受けたときの対応 ･････････････････････････ 72
３．配偶者・パートナーからの暴力について ･････････････････････････････ 74
（１）配偶者・パートナー間の暴力の認知 ･････････････････････････････ 74
（２）配偶者・パートナーからの暴力の経験 ･････････････････････････････ 79
（３）相談先 ･･･ 85
（４）相談しなかった理由 ･･･ 87
４．妊娠や性に関しての考え方 ･･･ 89

第８章　男女共同参画社会の実現について
１．男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知 ･････････････････････････ 92
２．「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むこと ･････････････ 96

Ⅲ　調査結果からみえてくる現状と課題

調査結果からみえてくる現状と課題 ･････････････････････････････････････ 99

◎参考資料

使用した調査票 ･･･ 105

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

この調査は、町民の男女共同参画に対する意識、家庭生活や地域活動における男女共同参画の状況、就労や人権に関する状況や意識を把握し、今後の「男女共同参画社会」の実現に向けての施策推進のために策定する『第３次男女共同参画行動計画』の基礎資料を得ることを目的として実施した。

２．調査項目

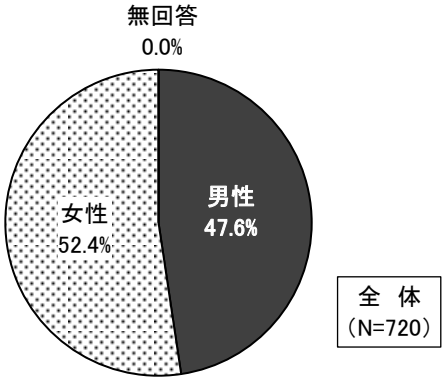
（１）男女共同参画に関する考え方について
（２）子どもの育て方、教育について
（３）家庭生活について
（４）職業について
（５）社会活動への参画について
（６）政治分野における男女共同参画について
（７）暴力などの人権侵害について
（８）男女共同参画社会の実現について

３．調査の性格

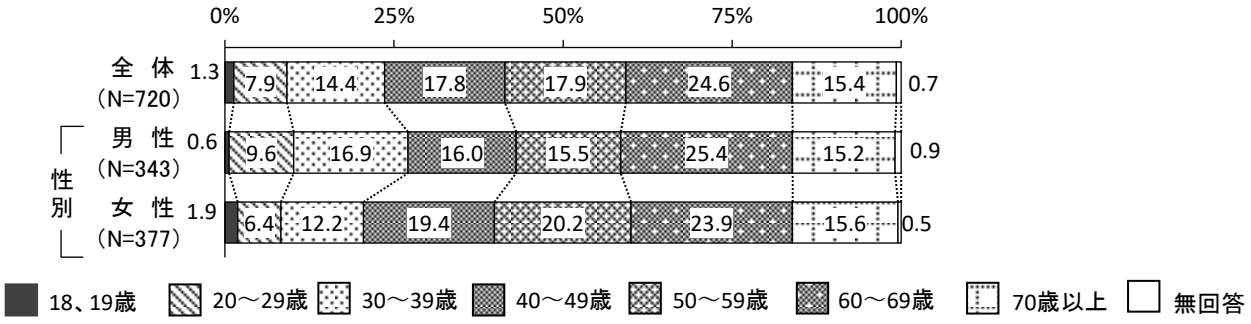
（１）調査地域　苅田町全域
（２）調査対象者　１８歳以上の男女２，０００人
（３）回収率　有効回収数　７２０人　有効回収率　３６．０％
（４）抽出方法　住民基本台帳から無作為抽出
（５）調査方法　郵送法
（６）調査期間　令和３年９月１３日～９月３０日
（７）調査企画・実施　苅田町　総務課　人権・男女共同参画推進担当

４．回答者の属性

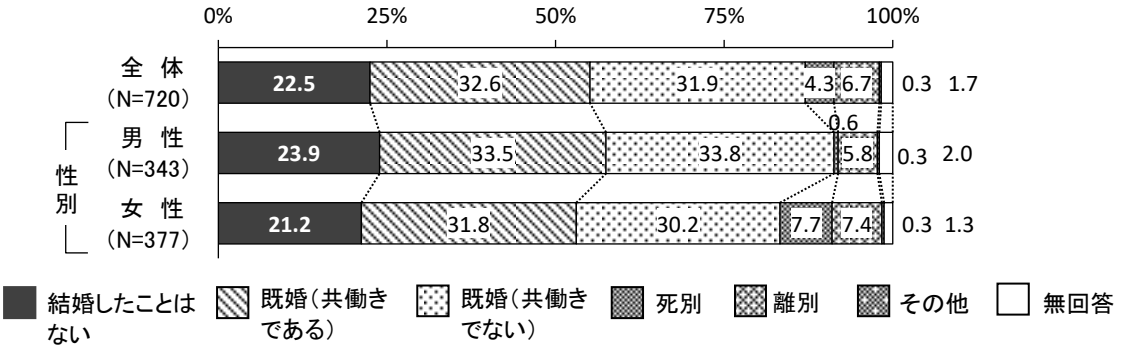
◎性別



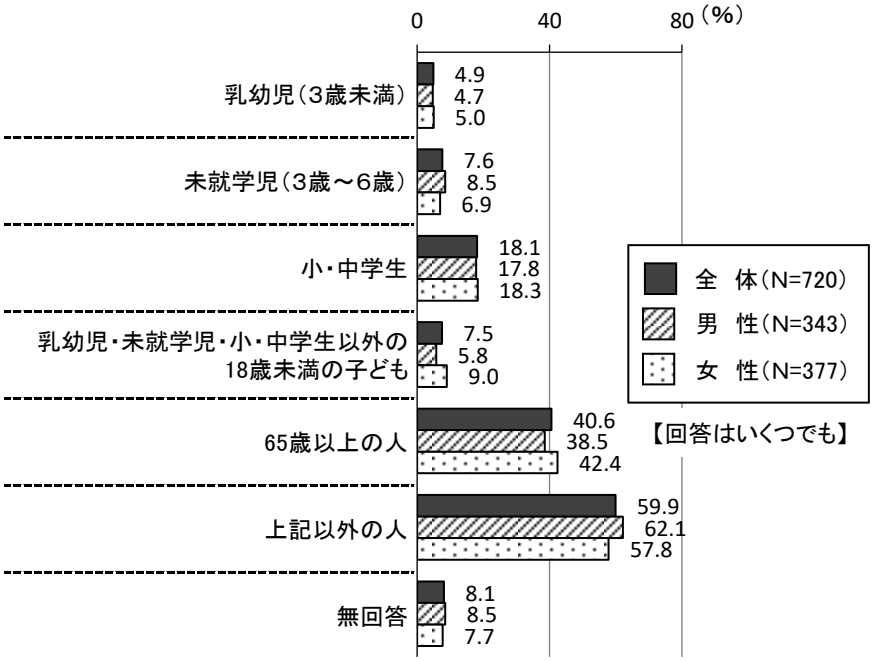
◎年齢



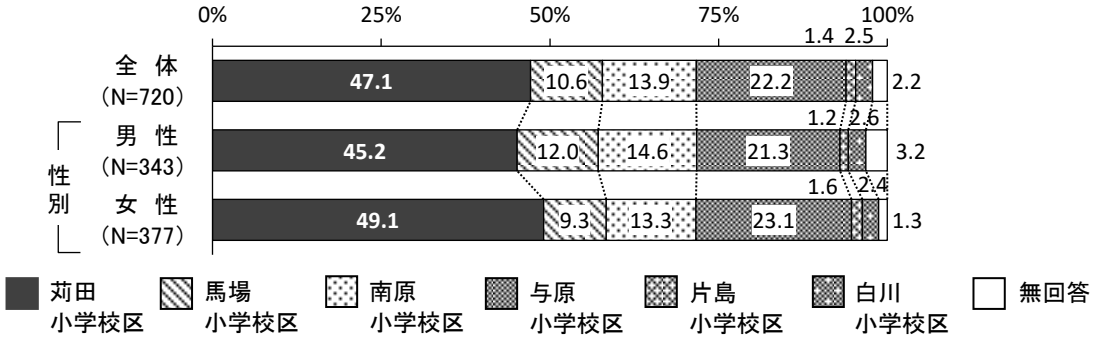
◎配偶関係（事実婚も含む）



◎同居家族



◎住まいの小学校区



５．調査結果利用上の注意

（１）数表、図表に示すＮは、比率算出上の基数（回答者数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の回答者数と合わないことがある。

（２）文中の数字は、百分比の小数第二位を四捨五入しているので、回答比率の合計は必ずしも 100％とはならない。

（３）２つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として 100％を超える。

（４）数表中の「－」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。

（５）付問○－○は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。

（６）文中の選択肢の表記は「　」で行い、選択肢のうち２つ以上のものを合計して表す場合は『　』とした。

（７）今回の調査は、次の調査結果と比較分析を行っている。
苅田町「男女共同参画市民意識調査」平成 28 年実施
福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和元年 12 月実施
内閣府「男女共同参画に関する世論調査」令和元年９月実施

Ⅱ　調査結果

Ⅱ　調査結果

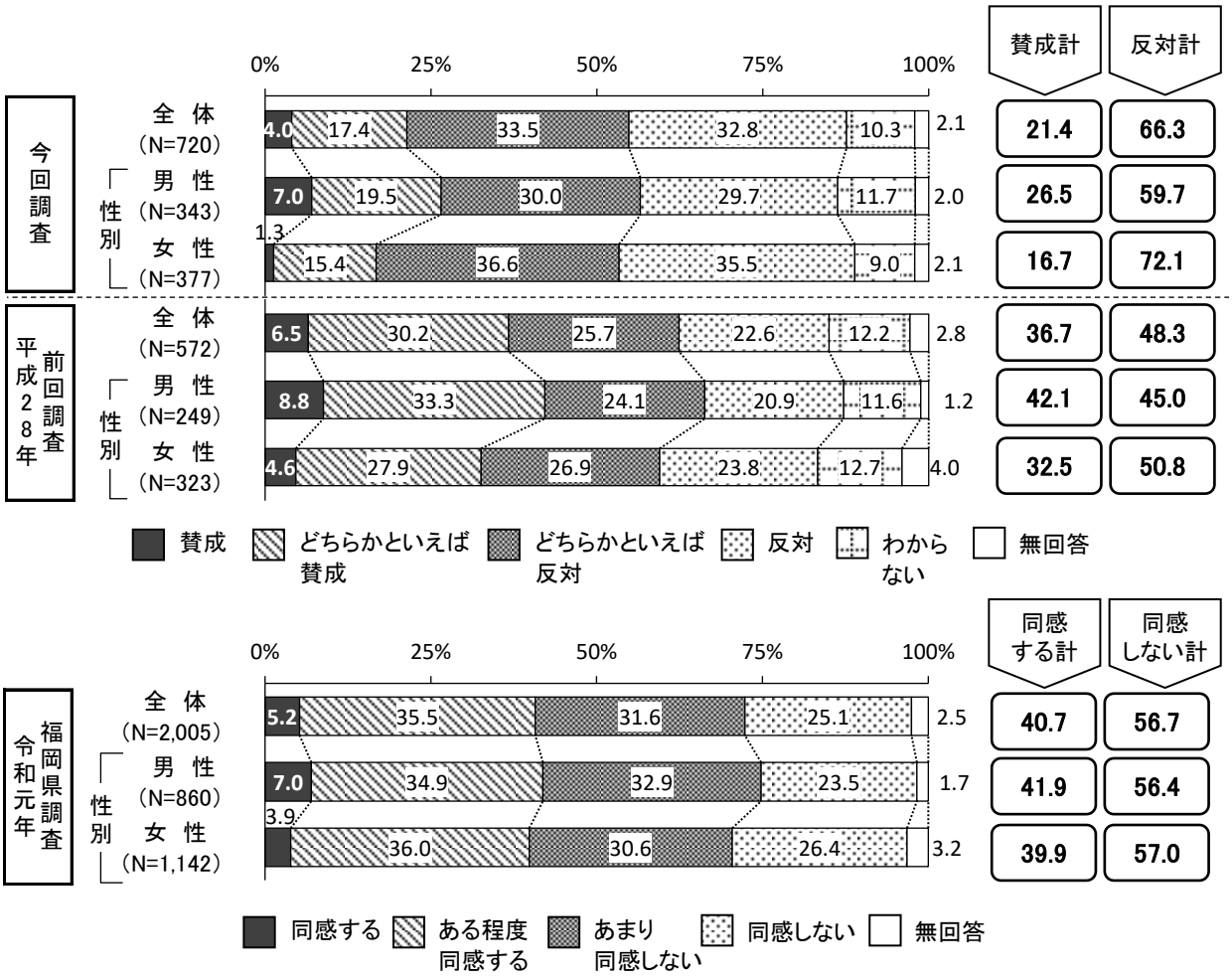
第１章　男女共同参画に関する考え方について

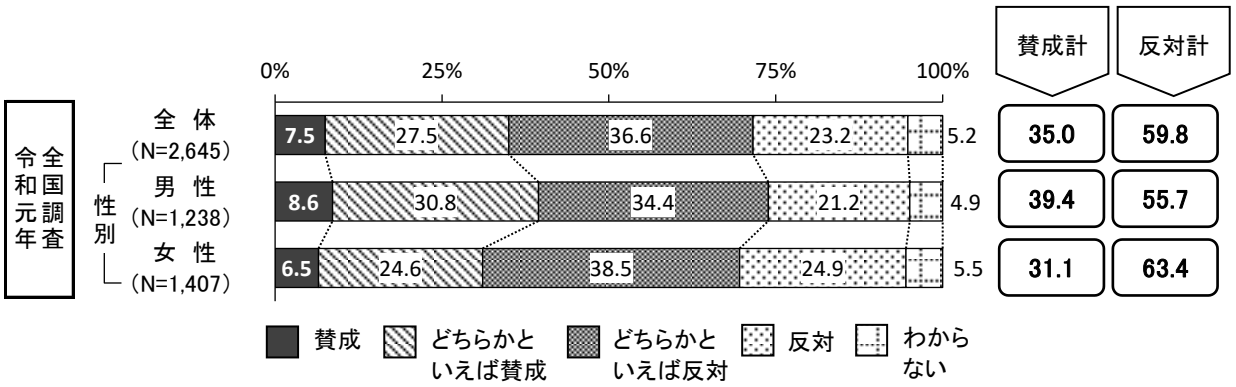
１．性別役割分担意識

●性別役割分担意識に『反対』は男性約６割、女性７割強。前回調査より『反対』は男女とも約 15～21 ポイントと大幅に増加。
●『反対』は福岡県・全国調査よりも高く、特に女性の方が高い。

問１.「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は１つ）

図表１－１　性別役割分担意識［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」といういわゆる性別役割分担意識について、全体では「賛成」（4.0%）と「どちらかといえば賛成」（17.4%）をあわせた『賛成』が 21.4%に対し、「反対」（32.8%）と「どちらかといえば反対」（33.5%）をあわせた『反対』は 66.3%と、性別役割分担を容認しない人が 44.9 ポイント上回っている。

性別でみると、女性の『反対』は 72.1%で男性（59.7%）を 12.4 ポイント上回っている。『賛成』は男性が 26.5%で女性（16.7%）を 9.8 ポイント上回り、男性の方が性別役割分担を容認する人が多い。

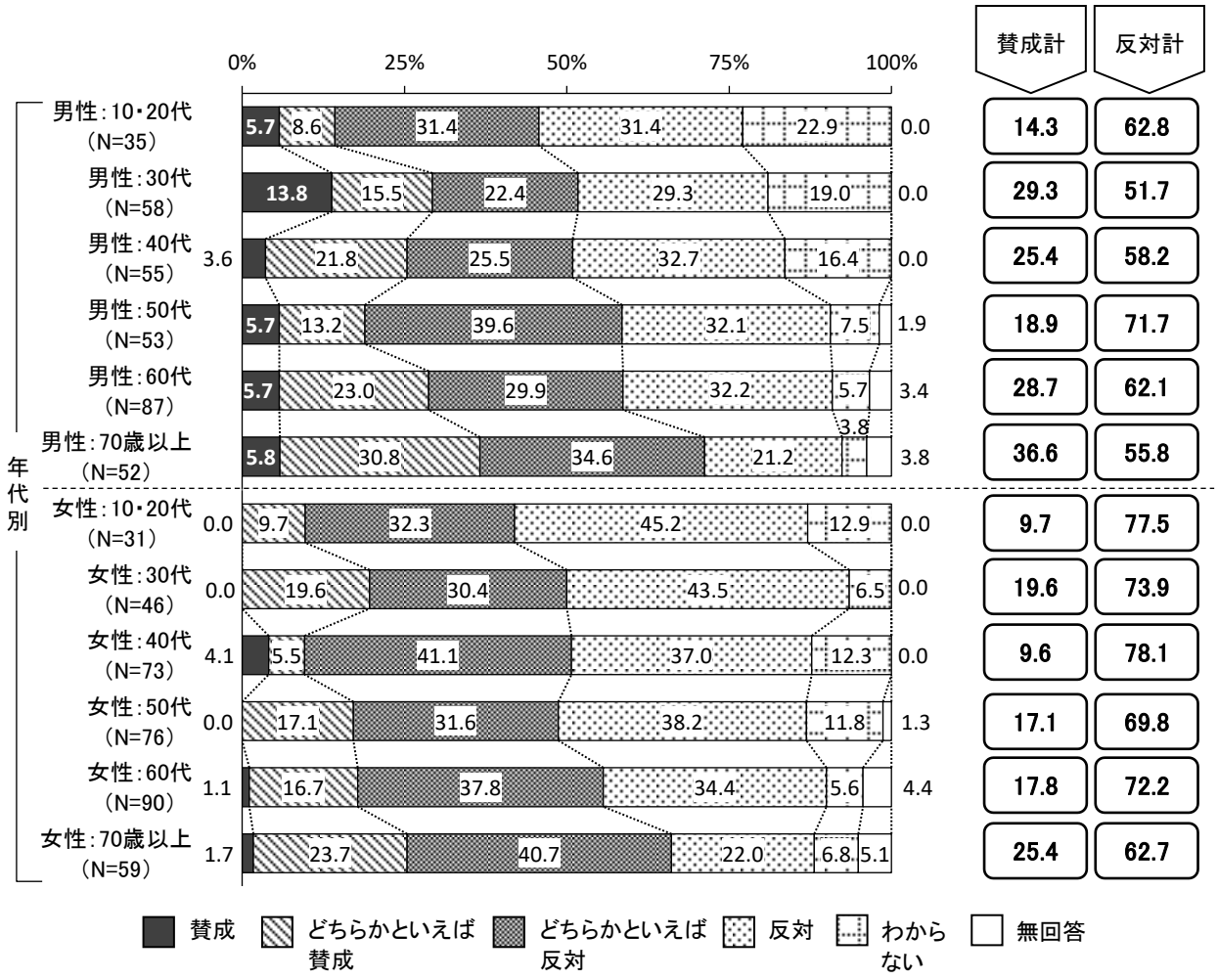
前回調査と比べると、男女とも『反対』が約 15～21 ポイント増、『賛成』が約 16 ポイント減と性別役割分担を容認しない人が男女とも大きく増えている。

令和元年 12 月に実施された福岡県の「男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、福岡県調査という）と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、今回調査の方が『反対』の割合は高く、特に女性は 15.1 ポイント高い。

令和元年９月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、全国調査という）と比べても、今回調査の方が男女とも『反対』の割合は高く、特に女性で 8.7 ポイント高い。

年代別でみると、女性の 10・20 代と 40 代で『反対』が７割台後半で高く、次いで 30 代、60 代、男性の 50 代で７割を超えて高い。『賛成』は男性の 70 歳以上で 36.6％と最も高く、次いで 30 代、60 代で３割弱となっている。

図表１－２　性別役割分担意識［全体、年代別］

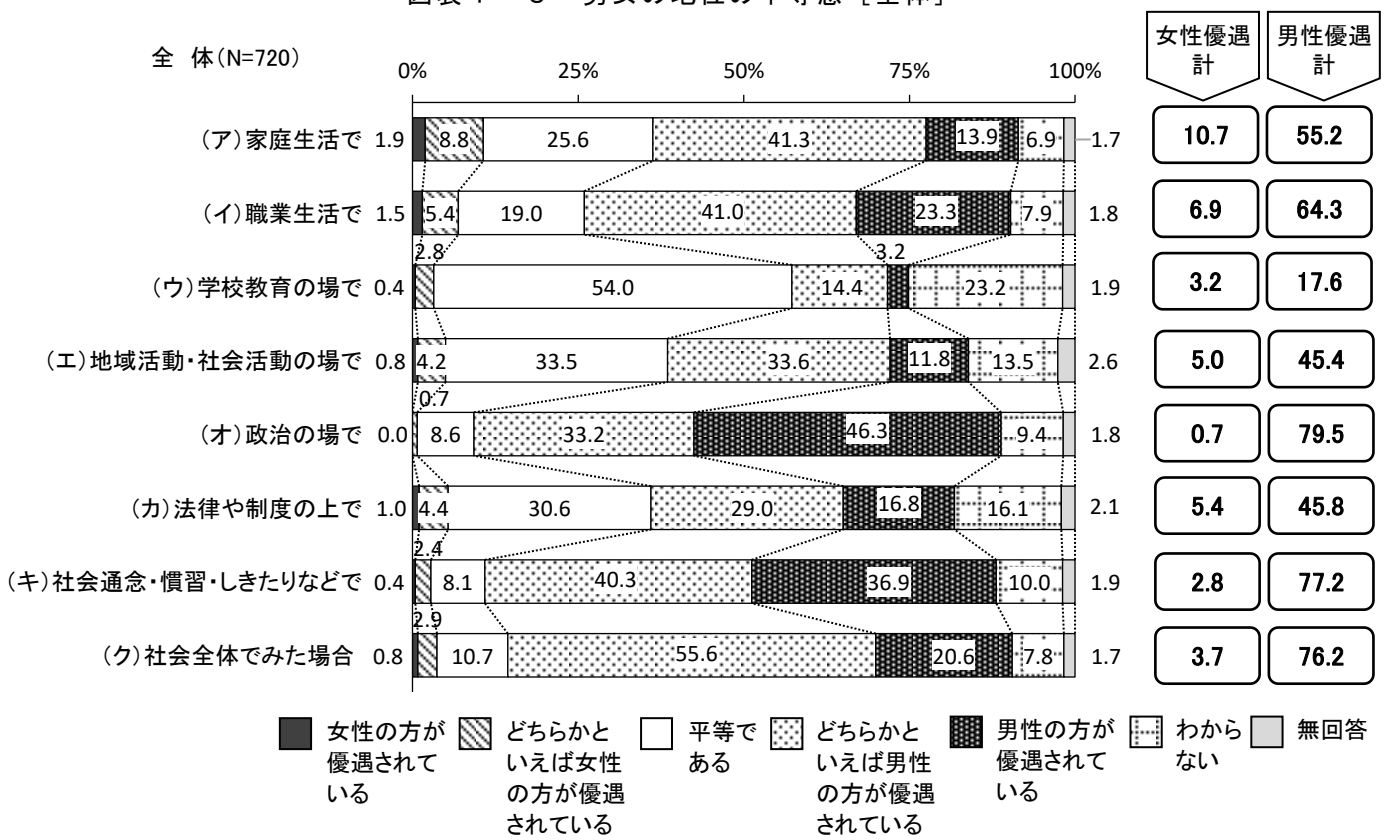


２．男女の地位の平等感

●「平等である」との回答が高い分野は、「学校教育の場」で５割台半ば。その他の分野は『男性優遇』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では７割を超え、「職業生活」で６割台半ば、「家庭生活」で５割台半ば、「地域活動・社会活動の場」「法律や制度の上」で４割台半ばと高い。
●すべての分野で、女性の方が男性よりも「平等である」の割合は低く、『男性優遇』の割合が高い。
●「家庭生活」「地域活動・社会活動の場」「法律や制度の上」では男女の認識の差が大きく、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では男女とも『男性優遇』ととらえているが、特に女性で強く認識されている。

問２．あなたは次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（ア）～（ク）の分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

図表１－３　男女の地位の平等感［全体］

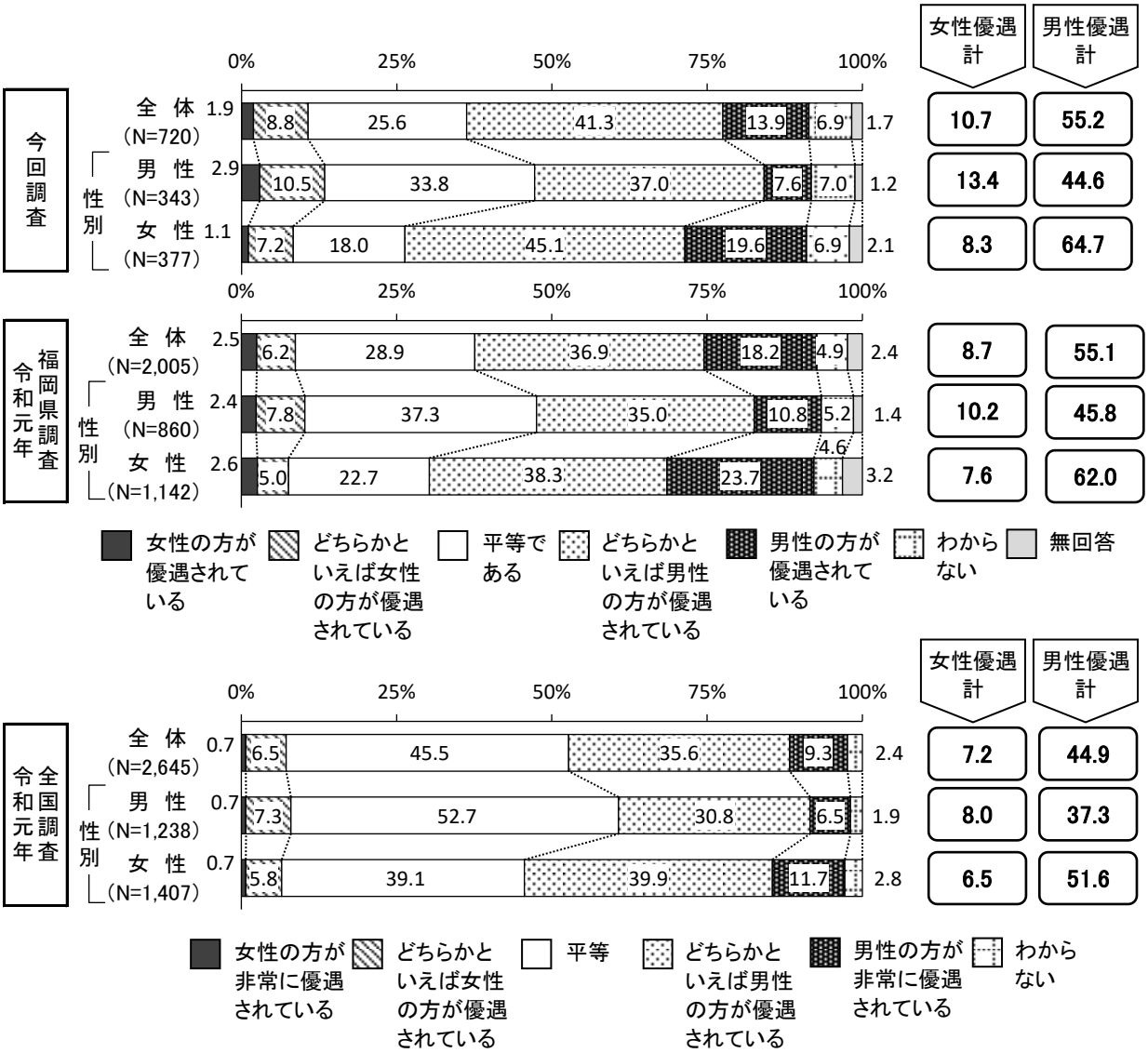


社会における８項目からなる分野での男女の地位の平等感について、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「平等である」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の５段階でたずねた。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』の割合が最も高いのは「政治の場」で 79.5%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が 77.2%、「社会全体でみた場合」が 76.2%と７割を超えている。また、「職業生活」(64.3%)、「家庭生活」(55.2%) で５割を超え、「地域活動・社会活動の場」(45.4%) や「法律や制度の上」(45.8%) でも４割台半ばと、いずれも「平等である」の割合を大きく上回っている。唯一「学校教育の場」は「平等である」が 54.0%と５割を超え、『男性優遇』(17.6%) を上回っている。

（ア）家庭生活で

図表１－４　家庭生活での男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



家庭生活で「平等である」は男性が 33.8%、女性が 18.0%と男性の方が 15.8 ポイント高く、『男性優遇』は女性が 64.7%に対し、男性は 44.6%と女性の方が 20.1 ポイント高いなど、男女での認識の差が大きい。

福岡県調査と比べ、男女ともあまり大きな差はみられない。

全国調査と比べると、項目の違いがあるため正確な比較はできないが、今回調査の方が男女とも「平等である」は約 19～21 ポイント低く、『男性優遇』は約７～13 ポイント高いなど、家庭生活での平等感は男女とも全国よりも低くなっている。

年代別でみると、女性は 10・20 代を除いて『男性優遇』が６割を超え、男性は 60 代で唯一５割を超えている。女性の 10・20 代と男性の各年代では「平等である」が３割台と高い。

配偶関係別でみると、女性の既婚で共働きの場合『男性優遇』が 72.5％と最も高い。

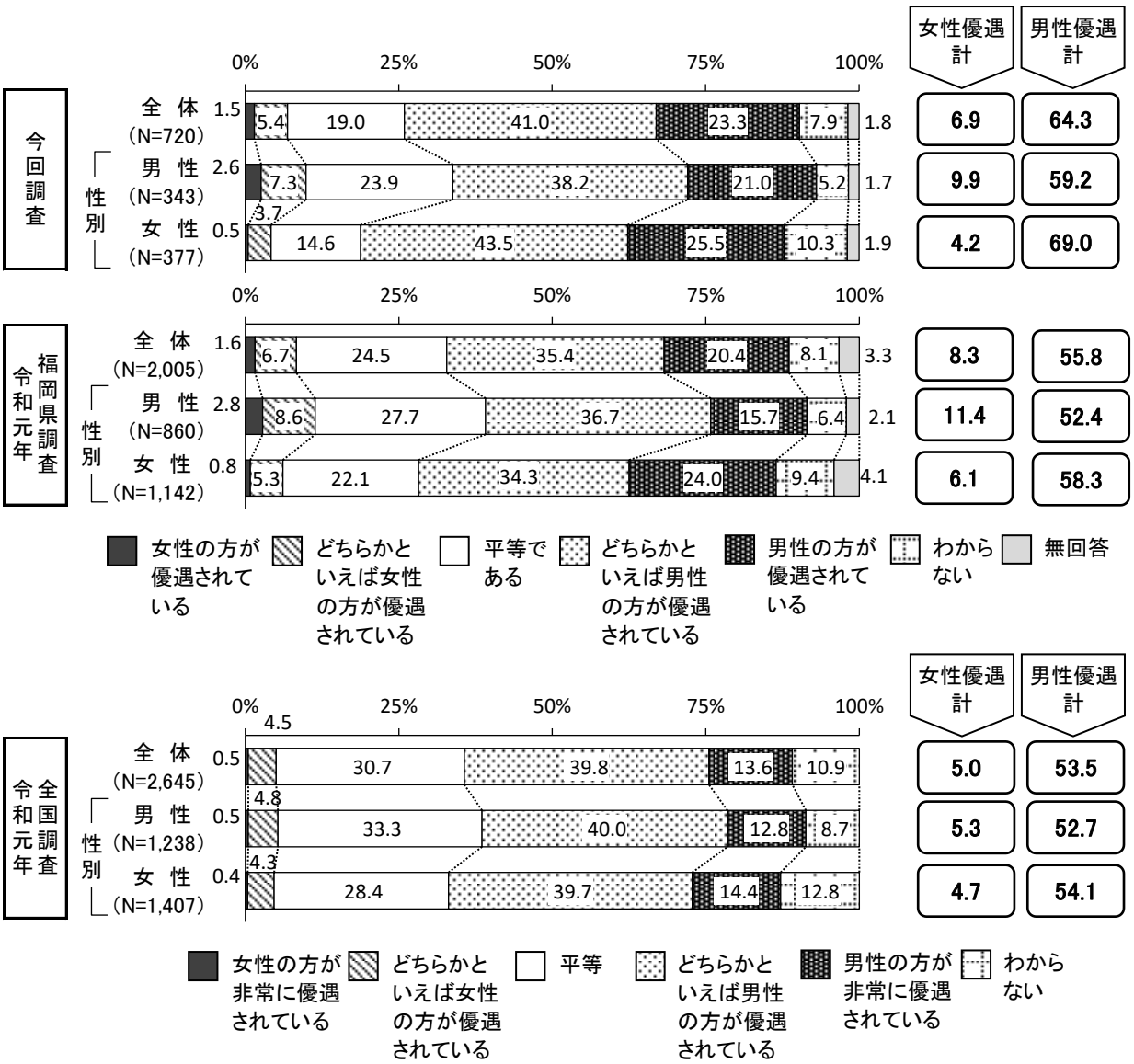
図表１－５　家庭生活での男女の地位の平等感［全体、年代別、配偶関係］

（%）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	女性優遇計	男性優遇計
全体		720	14	63	184	297	100	50	12	77	397
		100.0	1.9	8.8	25.6	41.3	13.9	6.9	1.7	10.7	55.2
年代別	男性:10･20代	35	5.7	17.1	31.4	31.4	2.9	11.4	－	22.8	34.3
	男性:30代	58	8.6	13.8	36.2	22.4	10.3	8.6	－	22.4	32.7
	男性:40代	55	1.8	10.9	34.5	32.7	10.9	9.1	－	12.7	43.6
	男性:50代	53	1.9	3.8	37.7	37.7	11.3	5.7	1.9	5.7	49.0
	男性:60代	87	1.1	6.9	31.0	48.3	5.7	4.6	2.3	8.0	54.0
	男性:70歳以上	52	－	13.5	34.6	44.2	3.8	1.9	1.9	13.5	48.0
	女性:10･20代	31	3.2	9.7	32.3	25.8	16.1	9.7	3.2	12.9	41.9
	女性:30代	46	－	15.2	10.9	47.8	15.2	10.9	－	15.2	63.0
	女性:40代	73	2.7	5.5	13.7	45.2	23.3	8.2	1.4	8.2	68.5
	女性:50代	76	－	6.6	17.1	44.7	25.0	5.3	1.3	6.6	69.7
	女性:60代	90	－	7.8	18.9	46.7	17.8	6.7	2.2	7.8	64.5
	女性:70歳以上	59	1.7	1.7	22.0	50.8	16.9	1.7	5.1	3.4	67.7
	無回答	5	－	20.0	－	20.0	－	60.0	－	20.0	20.0
配偶関係別	男性:結婚したことはない	82	6.1	9.8	24.4	30.5	6.1	20.7	2.4	15.9	36.6
	男性:既婚(共働きである)	115	2.6	7.8	37.4	36.5	12.2	2.6	0.9	10.4	48.7
	男性:既婚(共働きでない)	116	1.7	12.9	36.2	41.4	5.2	1.7	0.9	14.6	46.6
	男性:死別	2	－	50.0	－	50.0	－	－	－	50.0	50.0
	男性:離別	20	－	10.0	40.0	45.0	5.0	－	－	10.0	50.0
	男性:その他	1	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	女性:結婚したことはない	80	1.3	12.5	18.8	31.3	21.3	12.5	2.5	13.8	52.6
	女性:既婚(共働きである)	120	0.8	8.3	13.3	50.8	21.7	2.5	2.5	9.1	72.5
	女性:既婚(共働きでない)	114	0.9	4.4	22.8	44.7	21.1	4.4	1.8	5.3	65.8
	女性:死別	29	－	3.4	20.7	51.7	6.9	17.2	－	3.4	58.6
	女性:離別	28	3.6	3.6	10.7	53.6	17.9	7.1	3.6	7.2	71.5
	女性:その他	1	－	－	－	100.0	－	－	－	－	100.0
	無回答	12	－	8.3	33.3	33.3	－	25.0	－	8.3	33.3

（イ）職業生活で

図表１－６　職業生活での男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



職業生活での「平等である」は男性が 23.9%、女性が 14.6%と男性の方が 9.3 ポイント高い。『男性優遇』は男性が 59.2%、女性が 69.0%と女性の方が 9.8 ポイント高くなっている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は男女とも今回調査の方が約７～11 ポイント高く、「平等である」は女性で 7.5 ポイント低い。

全国調査と比べると、『男性優遇』は今回調査の女性の方が 14.9 ポイント高く、「平等である」は男女とも今回調査の方が約９～14 ポイント低い。

職業の有無別でみると、職業をもっている女性の 65.3%が『男性優遇』としているのに対して、男性は 55.5%と女性の方が 9.8 ポイント高くなっている。他方、「平等である」は男性が 27.7%、女性が 20.7%となっている。

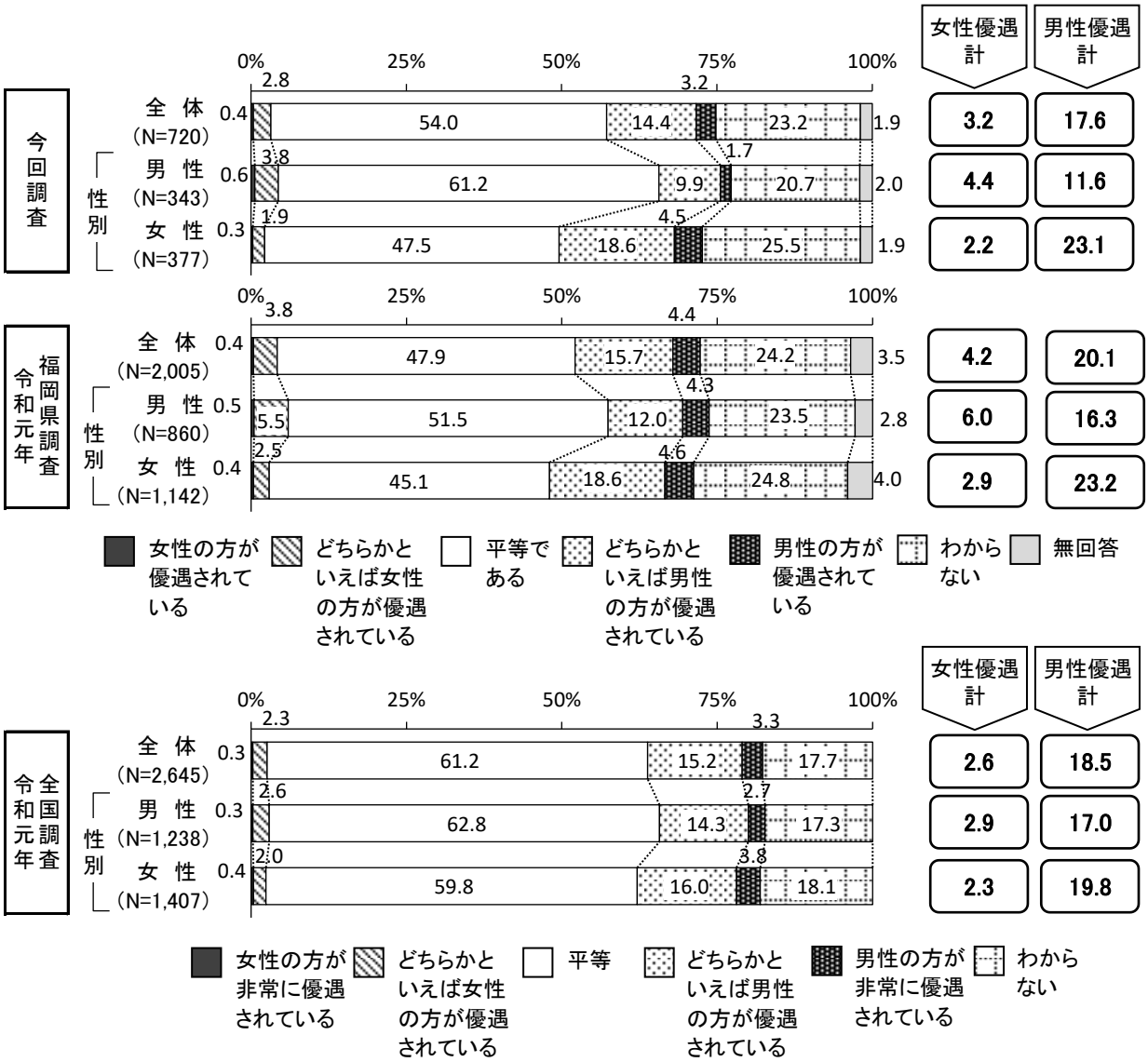
図表１－７　職業生活での男女の地位の平等感［全体、職業の有無別］

(%)

		標本数	女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	どちらかといえば平等である	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	**女性優遇計**	**男性優遇計**
全体		720	11	39	137	295	168	57	13	**50**	**463**
		100.0	1.5	5.4	19.0	41.0	23.3	7.9	1.8	**6.9**	**64.3**
職業の有無別	男性:職業をもっている	256	3.1	9.4	27.7	37.1	18.4	3.9	0.4	**12.5**	**55.5**
	男性:いまは職業をもっていない	68	1.5	1.5	14.7	41.2	27.9	8.8	4.4	**3.0**	**69.1**
	男性:いままで職業をもったことはない	5	－	－	－	60.0	20.0	－	20.0	**－**	**80.0**
	女性:職業をもっている	222	0.9	4.1	20.7	39.6	25.7	7.7	1.4	**5.0**	**65.3**
	女性:いまは職業をもっていない	125	－	2.4	4.8	53.6	24.8	12.8	1.6	**2.4**	**78.4**
	女性:いままで職業をもったことはない	17	－	5.9	11.8	35.3	23.5	23.5	－	**5.9**	**58.8**
	無回答	27	－	3.7	7.4	29.6	33.3	14.8	11.1	**3.7**	**62.9**

（ウ）学校教育の場で

図表１－８　学校教育の場での男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



学校教育の場では、８分野の中で「平等である」(54.0%) の割合が最も高くなっている。ただし、「わからない」(23.2%) も他の分野に比べて高く、学校に関わる機会の少ない人では実際の様子が把握しにくいという状況もうかがえる。

性別でみると、「平等である」は男性が 61.2%に対し、女性は 47.5%と女性の方が 13.7 ポイント低い。

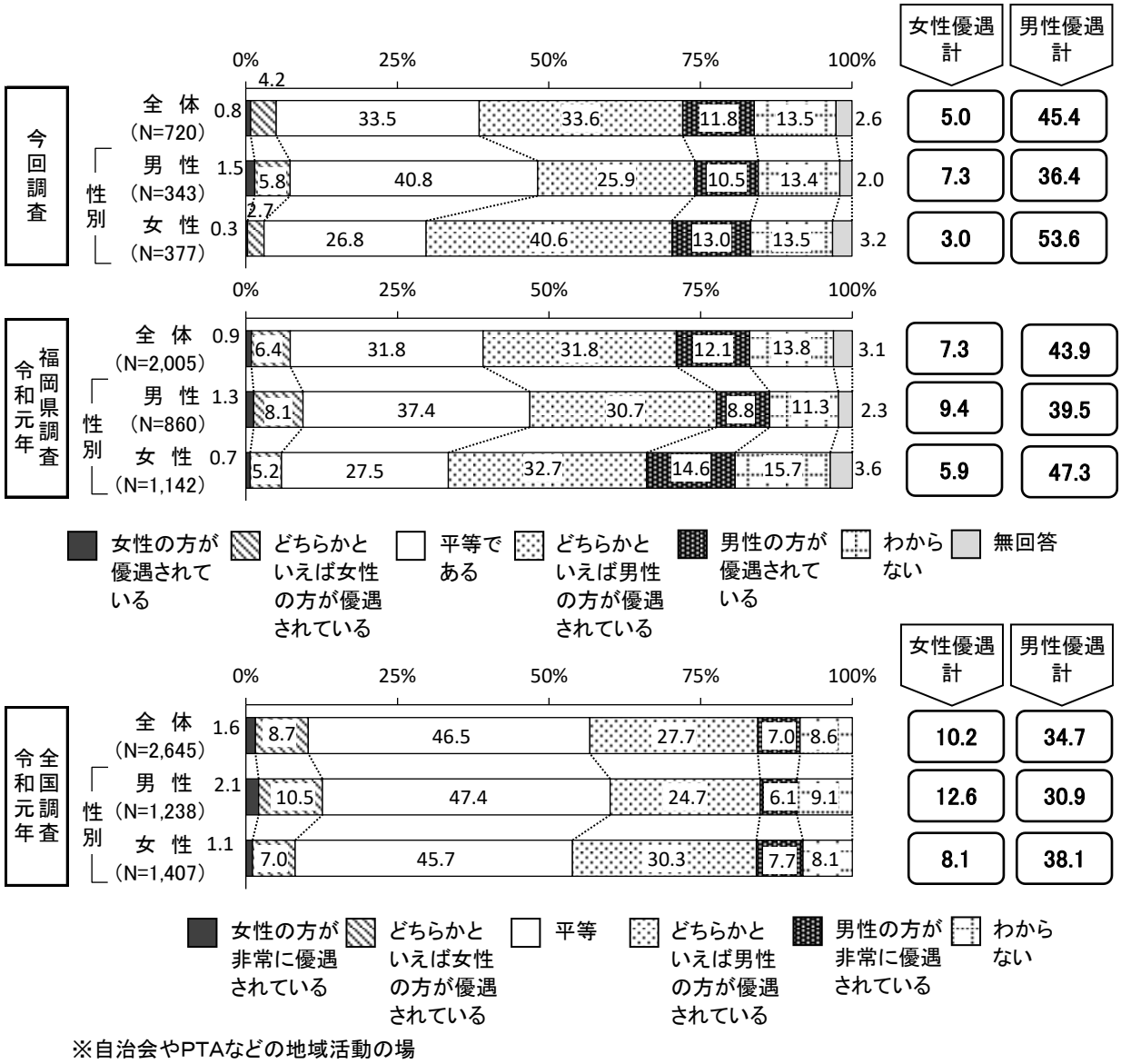
福岡県調査と比べると、男性の「平等である」は今回調査の方が 9.7 ポイント高い。女性はあまり大きな差はみられない。

全国調査と比べると、女性の「平等である」は今回調査の方が 12.3 ポイント低い。

（エ）地域活動・社会活動の場で

図表１－９　地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感［全体、性別］

（福岡県・全国調査比較）



※自治会やPTAなどの地域活動の場

地域活動・社会活動の場では、「平等である」は男性が 40.8%、女性が 26.8%と男性の方が 14 ポイント上回り、『男性優遇』は女性が 53.6%、男性が 36.4%と女性の方が 17.2 ポイント男性を上回るなど、男女の認識の差が大きい分野である。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が 6.3 ポイント高く、女性において県よりも男性優遇との認識が強い。

全国調査と比べると、男女とも「平等である」は今回調査の方が約７～19 ポイント低く、『男性優遇』は女性で 15.5 ポイント、男性で 5.5 ポイント高いなど地域活動・社会活動の場での平等感は、男女とも全国と比べると低い。

年代別でみると、『男性優遇』は女性の 60 代で 63.4％と最も高く、また 40 代（54.8％）と 50 代（54.0％）でも５割台半ばと高い。実際に地域活動を行っていると思われる年代で『男性優遇』の割合が高い結果となっている。

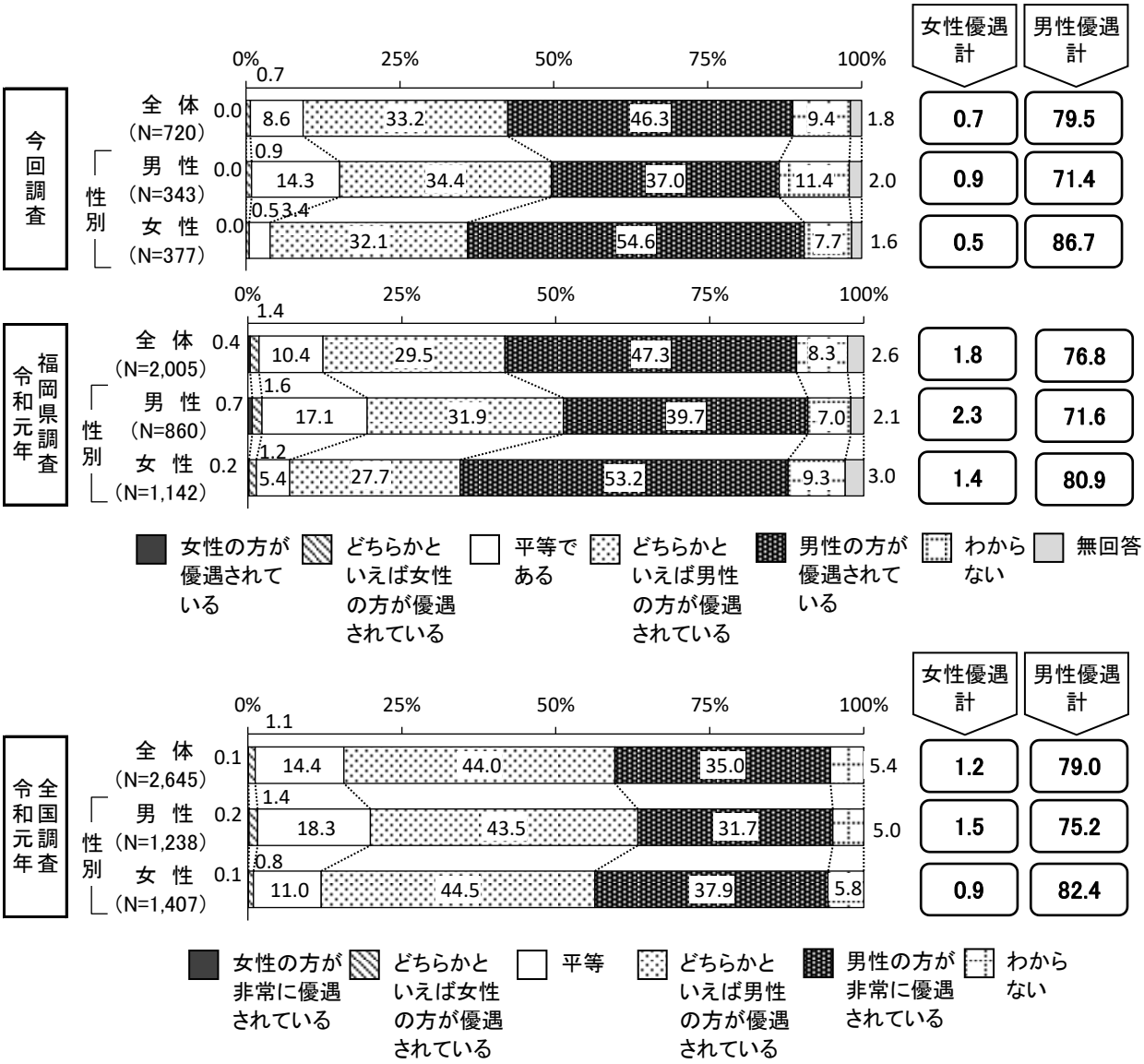
図表１－10　地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感［全体、年代別］

（％）

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	**女性優遇計**	**男性優遇計**
全体		720	6	30	241	242	85	97	19	**36**	**327**
		100.0	0.8	4.2	33.5	33.6	11.8	13.5	2.6	**5.0**	**45.4**
年代別	男性:10･20代	35	2.9	11.4	37.1	20.0	8.6	20.0	－	**14.3**	**28.6**
	男性:30代	58	5.2	5.2	48.3	12.1	8.6	19.0	1.7	**10.4**	**20.7**
	男性:40代	55	－	1.8	41.8	32.7	10.9	9.1	3.6	**1.8**	**43.6**
	男性:50代	53	1.9	3.8	49.1	17.0	13.2	13.2	1.9	**5.7**	**30.2**
	男性:60代	87	－	6.9	36.8	31.0	10.3	12.6	2.3	**6.9**	**41.3**
	男性:70歳以上	52	－	5.8	34.6	40.4	11.5	5.8	1.9	**5.8**	**51.9**
	女性:10･20代	31	－	－	48.4	22.6	6.5	19.4	3.2	**－**	**29.1**
	女性:30代	46	－	－	26.1	47.8	4.3	21.7	－	**－**	**52.1**
	女性:40代	73	－	4.1	20.5	38.4	16.4	17.8	2.7	**4.1**	**54.8**
	女性:50代	76	－	1.3	26.3	38.2	15.8	14.5	3.9	**1.3**	**54.0**
	女性:60代	90	1.1	4.4	18.9	47.8	15.6	7.8	4.4	**5.5**	**63.4**
	女性:70歳以上	59	－	3.4	35.6	39.0	11.9	6.8	3.4	**3.4**	**50.9**
	無回答	5	－	20.0	20.0	20.0	－	40.0	－	**20.0**	**20.0**

（オ）政治の場で

図表１－11　政治の場での男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



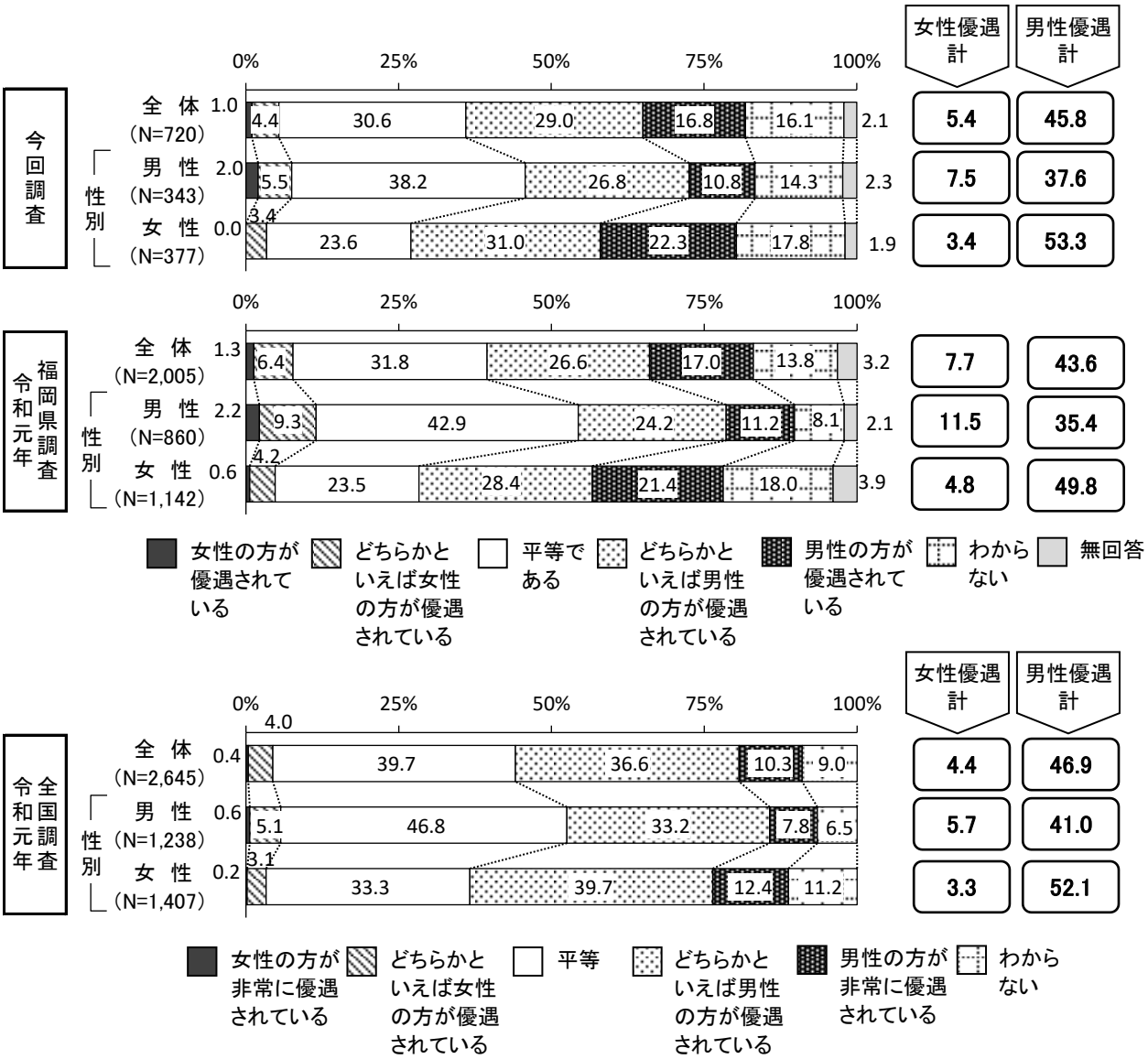
政治の場では、『男性優遇』は女性が 86.7％と男性（71.4％）より 15.3 ポイント高く、「平等である」は男性で 14.3％、女性で 3.4％と男性の方が 10.9 ポイント高いなど、男女とも男性優遇との認識が強い分野であるが、特に女性で強く認識されている。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が 5.8 ポイント高い。

全国調査と比べると、「平等である」は男女とも今回調査の方が約４～８ポイント低く、『男性優遇』は女性で 4.3 ポイント高いなど、女性において全国より男性優遇との認識が強い。

（カ）法律や制度の上で

図表１－12　法律や制度の上での男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



法律や制度の上での「平等である」は男性が 38.2％に対して、女性は 23.6％と男性の方が 14.6 ポイント高く、『男性優遇』は女性が 53.3％に対し、男性は 37.6％と女性の方が 15.7 ポイント高いなど、男女の認識の差が大きい分野である。

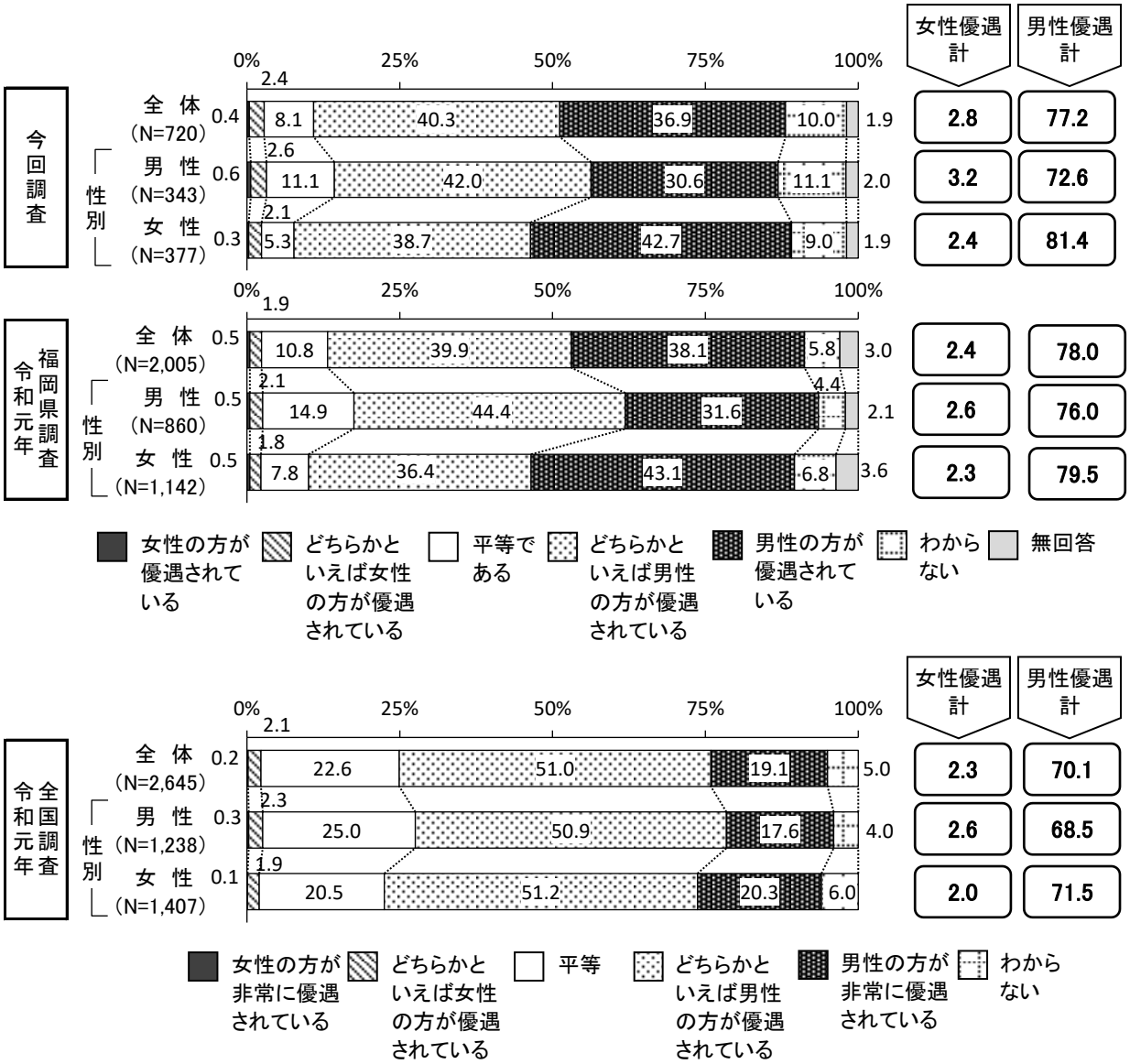
福岡県調査と比べると、女性の「平等である」はほぼ同程度であるが、『男性優遇』は今回調査の方が 3.5 ポイント高い。

全国調査と比べると、男女とも「平等である」は今回調査の方が約９～10 ポイント低く、「わからない」が約７～８ポイント高い。

（キ）社会通念・慣習・しきたりなどで

図表１－13　社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感［全体、性別］

（福岡県・全国調査比較）



社会通念・慣習・しきたりなどについて、『男性優遇』は女性で 81.4%、男性で 72.6%と女性の方が 8.8 ポイント高く、「平等である」は男性が 11.1%、女性が 5.3%と男性の方が 5.8 ポイント高く、男女とも男性優遇との認識が強い分野であるが、政治の場と同様に特に女性で強く認識されている。

福岡県調査と比べてもあまり大きな差はみられない。

全国調査と比べると、男女とも「平等である」は今回調査の方が 14～15 ポイント低く、『男性優遇』は約４～10 ポイント高いなど、今回調査の方が男性優遇と認識されている。

年代でみると、男女とも年齢の高い層で『男性優遇』の割合が高い傾向がみられ、特に女性の 60 代では９割近くとなっている。

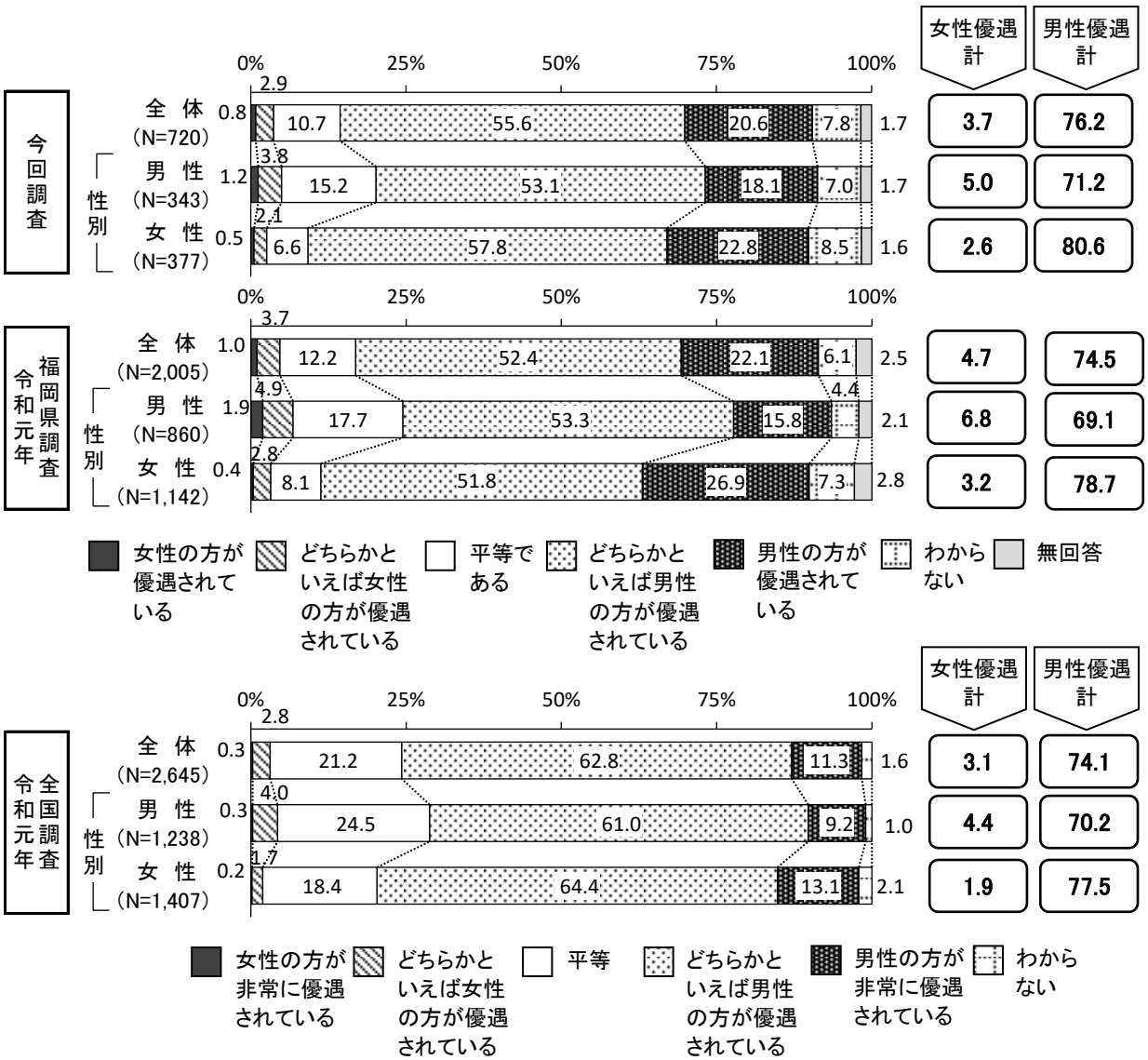
図表１－14　社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感［全体、年代別］

(%)

		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	女性優遇計	男性優遇計
全体		720	3	17	58	290	266	72	14	20	556
		100.0	0.4	2.4	8.1	40.3	36.9	10.0	1.9	2.8	77.2
年代別	男性:10・20代	35	－	2.9	11.4	40.0	28.6	17.1	－	2.9	68.6
	男性:30代	58	3.4	3.4	17.2	27.6	27.6	19.0	1.7	6.8	55.2
	男性:40代	55	－	3.6	1.8	45.5	32.7	16.4	－	3.6	78.2
	男性:50代	53	－	－	13.2	45.3	30.2	7.5	3.8	－	75.5
	男性:60代	87	－	2.3	12.6	43.7	32.2	5.7	3.4	2.3	75.9
	男性:70歳以上	52	－	3.8	7.7	50.0	32.7	3.8	1.9	3.8	82.7
	女性:10・20代	31	－	6.5	9.7	45.2	19.4	19.4	－	6.5	64.6
	女性:30代	46	－	4.3	2.2	37.0	41.3	13.0	2.2	4.3	78.3
	女性:40代	73	1.4	－	－	30.1	54.8	12.3	1.4	1.4	84.9
	女性:50代	76	－	2.6	5.3	34.2	47.4	9.2	1.3	2.6	81.6
	女性:60代	90	－	1.1	5.6	40.0	47.8	3.3	2.2	1.1	87.8
	女性:70歳以上	59	－	1.7	11.9	50.8	27.1	5.1	3.4	1.7	77.9
	無回答	5	－	－	20.0	40.0	20.0	20.0	－	－	60.0

（ク）社会全体でみた場合

図表１－15　社会全体でみた場合の男女の地位の平等感［全体、性別］（福岡県・全国調査比較）



社会全体でみると、『男性優遇』は女性で 80.6％、男性で 71.2％と女性の方が 9.4 ポイント高く、男女とも『男性優遇』の割合が高いが、特に女性で男性が優遇されている社会ととらえられている。

福岡県調査と比べると、あまり大きな差はみられない。

全国調査と比べると、男女とも「平等である」は今回調査の方が約９～12 ポイント低い。

年代別でみると、『男性優遇』は女性の 60 代で 87.8％と最も高く、また 40 代と 50 代でも約８割となっている。『女性優遇』は男性の 30 代で 12.0％と１割を超え、「平等である」は男性の 50 代で 24.5％、10・20 代で 22.9％と２割を超えて他の年代に比べて高くなっている。

図表１－16　社会全体でみた場合の男女の地位の平等感［全体、性別］

（％）

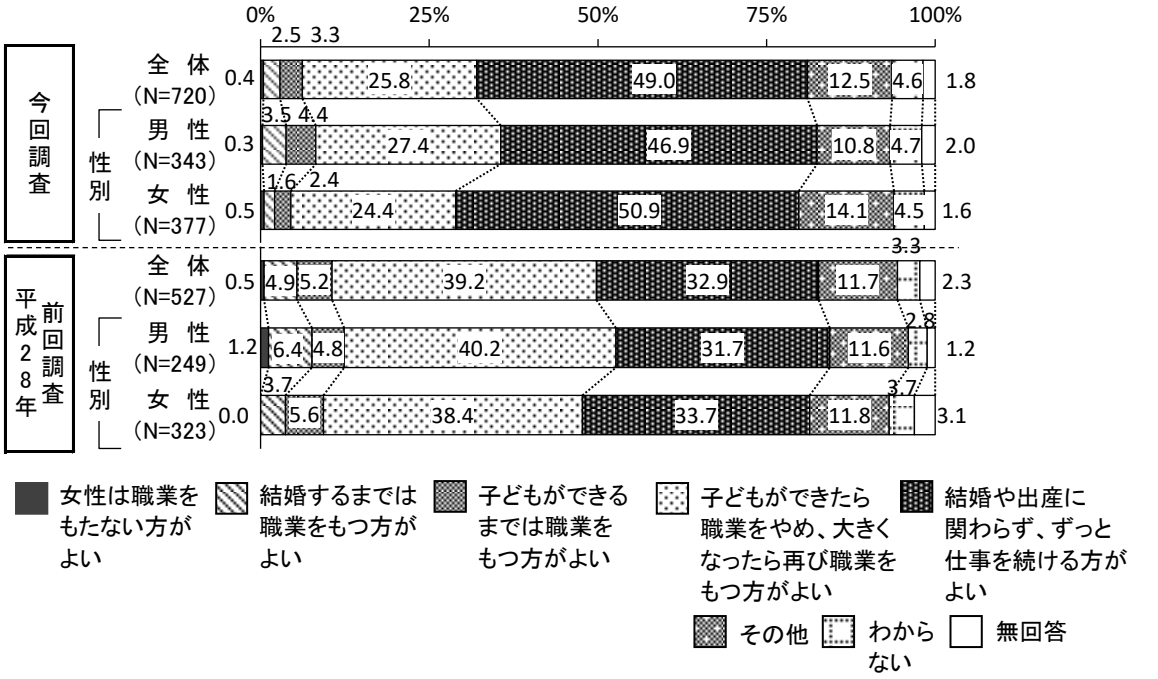
		標本数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	**女性優遇計**	**男性優遇計**
全体		720	6	21	77	400	148	56	12	**27**	**548**
		100.0	0.8	2.9	10.7	55.6	20.6	7.8	1.7	**3.7**	**76.2**
年代別	男性:10･20代	35	2.9	－	22.9	51.4	11.4	11.4	－	**2.9**	**62.8**
	男性:30代	58	3.4	8.6	12.1	46.6	15.5	12.1	1.7	**12.0**	**62.1**
	男性:40代	55	1.8	7.3	12.7	47.3	23.6	7.3	－	**9.1**	**70.9**
	男性:50代	53	－	3.8	24.5	49.1	17.0	3.8	1.9	**3.8**	**66.1**
	男性:60代	87	－	2.3	12.6	59.8	17.2	5.7	2.3	**2.3**	**77.0**
	男性:70歳以上	52	－	－	9.6	63.5	23.1	1.9	1.9	－	**86.6**
	女性:10･20代	31	－	6.5	9.7	61.3	16.1	6.5	－	**6.5**	**77.4**
	女性:30代	46	－	4.3	2.2	63.0	15.2	15.2	－	**4.3**	**78.2**
	女性:40代	73	1.4	1.4	2.7	50.7	30.1	12.3	1.4	**2.8**	**80.8**
	女性:50代	76	－	1.3	9.2	52.6	27.6	7.9	1.3	**1.3**	**80.2**
	女性:60代	90	－	2.2	4.4	58.9	28.9	4.4	1.1	**2.2**	**87.8**
	女性:70歳以上	59	1.7	－	13.6	64.4	8.5	6.8	5.1	**1.7**	**72.9**
	無回答	5	－	－	20.0	40.0	－	20.0	20.0	－	**40.0**

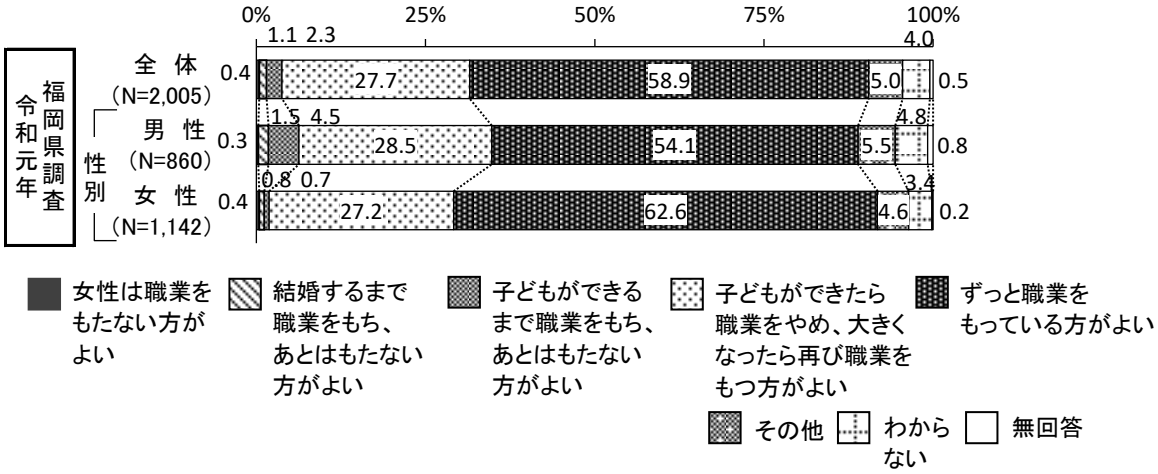
３．女性が職業をもつことについての考え方

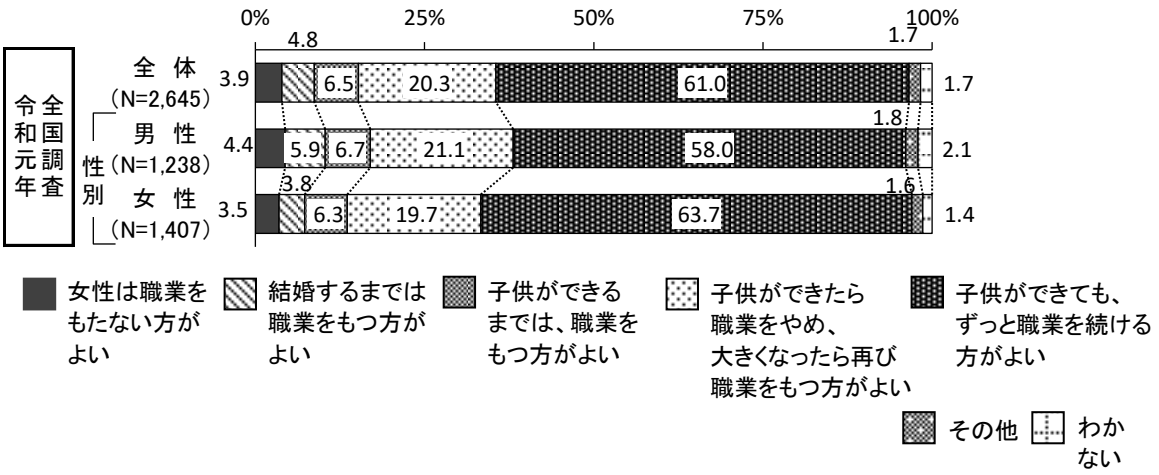
●女性が職業をもつことについて、男性の４割台半ば、女性の約５割が「仕事を続ける方がよい」。男女とも40代以下で５割を超えて高い。
●前回調査に比べて「仕事を続ける方がよい」は男女とも約 15～17 ポイント増加しているが、福岡県や全国調査に比べると、約７～13ポイント低い。

問３．一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は１つ）

図表１－17　女性が職業をもつことについての考え方［全体、性別］
（前回・福岡県・全国調査比較）







女性が職業をもつことについて、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という就労継続が 49.0％で最も多い。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という子育て期に就労を中断する働き方が 25.8％となっている。一方、「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」（3.3％）、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」（2.5％）、「女性は職業をもたない方がよい」（0.4％）の３つはいずれも専業主婦を志向する項目だが、これらの合計は 6.2％と１割に満たず、女性が職業をもつことは肯定的に受け止められている。

性別でみると、女性は就労継続が 50.9％で男性（46.9％）を４ポイント上回っている。

前回調査と比べると、就労継続は男女とも約 15～17 ポイント増え、子育て期に就労を中断する働き方は約 13～14 ポイント、専業主婦志向の割合は約４～５ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、男女とも就業継続の割合は、今回調査の方が約７～12 ポイント低い。

全国調査と比べると、男女とも就労継続の割合は、今回調査の方が約 11～13 ポイント低い。

年代別でみると、就労継続は男女の 40 代以下と女性の 70 歳以上で５割を超えて高く、特に女性の 10・20 代では 58.1％と最も高い。子育て期に就労を中断する働き方は男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、男女とも賛成する人で子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の割合が高く、反対する人で就労継続の割合が高い。

図表１－18　女性が職業をもつことについての考え方［全体、年代別、性別役割分担意識別］

（%）

		標本数	女性は職業をもたない方がよい	結婚するまでは職業をもつ方がよい	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい	その他	わからない	無回答
全体		720	3	18	24	186	353	90	33	13
		100.0	0.4	2.5	3.3	25.8	49.0	12.5	4.6	1.8
年代別	男性:10・20代	35	－	－	2.9	22.9	51.4	20.0	2.9	－
	男性:30代	58	－	－	8.6	20.7	50.0	13.8	6.9	－
	男性:40代	55	－	5.5	3.6	21.8	50.9	10.9	7.3	－
	男性:50代	53	－	－	7.5	22.6	49.1	13.2	5.7	1.9
	男性:60代	87	－	3.4	3.4	33.3	49.4	4.6	2.3	3.4
	男性:70歳以上	52	1.9	9.6	－	40.4	32.7	7.7	3.8	3.8
	女性:10・20代	31	－	－	6.5	19.4	58.1	9.7	6.5	－
	女性:30代	46	－	－	2.2	23.9	54.3	15.2	4.3	－
	女性:40代	73	－	1.4	1.4	16.4	50.7	20.5	8.2	1.4
	女性:50代	76	2.6	1.3	－	25.0	44.7	18.4	6.6	1.3
	女性:60代	90	－	2.2	3.3	28.9	47.8	13.3	2.2	2.2
	女性:70歳以上	59	－	3.4	3.4	30.5	55.9	3.4	－	3.4
	無回答	5	－	20.0	－	－	40.0	20.0	－	20.0
性別役割分担意識別	男性:賛成	24	4.2	8.3	16.7	45.8	12.5	8.3	4.2	－
	男性:どちらかといえば賛成	67	－	7.5	10.4	49.3	19.4	7.5	4.5	1.5
	男性:どちらかといえば反対	103	－	2.9	2.9	27.2	56.3	8.7	1.9	－
	男性:反対	102	－	2.0	－	14.7	71.6	10.8	1.0	－
	男性:わからない	40	－	－	2.5	15.0	35.0	25.0	22.5	－
	女性:賛成	5	－	－	20.0	20.0	40.0	－	－	20.0
	女性:どちらかといえば賛成	58	1.7	5.2	6.9	60.3	19.0	6.9	－	－
	女性:どちらかといえば反対	138	0.7	2.2	1.4	21.7	56.5	13.0	3.6	0.7
	女性:反対	134	－	－	－	10.4	67.9	17.2	3.7	0.7
	女性:わからない	34	－	－	5.9	29.4	23.5	20.6	20.6	－
	無回答	15	－	－	－	20.0	13.3	6.7	－	60.0

第２章　子どもの育て方、教育について

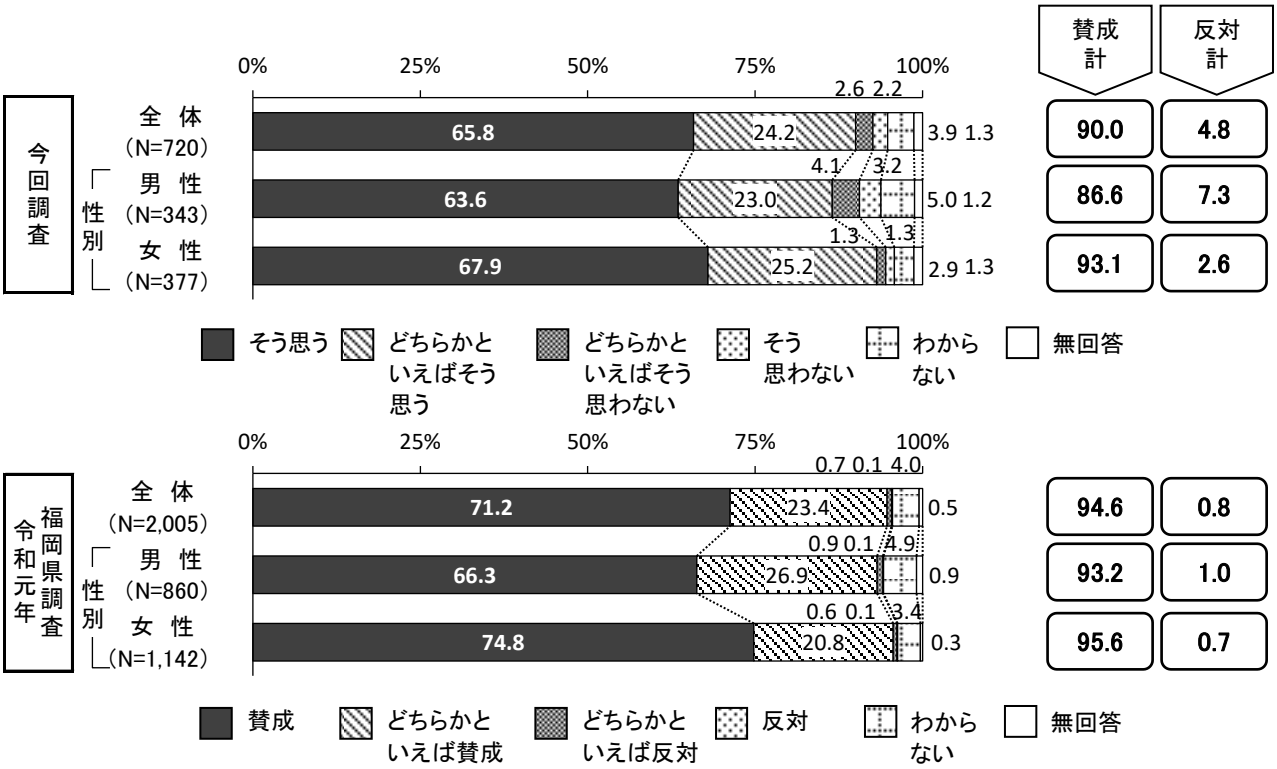
１．子どもの教育についての考え方

●経済的自立、生活自立ができるような子どもの育て方への支持は、ともに『賛成』が９割を超えるが、積極的な賛成は女性の方が男性よりも高い。
●「子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」について、男女とも年齢が高い層で『賛成』、年齢の低い層で『反対』の割合が高い傾向がみられるが、女性の 10・20 代では『賛成』の割合が『反対』を上回る。

問４．あなたは、子どもの教育についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

（ア）女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表２－１　女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ
［全体、性別］（福岡県調査比較）



子どものしつけや教育についての考え方をたずねた。「女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」については、「そう思う」が 65.8％、「どちらかといえばそう思う」が 24.2％とこれらを合計した『賛成』は 90.0％となっている。「そう思わない」（2.2％）と「どちらかといえばそう思わない」（2.6％）を合計した『反対』は 4.8％と圧倒的に『賛成』が多い。

性別でみると、『賛成』は男女とも９割前後と高いが、そのうち積極的な賛成である「そう思う」は女性が 67.9%に対し男性は 63.6%と、女性の方が 4.3 ポイント上回っている。

福岡県調査と比べると、女性の「そう思う」は今回調査の方が 6.9 ポイント低く、「どちらかといえばそう思う」が 4.4 ポイント高い。

年代別でみると、女性の 10・20 代で「そう思う」が 77.4%と最も高く、男性は 50 代で 75.5%と高くなっている。

同居家族別でみると、乳幼児から 18 歳未満の子どもと同居している男性では『反対』が１割前後から２割台半ばと同じ子どもと同居している女性に比べて高くなっている。

図表２－２　女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

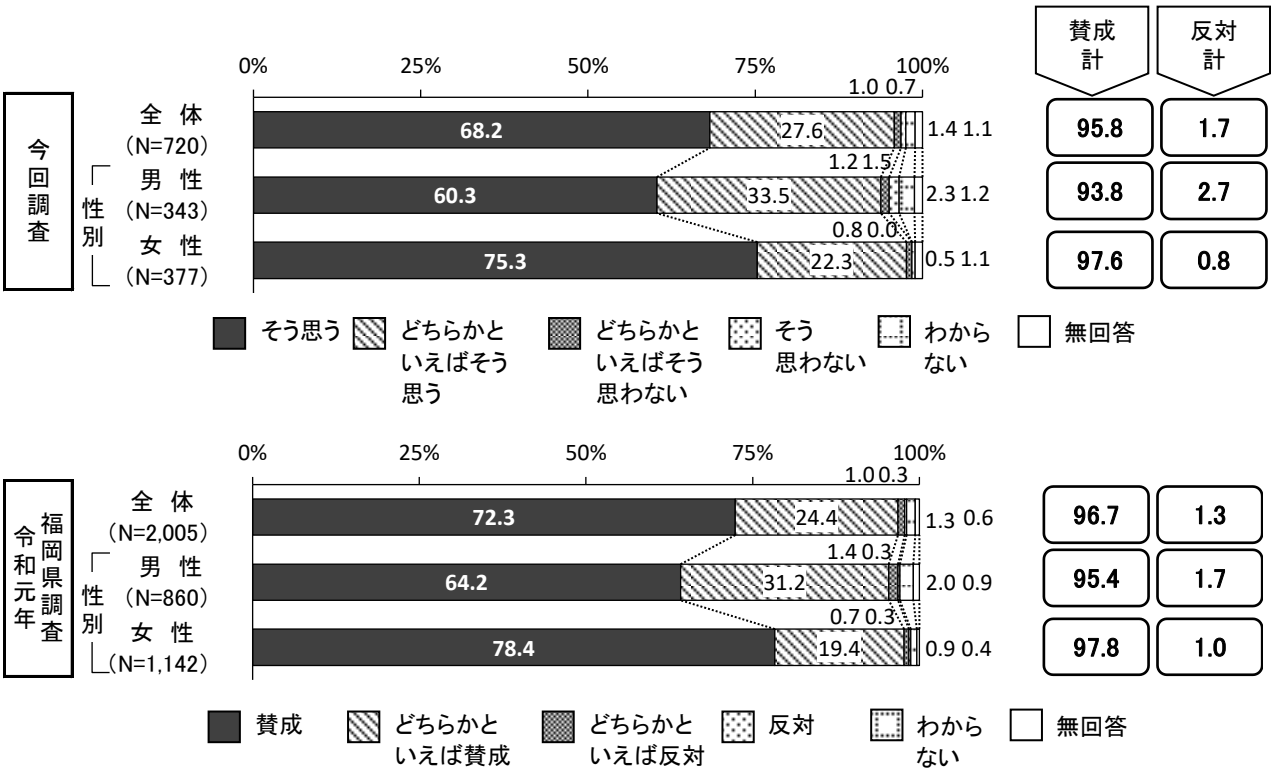
［全体、年代別、同居家族別］

(%)

		標本数	(ア)女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ							
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成	反対
全体		720	474	174	19	16	28	9	648	35
		100.0	65.8	24.2	2.6	2.2	3.9	1.3	90.0	4.8
年代別	男性:10・20代	35	65.7	14.3	14.3	－	5.7	－	80.0	14.3
	男性:30代	58	62.1	22.4	1.7	6.9	6.9	－	84.5	8.6
	男性:40代	55	61.8	27.3	1.8	1.8	7.3	－	89.1	3.6
	男性:50代	53	75.5	13.2	1.9	3.8	3.8	1.9	88.7	5.7
	男性:60代	87	58.6	29.9	2.3	3.4	3.4	2.3	88.5	5.7
	男性:70歳以上	52	61.5	25.0	7.7	1.9	1.9	1.9	86.5	9.6
	女性:10・20代	31	77.4	16.1	3.2	3.2	－	－	93.5	6.4
	女性:30代	46	65.2	26.1	－	2.2	6.5	－	91.3	2.2
	女性:40代	73	63.0	28.8	2.7	－	4.1	1.4	91.8	2.7
	女性:50代	76	69.7	25.0	2.6	1.3	1.3	－	94.7	3.9
	女性:60代	90	68.9	24.4	－	－	3.3	3.3	93.3	－
	女性:70歳以上	59	67.8	27.1	－	1.7	1.7	1.7	94.9	1.7
	無回答	5	60.0	－	－	20.0	20.0	－	60.0	20.0
同居家族別	男性:乳幼児	16	62.5	6.3	6.3	18.8	6.3	－	68.8	25.1
	男性:未就学児	29	69.0	17.2	6.9	6.9	－	－	86.2	13.8
	男性:小・中学生	61	70.5	14.8	4.9	4.9	4.9	－	85.3	9.8
	男性:上記以外の18歳未満の子ども	20	65.0	20.0	5.0	5.0	5.0	－	85.0	10.0
	男性:65歳以上の人	132	56.1	28.0	6.1	3.0	4.5	2.3	84.1	9.1
	男性:上記以外の人	213	68.1	22.1	3.8	1.9	3.8	0.5	90.2	5.7
	女性:乳幼児	19	68.4	21.1	5.3	－	5.3	－	89.5	5.3
	女性:未就学児	26	50.0	38.5	3.8	3.8	3.8	－	88.5	7.6
	女性:小・中学生	69	60.9	30.4	1.4	2.9	4.3	－	91.3	4.3
	女性:上記以外の18歳未満の子ども	34	67.6	26.5	2.9	－	2.9	－	94.1	2.9
	女性:65歳以上の人	160	71.3	21.3	0.6	1.3	3.1	2.5	92.6	1.9
	女性:上記以外の人	218	65.6	29.4	1.8	1.4	1.8	－	95.0	3.2
	無回答	58	62.1	24.1	－	5.2	5.2	3.4	86.2	5.2

（イ）男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ

図表２－３　男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ［全体、性別］（福岡県調査比較）



「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ」については「そう思う」が 68.2%、「どちらかといえばそう思う」が 27.6%とこれらを合計した『賛成』は 95.8%、「そう思わない」（0.7%）と「どちらかといえばそう思わない」（1.0%）を合計した『反対』は 1.7%とわずかで、経済的自立と同様に生活自立に対しても圧倒的に『賛成』が多い。

性別でみると、男女とも『賛成』は９割を超えているが、その内訳をみると「そう思う」は女性が 75.3%に対して男性は 60.3%と、女性の方が 15 ポイント高く、生活自立に対しては女性の方が積極的に賛成している。

福岡県調査と比べると、男女とも「そう思う」は今回調査の方が約３～４ポイント低い。

年代別でみると、男女とも 10・20 代で「そう思う」が８割を超えて高く、また男性の 30 代と女性の 30 代・40 代でも８割弱と高い。男女とも年代の高い層では「どちらかといえばそう思う」の割合が高い傾向がみられる。

同居家族別でみると、乳幼児から中学生までを除く 18 歳未満の子どもと同居している女性では「そう思う」が 85.3％と最も高い。

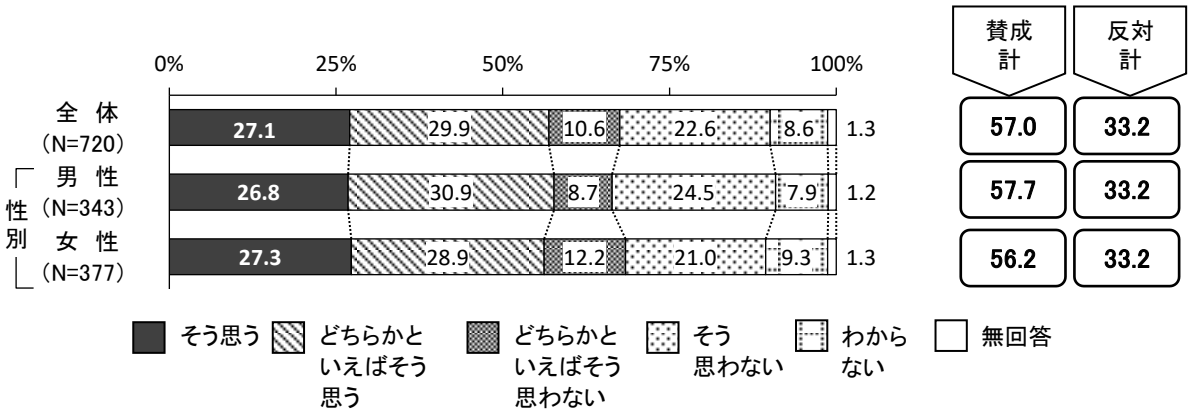
図表２－４　男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ［全体、年代別、同居家族別］

（%）

		標本数	(イ)男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ							
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成	反対
全体		720	491	199	7	5	10	8	690	12
		100.0	68.2	27.6	1.0	0.7	1.4	1.1	95.8	1.7
年代別	男性:10・20代	35	82.9	17.1	－	－	－	－	100.0	－
	男性:30代	58	79.3	15.5	－	3.4	1.7	－	94.8	3.4
	男性:40代	55	67.3	25.5	1.8	－	5.5	－	92.8	1.8
	男性:50代	53	60.4	34.0	－	1.9	1.9	1.9	94.4	1.9
	男性:60代	87	48.3	46.0	1.1	－	2.3	2.3	94.3	1.1
	男性:70歳以上	52	36.5	53.8	3.8	3.8	－	1.9	90.3	7.6
	女性:10・20代	31	87.1	12.9	－	－	－	－	100.0	－
	女性:30代	46	78.3	19.6	－	－	2.2	－	97.9	－
	女性:40代	73	79.5	17.8	1.4	－	－	1.4	97.3	1.4
	女性:50代	76	76.3	23.7	－	－	－	－	100.0	－
	女性:60代	90	74.4	22.2	－	－	1.1	2.2	96.6	－
	女性:70歳以上	59	61.0	33.9	3.4	－	－	1.7	94.9	3.4
	無回答	5	80.0	－	－	－	20.0	－	80.0	－
同居家族別	男性:乳幼児	16	75.0	18.8	－	6.3	－	－	93.8	6.3
	男性:未就学児	29	69.0	27.6	－	3.4	－	－	96.6	3.4
	男性:小・中学生	61	75.4	23.0	－	1.6	－	－	98.4	1.6
	男性:上記以外の18歳未満の子ども	20	75.0	15.0	－	5.0	5.0	－	90.0	5.0
	男性:65歳以上の人	132	56.8	34.8	3.0	0.8	2.3	2.3	91.6	3.8
	男性:上記以外の人	213	65.3	31.5	－	1.9	0.9	0.5	96.8	1.9
	女性:乳幼児	19	78.9	10.5	5.3	－	5.3	－	89.4	5.3
	女性:未就学児	26	69.2	30.8	－	－	－	－	100.0	－
	女性:小・中学生	69	76.8	23.2	－	－	－	－	100.0	－
	女性:上記以外の18歳未満の子ども	34	85.3	14.7	－	－	－	－	100.0	－
	女性:65歳以上の人	160	75.0	21.3	1.3	－	0.6	1.9	96.3	1.3
	女性:上記以外の人	218	77.1	21.6	0.5	－	0.5	0.5	98.7	0.5
	無回答	58	56.9	36.2	－	－	5.2	1.7	93.1	－

（ウ）子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい

図表２－５　子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい［全体、性別］



「子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」ことについては「そう思う」が 27.1%、「どちらかといえばそう思う」が 29.9%とこれらを合計した『賛成』は 57.0%、「そう思わない」（22.6%）と「どちらかといえばそう思わない」（10.6%）を合計した『反対』は 33.2%と『賛成』の方が 23.8 ポイント上回っている。

性別でみると、男女とも同様の結果となっている。

年代別でみると、男女とも年齢が高い層で『賛成』、年齢の低い層で『反対』の割合が高い傾向がみられるが、女性の 10・20 代では『賛成』が 48.4%、『反対』が 38.7%と『賛成』の方が高い。

同居家族別でみると、乳幼児と同居している男女は『反対』の割合が５割を超えて『賛成』を上回っている。また、未就学児から 18 歳未満の子どもと同居している男性でも『反対』の割合が『賛成』を上回っているが、同じ子どもと同居している女性の場合は『賛成』が『反対』を上回っている。

図表２－６　子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい

［全体、年代別、同居家族別］

(%)

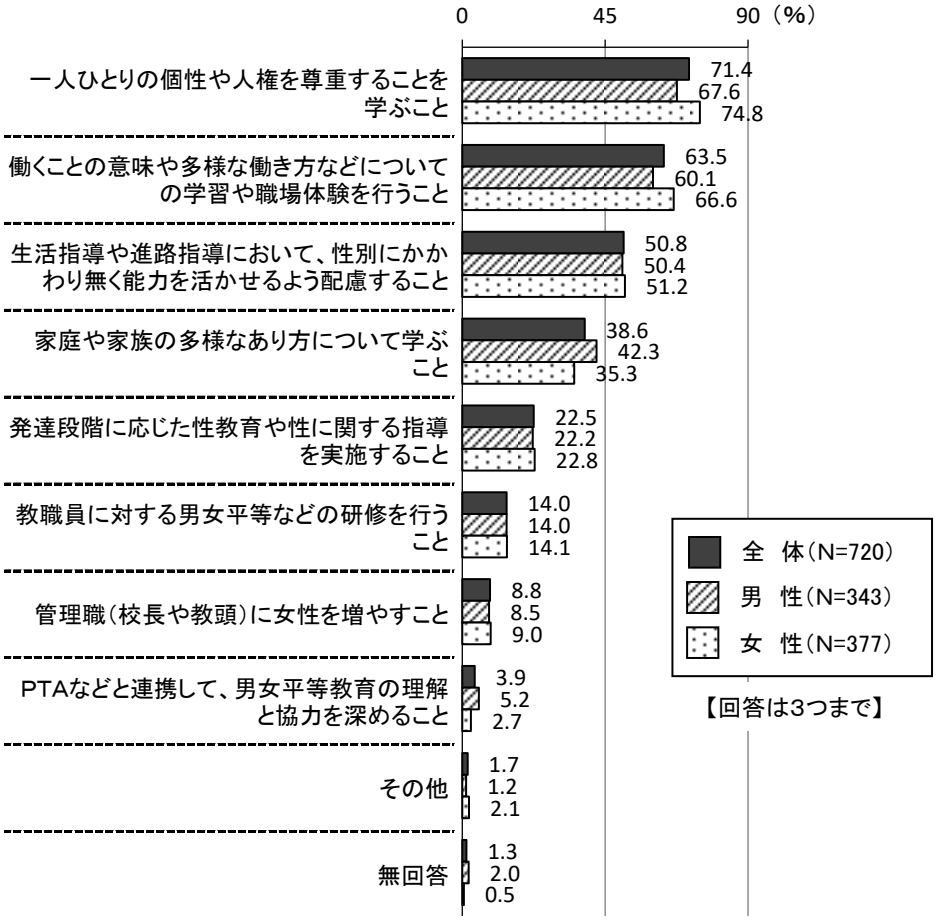
		標本数	(ウ)子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい							
			そう思う	どちらかというとそう思う	どちらかというとそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成	反対
全体		720	195	215	76	163	62	9	410	239
		100.0	27.1	29.9	10.6	22.6	8.6	1.3	57.0	33.2
年代別	男性:10・20代	35	20.0	14.3	11.4	40.0	14.3	－	34.3	51.4
	男性:30代	58	24.1	15.5	13.8	34.5	12.1	－	39.6	48.3
	男性:40代	55	21.8	25.5	12.7	27.3	12.7	－	47.3	40.0
	男性:50代	53	24.5	35.8	5.7	30.2	1.9	1.9	60.3	35.9
	男性:60代	87	33.3	40.2	3.4	17.2	3.4	2.3	73.5	20.6
	男性:70歳以上	52	30.8	46.2	9.6	7.7	3.8	1.9	77.0	17.3
	女性:10・20代	31	16.1	32.3	9.7	29.0	12.9	－	48.4	38.7
	女性:30代	46	10.9	32.6	19.6	23.9	13.0	－	43.5	43.5
	女性:40代	73	16.4	21.9	13.7	31.5	15.1	1.4	38.3	45.2
	女性:50代	76	27.6	28.9	13.2	21.1	9.2	－	56.5	34.3
	女性:60代	90	30.0	33.3	11.1	14.4	7.8	3.3	63.3	25.5
	女性:70歳以上	59	54.2	25.4	6.8	11.9	－	1.7	79.6	18.7
	無回答	5	40.0	20.0	－	－	40.0	－	60.0	－
同居家族別	男性:乳幼児	16	12.5	18.8	－	56.3	12.5	－	31.3	56.3
	男性:未就学児	29	24.1	17.2	20.7	37.9	－	－	41.3	58.6
	男性:小・中学生	61	14.8	23.0	16.4	39.3	6.6	－	37.8	55.7
	男性:上記以外の18歳未満の子ども	20	15.0	30.0	5.0	45.0	5.0	－	45.0	50.0
	男性:65歳以上の人	132	29.5	31.1	9.8	19.7	7.6	2.3	60.6	29.5
	男性:上記以外の人	213	23.9	30.5	9.9	28.6	6.6	0.5	54.4	38.5
	女性:乳幼児	19	－	10.5	36.8	31.6	21.1	－	10.5	68.4
	女性:未就学児	26	19.2	26.9	19.2	23.1	11.5	－	46.1	42.3
	女性:小・中学生	69	24.6	31.9	10.1	27.5	5.8	－	56.5	37.6
	女性:上記以外の18歳未満の子ども	34	26.5	26.5	11.8	26.5	8.8	－	53.0	38.3
	女性:65歳以上の人	160	28.8	26.3	10.0	21.9	10.6	2.5	55.1	31.9
	女性:上記以外の人	218	23.4	31.2	13.8	21.6	9.6	0.5	54.6	35.4
	無回答	58	34.5	36.2	5.2	15.5	6.9	1.7	70.7	20.7

２．男女共同参画を進めるために学校教育の場で力を入れること

●男女共同参画を進めるために学校教育の場で力を入れることは「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が７割強、「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が６割強、「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」が約５割で上位３位。

問５．これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○印は３つまで）

図表２－７　社会で男女共同参画を進めるために学校教育の場で力を入れること
［全体、性別］



これからの社会で男女共同参画を進めていくために、学校教育の場で力を入れることは「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が 71.4%で最も高く、次いで「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が 63.5%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」が 50.8%で上位にあげられている。

性別でみると、上位２位にあげられた項目は女性の方が７ポイント前後高く、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」（男性 42.3%、女性 35.3%）は男性の方が７ポイント高い。

年代別でみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は女性の 40 代を除く年代、男性の 10・20 代と男性の 50 代と 60 代で７割を超えて高い。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は男女とも 70 歳以上で７割を超え、「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」は年齢の高い層で６割を超えて他の年代よりも高くなっている。「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」や「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は男女の年齢の低い層で割合が高い傾向がみられる。

図表２－８　社会で男女共同参画を進めるために学校教育の場で力を入れること

［全体、年代別］

(%)

		標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと	発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること	PTAなどと連携して、男女平等教育の理解と協力を深めること	働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと	管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと	教職員に対する男女平等などの研修を行うこと	その他	無回答
全体		720	514	162	278	366	28	457	63	101	12	9
		100.0	71.4	22.5	38.6	50.8	3.9	63.5	8.8	14.0	1.7	1.3
年代別	男性:10・20代	35	74.3	31.4	51.4	40.0	2.9	60.0	8.6	14.3	－	－
	男性:30代	58	55.2	37.9	46.6	43.1	5.2	58.6	10.3	15.5	－	－
	男性:40代	55	61.8	21.8	49.1	36.4	5.5	50.9	7.3	12.7	3.6	1.8
	男性:50代	53	75.5	11.3	47.2	52.8	3.8	66.0	5.7	15.1	－	1.9
	男性:60代	87	77.0	14.9	39.1	58.6	4.6	57.5	12.6	12.6	－	2.3
	男性:70歳以上	52	63.5	21.2	25.0	65.4	9.6	73.1	3.8	15.4	3.8	1.9
	女性:10・20代	31	77.4	29.0	41.9	38.7	－	64.5	16.1	16.1	－	－
	女性:30代	46	73.9	30.4	37.0	37.0	－	67.4	13.0	15.2	4.3	－
	女性:40代	73	69.9	26.0	49.3	45.2	2.7	67.1	12.3	11.0	1.4	1.4
	女性:50代	76	76.3	19.7	38.2	51.3	5.3	67.1	1.3	14.5	2.6	－
	女性:60代	90	77.8	17.8	28.9	60.0	3.3	62.2	7.8	17.8	1.1	－
	女性:70歳以上	59	76.3	20.3	20.3	61.0	1.7	71.2	10.2	8.5	3.4	1.7
	無回答	5	－	40.0	20.0	60.0	－	40.0	－	20.0	－	40.0

第３章　家庭生活について

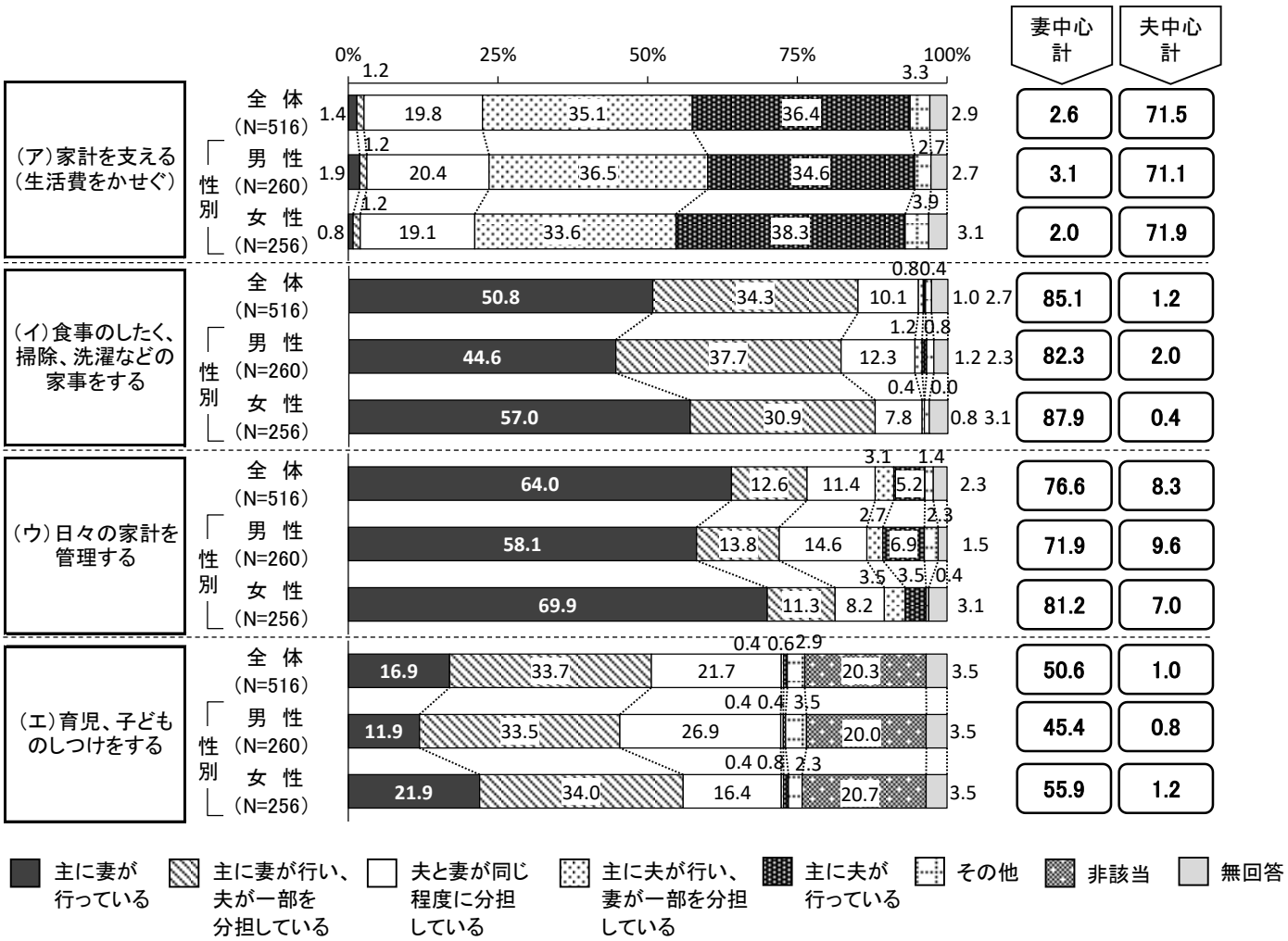
１．家庭内の役割分担の状況

●家庭内の仕事で『夫中心』が高いのは「家計を支える」が約７割。
●『妻中心』が高いのは「家事」が８割台半ば、「家計の管理」が７割台半ば、「育児、子どものしつけ」が約５割、「育成会などの地域活動」が約４割、「親の世話」が２割台半ば。
●「子どもの進学目標の決定」「高額商品の購入決定」「家庭内問題の最終的決定」は「同じ程度に分担」が４割台と高いが、子どもについては『妻中心』、高額商品の購入や家庭内の問題の最終決定は『夫中心』の割合が２番目に高い。

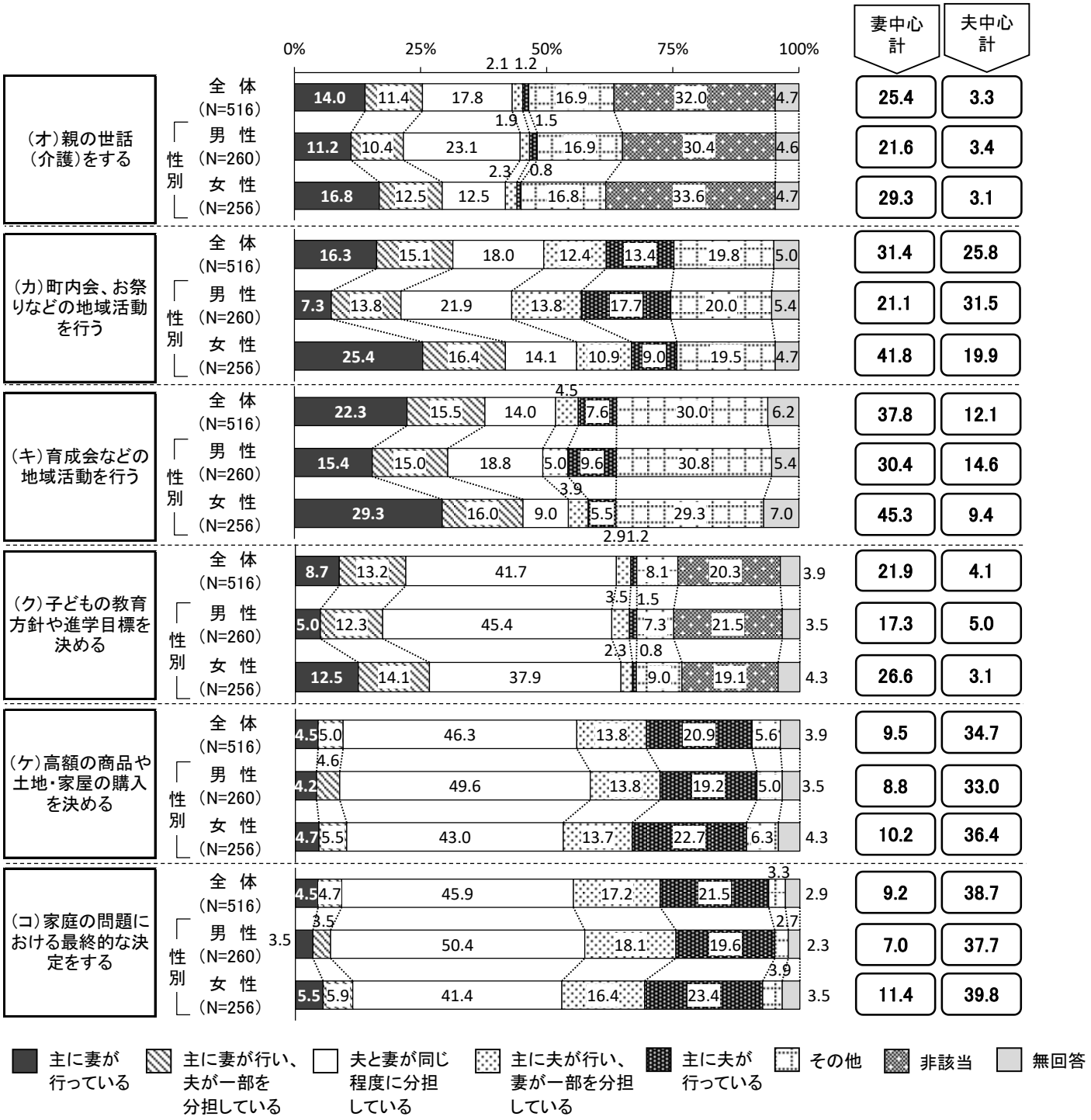
【現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方におたずねします】

問６．あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。（ア）～（コ）の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。
（○印はそれぞれ１つ）

図表３－１（１）家庭内の役割分担の状況［全体、性別］



図表３－１（２）家庭内の役割分担の状況［全体、性別］



現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している人に、家庭内での仕事に関する10の項目について、５段階でたずねた。

「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」との合計を『妻中心』、「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」との合計を『夫中心』、「夫と妻が同じ程度に分担している」を「同じ程度に分担」とする。

「家計を支える（生活費をかせぐ）」は『夫中心』が 71.5％と 10 分野中最も高く、「同じ程度に分担」は 19.8％、『妻中心』は 2.6％となっており、家計を支えるのは、夫の役割となっていることがわかる。反対に「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」や「日々の家計を管理する」は『妻中心』の割合が各々85.1％、76.6％と高く、家計を支える役割が夫に偏っていたが、それ以上に家事や日々の家計の管理は妻に偏っている。その他「育児、子どものしつけをする」「親の世話（介護）をする」「育成会などの地域活動を行う」なども『主に妻』の割合が２割台半ばから５割と「同じ程度に分担」よりも高く、妻の役割となっている場合が多い。

「町内会、お祭りなどの地域活動を行う」は『妻中心』31.4％、『夫中心』25.8％、「同じ程度に分担」18.0％と比較的分散されている。

「子どもの教育方針や進学目標を決める」「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」などは「同じ程度に分担」の割合が４割台半ばと他の分野に比べて高いが、「子どもの教育方針や進学目標を決める」は『妻中心』が２割強、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」は『夫中心』が３割台半ばから４割弱と２番目に高く、重要な経済的決定は夫と妻が同じ程度に分担して行う場合がありながらも、子どもに関しては主に妻、高額商品の購入や家庭問題の最終的な決定は主に夫が担う場合が多いようである。

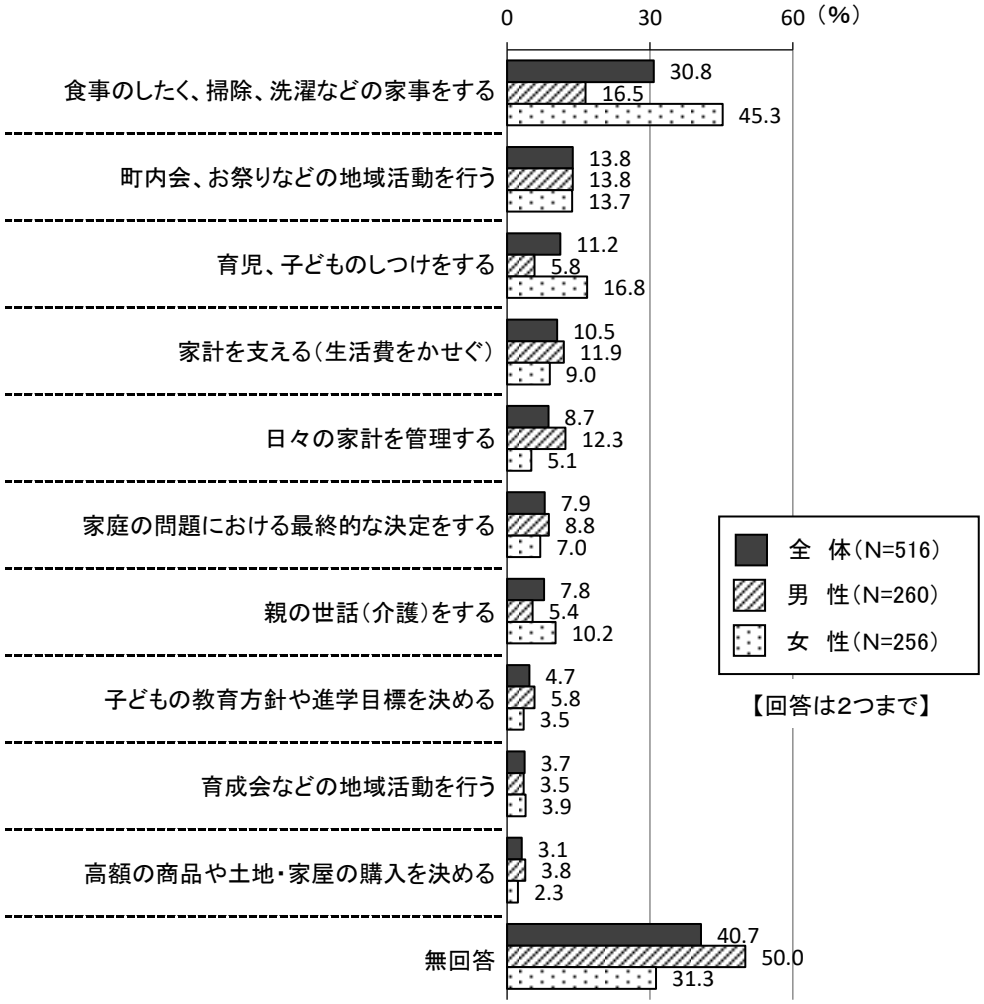
性別でみると、すべての分野において「同じ程度に分担」の割合は男性の方が女性よりも高い。「家計を支える（生活費をかせぐ）」「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」などは、『夫中心』の中でも「主に夫が行っている」の割合が男性よりも女性の方が高く、女性において夫の役割と認識されているようである。その他の分野については、『妻中心』の割合が女性の方が男性よりも高く、特に「主に妻が行っている」の割合は女性の方が高い。女性において家事や日々の家計の管理、育児、介護、地域活動、子どもの教育方針などは妻が行っているとの認識が強いようである。

２．配偶者にもっとしてほしいこと

●配偶者にもっとしてほしいことは、女性は「家事」、「育児、子どものしつけ」、「町内会、お祭りなどの地域活動」、「親の世話」。いずれも女性が「主に妻が行っている」との回答が高かったもの。

問６．また、あなたが、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。問６の（ア）～（コ）のうち、主なものを２つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

図表３－２　配偶者にもっとしてほしいこと［全体、性別］



配偶者にもっとしてほしいことは「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」が 30.8%と最も高い。

性別でみると、女性は「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」が 45.3%と圧倒的に高く、次いで「育児、子どものしつけをする」が 16.8%、「町内会、お祭りなどの地域活動を行う」が 13.7%、「親の世話（介護）をする」が 10.2%といずれも女性が「主に妻が行っている」との回答が高かったものが上位にあげられている。「無回答」が男性は 50.0%、女性は 31.3%あるが、これは配偶者にもっとしてほしいことがなかった人と思われる。

年代別でみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は男性の 10・20 代で 41.7％と最も高く、「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」は女性のいずれの年代でも４割前後から５割を超えて高い。「育児、子どものしつけをする」は女性の 30 代以下、「親の世話（介護）をする」は女性の 40 代と 50 代、「町内会、お祭りなどの地域活動を行う」は女性の 60 代と男性の 40 代、70 歳以上で他の年代に比べて割合が高い。

配偶関係別でみると、女性の既婚で「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「育児、子どものしつけをする」「親の世話（介護）をする」などが男性の既婚より高く、特に共働きの女性で割合が高くなっている。

同居家族別でみると、18 歳未満の子どもと同居している女性で「育児、子どものしつけをする」の割合が高く、特に未就学児と同居の場合 47.8％と最も高い。

図表３－３　配偶者にもっとしてほしいこと［全体、年代別、配偶関係別、同居家族別］

（％）

		標本数	家計を支える（生活費を稼ぐ）	食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする	日々の家計を管理する	育児、子どものしつけをする	親の世話（介護）をする	町内会、お祭りなどの地域活動を行う	育成会などの地域活動を行う	子どもの教育方針や進学目標を決める	高額の商品や土地・家屋の購入を決める	家庭の問題における最終的な決定をする	無回答
全体		516	54	159	45	58	40	71	19	24	16	41	210
		100.0	10.5	30.8	8.7	11.2	7.8	13.8	3.7	4.7	3.1	7.9	40.7
年代別	男性:10・20代	12	41.7	25.0	－	8.3	－	16.7	8.3	－	－	－	41.7
	男性:30代	45	13.3	24.4	13.3	11.1	2.2	8.9	2.2	－	4.4	4.4	53.3
	男性:40代	37	10.8	18.9	8.1	5.4	5.4	21.6	2.7	5.4	5.4	8.1	40.5
	男性:50代	42	19.0	11.9	14.3	4.8	7.1	4.8	－	16.7	2.4	7.1	45.2
	男性:60代	73	9.6	15.1	15.1	5.5	6.8	9.6	5.5	2.7	1.4	8.2	57.5
	男性:70歳以上	49	2.0	12.2	12.2	2.0	6.1	26.5	4.1	8.2	8.2	18.4	46.9
	女性:10・20代	11	18.2	45.5	9.1	45.5	9.1	－	－	－	9.1	9.1	18.2
	女性:30代	31	3.2	54.8	9.7	32.3	6.5	3.2	6.5	6.5	－	3.2	25.8
	女性:40代	49	14.3	42.9	6.1	20.4	10.2	16.3	－	6.1	－	4.1	28.6
	女性:50代	50	8.0	44.0	4.0	14.0	24.0	12.0	2.0	2.0	－	6.0	32.0
	女性:60代	72	8.3	48.6	4.2	15.3	5.6	25.0	6.9	1.4	5.6	5.6	27.8
	女性:70歳以上	42	7.1	38.1	2.4	－	4.8	4.8	4.8	4.8	2.4	16.7	45.2
	無回答	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
配偶関係別	男性:結婚したことはない	18	11.1	27.8	5.6	27.8	11.1	11.1	5.6	－	－	5.6	44.4
	男性:既婚(共働きである)	115	11.3	16.5	12.2	4.3	3.5	12.2	3.5	5.2	3.5	7.8	53.9
	男性:既婚(共働きでない)	116	12.9	15.5	13.8	4.3	6.9	17.2	3.4	5.2	5.2	9.5	45.7
	男性:死別	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－	100.0	－
	男性:離別	3	33.3	－	33.3	－	－	－	－	33.3	－	33.3	33.3
	男性:その他	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	女性:結婚したことはない	10	10.0	20.0	10.0	10.0	10.0	－	－	－	－	－	60.0
	女性:既婚(共働きである)	120	10.0	50.8	3.3	21.7	13.3	14.2	3.3	3.3	0.8	4.2	25.0
	女性:既婚(共働きでない)	114	7.0	44.7	7.0	14.0	7.9	15.8	5.3	3.5	4.4	11.4	30.7
	女性:死別	8	25.0	12.5	－	－	－	－	－	12.5	－	－	75.0
	女性:離別	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	女性:その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	9	－	22.2	－	－	－	－	－	11.1	－	－	77.8
同居家族別	男性:乳幼児	16	37.5	12.5	18.8	6.3	－	6.3	－	－	6.3	12.5	37.5
	男性:未就学児	28	14.3	17.9	10.7	7.1	－	10.7	3.6	3.6	－	－	64.3
	男性:小・中学生	60	15.0	20.0	10.0	6.7	－	13.3	5.0	5.0	1.7	1.7	53.3
	男性:上記以外の18歳未満の子ども	19	5.3	5.3	21.1	5.3	5.3	15.8	5.3	10.5	10.5	5.3	47.4
	男性:65歳以上の人	85	3.5	9.4	10.6	7.1	10.6	21.2	4.7	7.1	4.7	11.8	49.4
	男性:上記以外の人	181	16.0	19.3	13.3	4.4	3.3	10.5	3.3	7.2	3.3	7.2	48.6
	女性:乳幼児	19	5.3	57.9	－	36.8	－	5.3	－	5.3	－	5.3	31.6
	女性:未就学児	23	4.3	43.5	13.0	47.8	4.3	8.7	4.3	8.7	4.3	4.3	21.7
	女性:小・中学生	54	7.4	42.6	9.3	29.6	9.3	16.7	5.6	11.1	－	3.7	25.9
	女性:上記以外の18歳未満の子ども	27	22.2	40.7	7.4	29.6	11.1	11.1	－	11.1	－	3.7	22.2
	女性:65歳以上の人	108	6.5	49.1	4.6	10.2	7.4	16.7	5.6	1.9	4.6	9.3	31.5
	女性:上記以外の人	165	9.1	46.7	6.1	21.8	13.9	13.3	3.6	4.2	0.6	6.1	27.3
	無回答	22	4.5	13.6	9.1	4.5	9.1	4.5	－	－	－	9.1	68.2

第４章　職業について

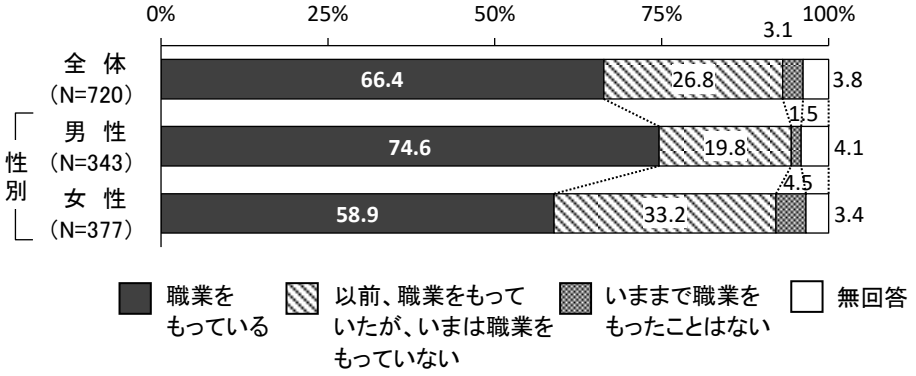
１．就業状況

（１）現在の就業状況

●現在、「職業をもっている」男性は７割台半ば、女性は約６割で男性が多い。
●「以前、職業をもっていたが、いまはもっていない」男性は約２割、女性は３割強で女性が多い。

問７．あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか。（○印は１つ）

図表４－１　現在の就業状況［全体、性別］



現在の職業（収入のある仕事）の有無について、「職業をもっている」が 66.4%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が 26.8%、「いままで職業をもったことはない」が 3.1%となっている。

性別でみると、「職業をもっている」は男性が 74.6%で女性（58.9%）を 15.7 ポイント上回り、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は女性が 33.2%で男性（19.8%）を 13.4 ポイント上回っている。

年代別でみると、「職業をもっている」は男性の 30 代、40 代、50 代で９割を超えて高い。女性は 30 代で 80.4%、40 代で 79.5%となっている。「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は女性の 60 代以上で５割を超えて高く、30 代と 50 代でも約２割ある。

図表４－２　現在の就業状況［全体、年代別］

(%)

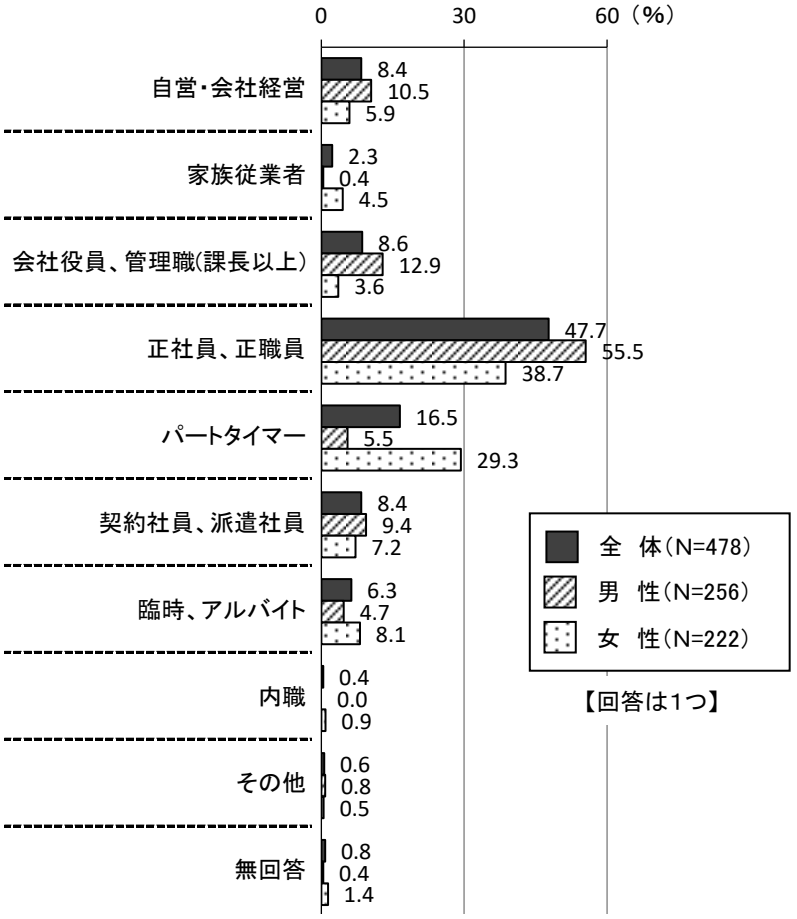
		標本数	職業をもっている	以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	いままで職業をもったことはない	無回答
全体		720	478	193	22	27
		100.0	66.4	26.8	3.1	3.8
年代別	男性:10･20代	35	80.0	5.7	11.4	2.9
	男性:30代	58	98.3	－	1.7	－
	男性:40代	55	90.9	5.5	－	3.6
	男性:50代	53	98.1	1.9	－	－
	男性:60代	87	66.7	29.9	－	3.4
	男性:70歳以上	52	21.2	67.3	－	11.5
	女性:10･20代	31	64.5	9.7	25.8	－
	女性:30代	46	80.4	19.6	－	－
	女性:40代	73	79.5	16.4	1.4	2.7
	女性:50代	76	77.6	19.7	2.6	－
	女性:60代	90	36.7	54.4	4.4	4.4
	女性:70歳以上	59	25.4	61.0	3.4	10.2
	無回答	5	－	40.0	－	60.0

（２）就業形態

●就業形態は「正社員、正職員」は男性５割台半ば、女性４割弱、「パートタイマー」は女性が約３割。
●「会社役員、管理職」「自営・会社経営」は男性が１割強と多い。

問７付問１．**〔問７で１．「職業をもっている」と答えた方に〕**
あなたの就業形態は次のどれですか。（○印は１つ）

図表４－３　就業形態［全体、性別］



現在、職業をもっている人の就業形態は「正社員、正職員」が 47.7%と最も多く、次いで「パートタイマー」が 16.5%、「会社役員、管理職（課長以上)」が 8.6%、「自営・会社経営」が 8.4%、「契約社員、派遣社員」が 8.4%などとなっている。

性別でみると、「正社員、正職員」は男性が 55.5%と女性（38.7%）を 16.8 ポイント上回り、「パートタイマー」は女性が 29.3%で男性（5.5%）を 23.8 ポイントと大きく上回っている。「会社役員、管理職（課長以上)」（男性 12.9%、女性 3.6%）や「自営・会社経営」（同 10.5%、5.9%）などは男性で１割強あり、女性よりも割合が高く、全体の割合は低いが「家族従業者」（同 0.4%、4.5%）は女性の方が多い。

配偶関係別でみると、男性の共働きでは「正社員、正職員」が 59.1％と高い。女性の共働きでは「正社員、正職員」（37.5％）と「パートタイマー」（36.7％）が３割台半ばで同程度となっている。

図表４－４　就業形態［全体、配偶関係別］

（％）

		標本数	自営・会社経営	家族従業者	会社役員、管理職（課長以上）	正社員、正職員	パートタイマー	契約社員、派遣社員	臨時、アルバイト	内職	その他	無回答
全 体		478	40	11	41	228	79	40	30	2	3	4
		100.0	8.4	2.3	8.6	47.7	16.5	8.4	6.3	0.4	0.6	0.8
配偶関係別	男性:結婚したことはない	63	6.3	1.6	6.3	58.7	6.3	11.1	6.3	－	3.2	－
	男性:既婚(共働きである)	115	12.2	－	14.8	59.1	5.2	5.2	3.5	－	－	－
	男性:既婚(共働きでない)	62	9.7	－	14.5	48.4	4.8	14.5	6.5	－	－	1.6
	男性:死別	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	男性:離別	15	20.0	－	13.3	46.7	6.7	13.3	－	－	－	－
	男性:その他	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	女性:結婚したことはない	56	3.6	3.6	5.4	51.8	14.3	10.7	8.9	1.8	－	－
	女性:既婚(共働きである)	120	3.3	5.0	3.3	37.5	36.7	5.8	5.8	－	－	2.5
	女性:既婚(共働きでない)	10	20.0	10.0	－	－	40.0	－	20.0	10.0	－	－
	女性:死別	11	18.2	9.1	－	9.1	36.4	－	18.2	－	9.1	－
	女性:離別	21	14.3	－	4.8	47.6	14.3	14.3	4.8	－	－	－
	女性:その他	1	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	4	－	－	25.0	－	50.0	－	25.0	－	－	－

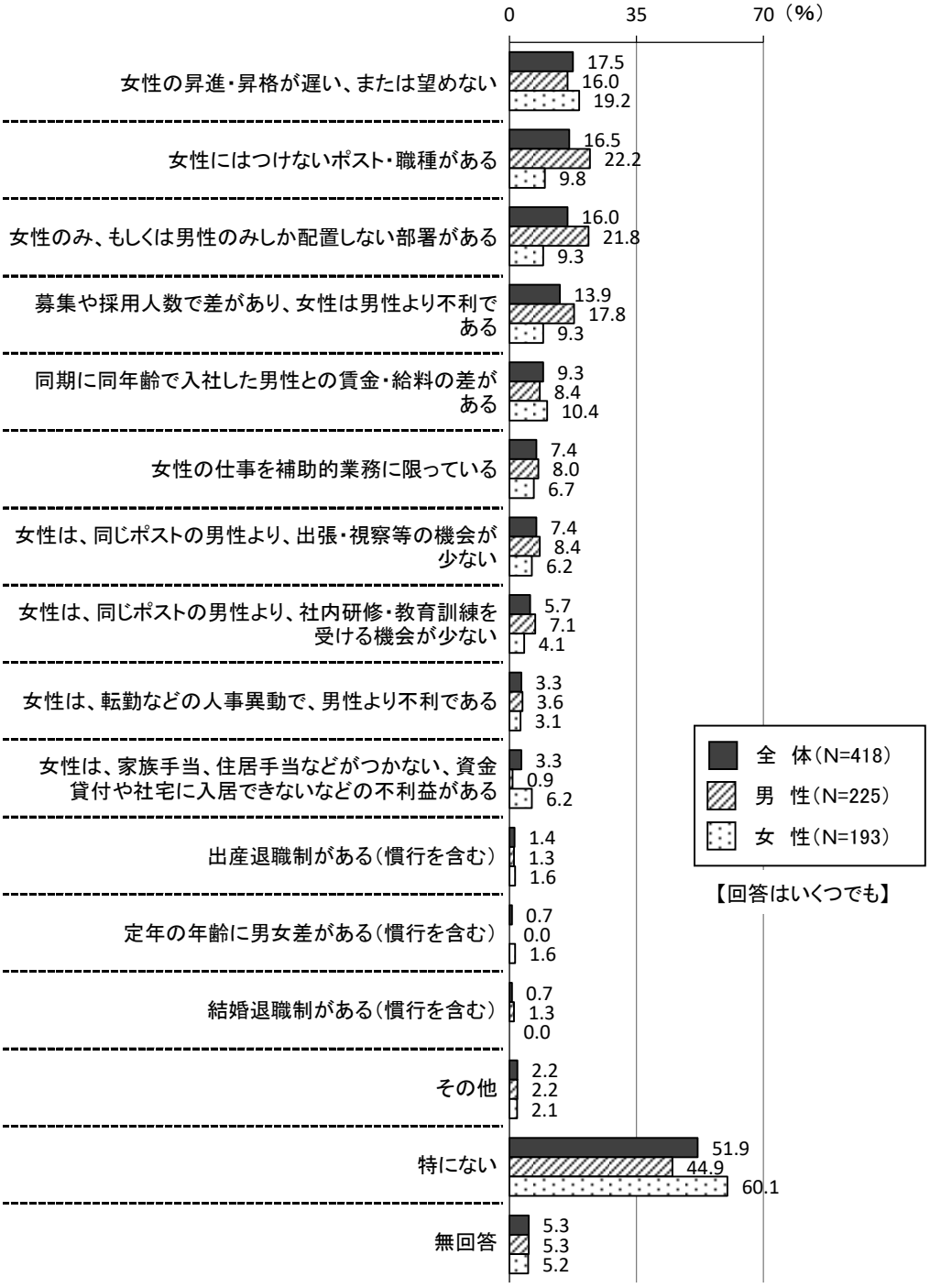
２．職場の女性にあてはまること

●職場における女性の就業環境は「特にない」が約５割。具体的な項目では「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」「女性にはつけないポスト・職種がある」「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」などが上位。

問７付問１－１．**〔問７付問１で３～７と答えた方に〕**

次にあげることがらの中で、現在のあなたの職場の女性にあてはまることがありますか。（○印はいくつでも）

図表４－５　職場の女性にあてはまるもの［全体、性別］



現在、雇用されている人に職場における女性の就業環境をたずねた。「特にない」が 51.9%で最も多かった。該当する具体的な項目では、「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」（17.5%）、「女性にはつけないポスト・職種がある」（16.5%）、「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」（16.0%）などが１割台半ばであげられている。

性別でみると、「特にない」（男性 44.9%、女性 60.1%）は女性の方が 15.2 ポイント高く、ほとんどの項目は男性の割合の方が女性よりも高い。特に「女性にはつけないポスト・職種がある」（同 22.2%、9.8%）や「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」（同 21.8%、9.3%）、「募集や採用人数で差があり、女性は男性より不利である」（同 17.8%、9.3%）などは男性の割合が２割前後と女性よりも約２倍高い。

女性では「女性は家族手当、住宅手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」（同 0.9%、6.2%）が男性よりも 5.3 ポイント高く、その他「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」「同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある」などが男性よりも割合がやや高い。女性は家族手当、社宅入居など待遇や昇進・昇格、賃金・給料での不利益について、男性は募集・採用やポスト・職種など雇い入れの体制や職域の制限に対して認識している。

就業形態別でみると、女性の正社員、正職員で「特にない」は 54.7%と他の形態と比べると低く、「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」（27.9%）や「同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある」（17.4%）、「女性にはつけないポスト・職種がある」（15.1%）など多岐にわたってあげられている。

図表４－６　職場の女性にあてはまるもの［全体、就業形態別］

(%)

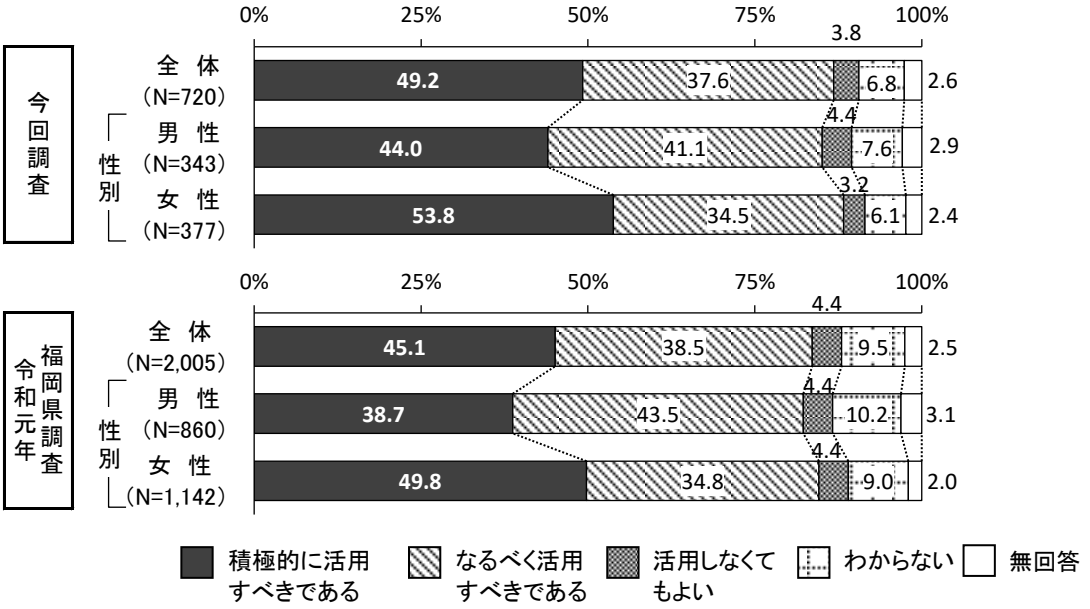
		標本数	募集や採用人数で差があり、女性は男性より不利である	女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある	女性の仕事を補助的業務に限っている	女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある	女性にはつけないポスト・職種がある	女性は、同じポストの男性より、社内研修・教育訓練を受ける機会が少ない	女性は、同じポストの男性より、出張・視察等の機会が少ない	女性は、転勤などの人事異動で、男性より不利である	定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）	結婚退職制がある（慣行を含む）	出産退職制がある（慣行を含む）	女性は、家族手当、住居手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある	その他	特にない	無回答
全体		418	58	73	39	31	67	69	24	31	14	3	3	6	14	9	217	22
		100.0	13.9	17.5	9.3	7.4	16.0	16.5	5.7	7.4	3.3	0.7	0.7	1.4	3.3	2.2	51.9	5.3
就業形態別	男性:会社役員、管理職	33	12.1	21.2	9.1	9.1	24.2	24.2	15.2	12.1	－	－	－	－	－	3.0	48.5	3.0
	男性:正社員、正職員	142	21.8	15.5	7.0	8.5	24.6	21.8	5.6	8.5	4.9	－	2.1	2.1	1.4	2.8	41.5	3.5
	男性:パートタイマー	14	7.1	21.4	14.3	－	7.1	7.1	－	－	－	－	－	－	－	－	64.3	14.3
	男性:契約社員、派遣社員	24	16.7	12.5	12.5	8.3	12.5	29.2	8.3	8.3	4.2	－	－	－	－	－	50.0	8.3
	男性:臨時、アルバイト	12	－	8.3	8.3	8.3	16.7	25.0	8.3	8.3	－	－	－	－	－	－	41.7	16.7
	女性:会社役員、管理職	8	12.5	37.5	12.5	－	37.5	12.5	12.5	12.5	－	－	－	－	－	－	62.5	－
	女性:正社員、正職員	86	10.5	27.9	17.4	9.3	9.3	15.1	7.0	10.5	7.0	3.5	－	－	9.3	2.3	54.7	2.3
	女性:パートタイマー	65	7.7	7.7	1.5	4.6	6.2	1.5	－	1.5	－	－	－	3.1	4.6	1.5	66.2	9.2
	女性:契約社員、派遣社員	16	6.3	18.8	12.5	6.3	6.3	12.5	－	－	－	－	－	－	6.3	6.3	50.0	6.3
	女性:臨時、アルバイト	18	11.1	11.1	5.6	5.6	11.1	11.1	5.6	5.6	－	－	－	5.6	－	－	72.2	5.6

３．男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて

●男性の育児休業・介護休業制度の活用について「積極的に活用すべきである」が約５割。男性の方が女性よりも約 10 ポイント低い。
●正社員、正職員では男女とも「積極的に活用すべきである」が５割を超えているが、会社役員、管理職では女性の６割強に対し、男性は約３割、「なるべく活用すべき」が約５割とやや消極的。

問８．育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

図表４－７　男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて
［全体、性別］（福岡県調査比較）



男性が育児休業、介護休業、子の看護休暇制度を活用することについてたずねた。「積極的に活用すべきである」が 49.2%で最も高く、次いで「なるべく活用すべきである」が 37.6%、「活用しなくてもよい」は 3.8%である。

性別でみると、女性は「積極的に活用すべきである」が 53.8%で男性（44.0%）よりも 9.8 ポイント高く、男性は「なるべく活用すべきである」が 41.1%で女性（34.5%）よりも 6.6 ポイント高くなっている。男性自身の方が消極的な結果となっている。

福岡県調査と比べると、男女とも「積極的に活用すべきである」は今回調査の方が約４～５ポイント高い。

年代別でみると、女性の 10・20 代で「積極的に活用すべきである」が 74.2%と最も高く、その他の年代でも５割前後の割合となっている。他方、男性の 10・20 代では「積極的に活用すべきである」が 48.6%であり、「わからない」が 14.3%と他の年代に比べて高くなっている。男性では 30 代と 40 代で「積極的に活用すべきである」が５割を超えて高い。

就業形態別でみると、正社員、正職員の「積極的に活用すべきである」は男性 52.1%、女性 57.0%と５割を超え、「なるべく活用すべきである」が３割台となっている。会社役員、管理職の「積極的に活用すべきである」は女性で 62.5%であるが、男性は 30.3%と「なるべく活用すべきである」（51.5%）の方が割合が高くなっている。

図表４－８　男性が育児休業・介護休業制度を活用することについて

［全体、年代別、就業形態別］

(%)

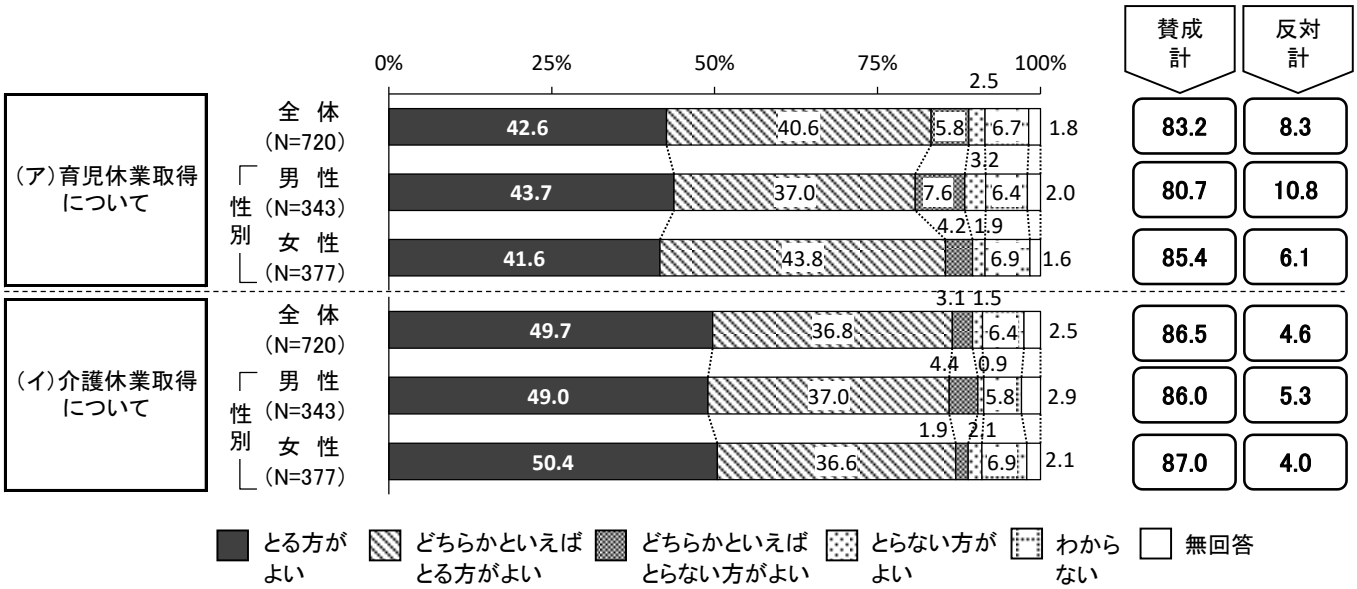
		標本数	積極的に活用すべきである	なるべく活用すべきである	活用しなくてもよい	わからない	無回答
全体		720	354	271	27	49	19
		100.0	49.2	37.6	3.8	6.8	2.6
年代別	男性:10･20代	35	48.6	31.4	2.9	14.3	2.9
	男性:30代	58	55.2	31.0	6.9	6.9	－
	男性:40代	55	52.7	29.1	5.5	9.1	3.6
	男性:50代	53	34.0	47.2	5.7	9.4	3.8
	男性:60代	87	43.7	48.3	1.1	4.6	2.3
	男性:70歳以上	52	30.8	53.8	5.8	5.8	3.8
	女性:10･20代	31	74.2	16.1	3.2	6.5	－
	女性:30代	46	50.0	32.6	6.5	4.3	6.5
	女性:40代	73	54.8	28.8	2.7	11.0	2.7
	女性:50代	76	53.9	38.2	3.9	3.9	－
	女性:60代	90	51.1	40.0	2.2	4.4	2.2
	女性:70歳以上	59	49.2	39.0	1.7	6.8	3.4
	無回答	5	40.0	40.0	－	－	20.0
就業形態別	男性:自営･会社経営	27	33.3	51.9	11.1	3.7	－
	男性:家族従業者	1	－	－	－	100.0	－
	男性:会社役員、管理職	33	30.3	51.5	9.1	9.1	－
	男性:正社員、正職員	142	52.1	35.9	3.5	7.0	1.4
	男性:パートタイマー	14	35.7	50.0	7.1	7.1	－
	男性:契約社員、派遣社員	24	45.8	33.3	－	8.3	12.5
	男性:臨時、アルバイト	12	50.0	41.7	8.3	－	－
	男性:内職	－	－	－	－	－	－
	男性:その他	2	－	－	－	100.0	－
	女性:自営･会社経営	13	53.8	23.1	15.4	7.7	－
	女性:家族従業者	10	80.0	20.0	－	－	－
	女性:会社役員、管理職	8	62.5	25.0	－	12.5	－
	女性:正社員、正職員	86	57.0	31.4	1.2	5.8	4.7
	女性:パートタイマー	65	53.8	32.3	3.1	10.8	－
	女性:契約社員、派遣社員	16	56.3	37.5	6.3	－	－
	女性:臨時、アルバイト	18	66.7	33.3	－	－	－
	女性:内職	2	50.0	－	－	50.0	－
	女性:その他	1	100.0	－	－	－	－
	無回答	246	45.5	41.5	3.3	5.7	4.1

４．男性が育児休業・介護休業制度を取得することについて

●男性が育児休業を取得することについて、男性自身の『賛成』は約８割、『反対』は約１割。
●男性が介護休業を取得することについて、男性自身の『賛成』は８割台半ば、『反対』約５％。介護休業の方が育児休業より『賛成』の割合は高い。

問９．あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

図表４－９　男性が育児休業・介護休業制度を取得することについて［全体、性別］



男性が育児休業・介護休業をとることについてたずねた。「育児休業」については「とる方がよい」が 42.6%、「どちらかといえばとる方がよい」が 40.6%でこれらをあわせた『賛成』は 83.2%となっている。「とらない方がよい」（2.5%）と「どちらかといえばとらない方がよい」（5.8%）をあわせた『反対』は 8.3%である。

性別でみると、「とる方がよい」（男性 43.7%、女性 41.6）は男性の方がやや高く、「どちらかといえばとる方がよい」（同 37.0%、43.8%）は女性の方が 6.8 ポイント高い。他方、『反対』の割合は男性が 10.8%と女性（6.1%）を 4.7 ポイント上回っている。

「介護休業」については「とる方がよい」は 49.7%、「どちらかといえばとる方がよい」は 36.8%で『賛成』は 86.5%である。「とらない方がよい」（1.5%）と「どちらかといえばとらない方がよい」（3.1%）をあわせた『反対』が 4.6%である。「育児休業」に比べて「とる方がよい」は介護休業の方が 7.1 ポイント高い。

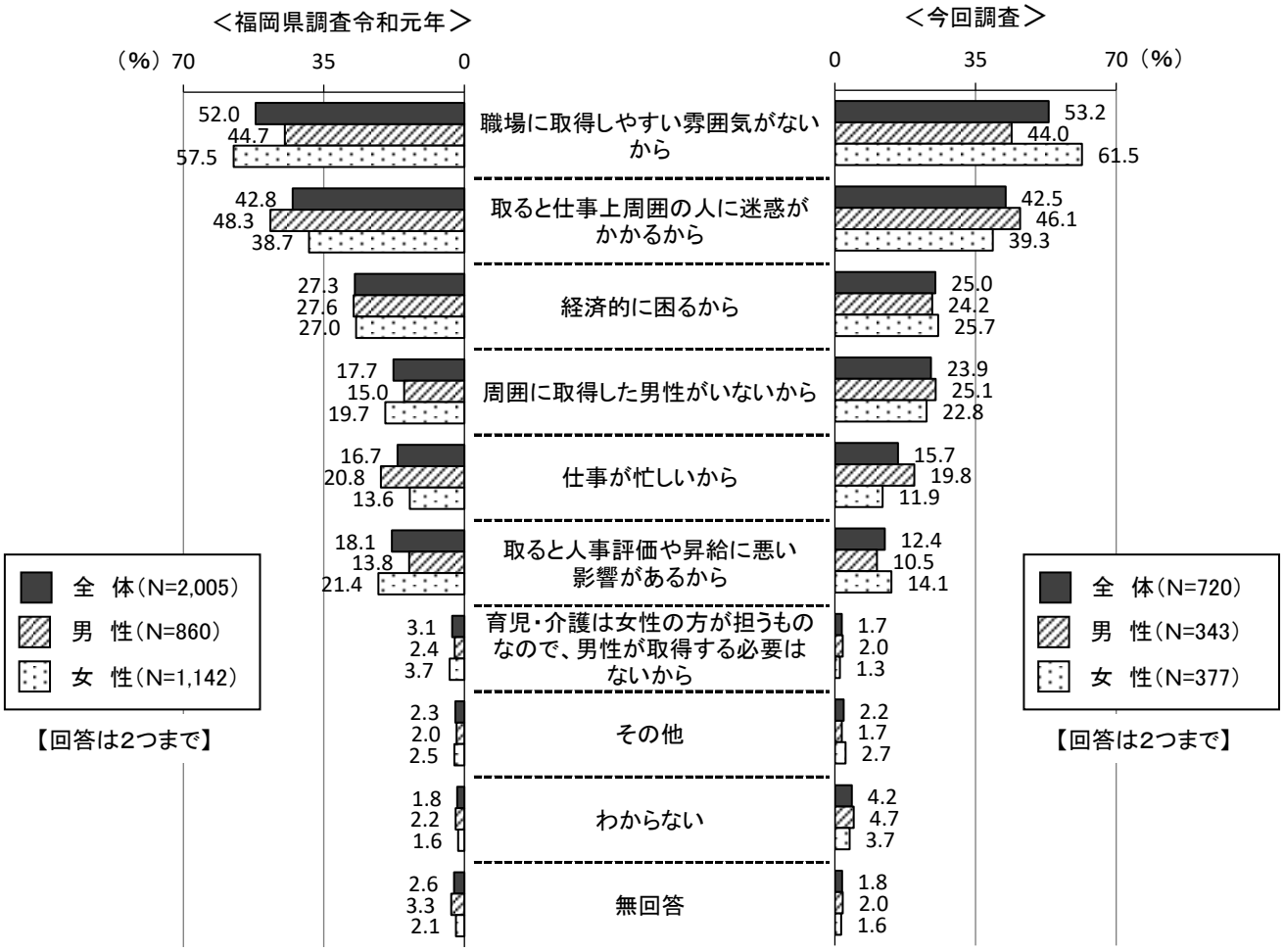
性別でみると、男女とも同程度の結果で大差はみられない。

５．男性が育児休業を取得しない（できない）理由

●男性の９割近くが育児休業を取得しない（できない）理由は、男性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」

問 10．女性の育児休業取得率は 81.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 12.65%（厚生労働省：2020 年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の９割近くが育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○印は２つまで）

図表４－10　男性が育児休業を取得しない（できない）理由［全体、性別］（福岡県調査比較）



男性の９割近くが育児休業などを取得しない（できない）理由をたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が 53.2%と最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 42.5%、「経済的に困るから」が 25.0%などとなっている。

性別でみると、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が 61.5%で最も高く、男性（44.0%）よりも 17.5 ポイント高い。男性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（男性 46.1%、女性 39.3%）が最も高く、女性より 6.8 ポイント高い。その他「仕事が忙しいから」（同 19.8%、11.9%）も女性よりも 7.9 ポイント高い。

福岡県調査と比べると、男性で「周囲に取得した男性がいないから」が今回調査の方が10.1ポイント高い。

就業形態別でみると、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男性のいずれの就業形態でも４割台あるが、会社役員、管理職では45.5%と最も高い。男性の正社員、正職員では「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が47.9%とパートタイマー（50.0%）に次いで高くなっている。

図表４－11　男性が育児休業を取得しない（できない）理由［全体、就業形態別］

(%)

		標本数	周囲に取得した男性がいないから	職場に取得しやすい雰囲気がないから	仕事が忙しいから	取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	経済的に困るから	育児・介護は女性の方が担うものなので、男性が取得する必要はないから	その他	わからない	無回答
全体		720	172	383	113	306	89	180	12	16	30	13
		100.0	23.9	53.2	15.7	42.5	12.4	25.0	1.7	2.2	4.2	1.8
就業形態別	男性:自営・会社経営	27	3.7	44.4	40.7	40.7	14.8	25.9	－	3.7	－	－
	男性:家族従業者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	男性:会社役員、管理職	33	30.3	39.4	21.2	45.5	6.1	30.3	6.1	－	－	－
	男性:正社員、正職員	142	28.9	47.9	17.6	42.3	12.0	30.3	1.4	2.8	1.4	0.7
	男性:パートタイマー	14	42.9	50.0	14.3	42.9	－	7.1	－	7.1	14.3	－
	男性:契約社員、派遣社員	24	33.3	29.2	29.2	41.7	12.5	16.7	－	－	8.3	8.3
	男性:臨時、アルバイト	12	41.7	25.0	16.7	41.7	16.7	25.0	8.3	－	－	8.3
	男性:内職	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	男性:その他	2	－	－	－	－	－	－	50.0	－	50.0	－
	女性:自営・会社経営	13	7.7	53.8	7.7	53.8	7.7	23.1	7.7	15.4	－	－
	女性:家族従業者	10	20.0	80.0	30.0	20.0	10.0	20.0	－	－	－	－
	女性:会社役員、管理職	8	12.5	25.0	37.5	50.0	12.5	50.0	－	－	－	－
	女性:正社員、正職員	86	20.9	60.5	12.8	38.4	14.0	31.4	－	4.7	3.5	2.3
	女性:パートタイマー	65	29.2	56.9	10.8	41.5	9.2	30.8	1.5	1.5	4.6	－
	女性:契約社員、派遣社員	16	43.8	50.0	18.8	25.0	6.3	18.8	6.3	6.3	6.3	－
	女性:臨時、アルバイト	18	16.7	61.1	16.7	27.8	27.8	27.8	－	－	5.6	－
	女性:内職	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－
	女性:その他	1	－	100.0	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	246	19.9	59.8	11.4	47.2	13.8	19.5	1.2	0.8	5.3	2.8

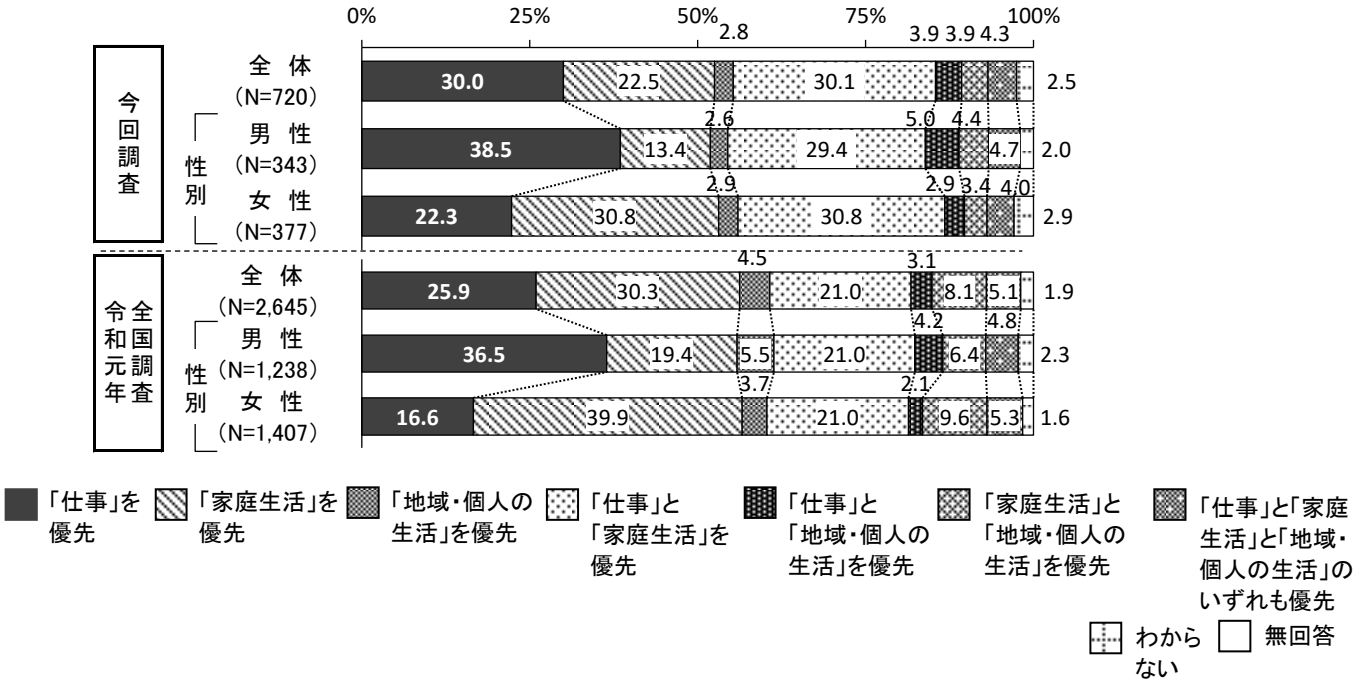
６．生活における優先度

●生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望する優先度について、実際の生活は男性「『仕事』を優先」、女性「『仕事』と『家庭生活』を優先」。
●理想の生活は男女とも「『仕事』と『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」が３割弱で同程度。調和のとれた生活を理想としている。

問 11．あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。（ア）実際の生活、（イ）理想の生活のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つずつ）

（ア）実際の生活

図表４－12　実際の生活における優先度［全体、性別］（全国調査比較）



生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について実際と理想のそれぞれについてたずねた。

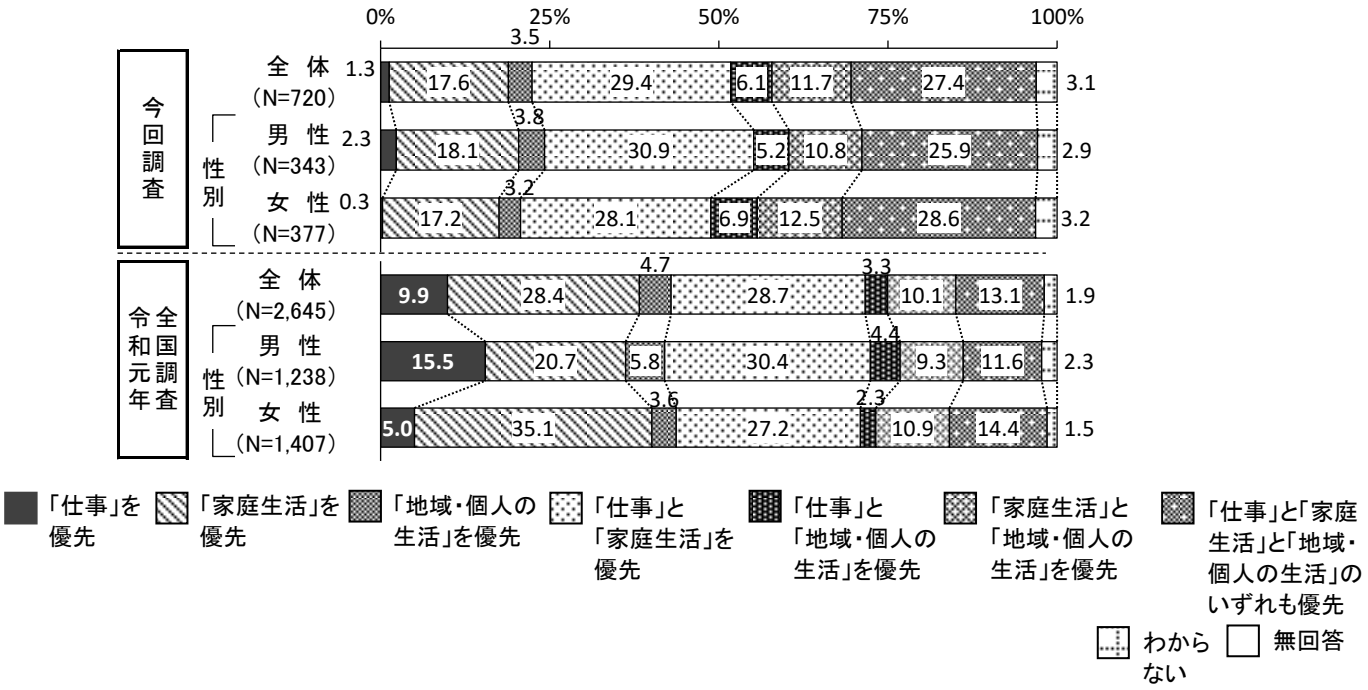
実際の生活では「『仕事』を優先」（30.0％）と「『仕事』と『家庭生活』を優先」（30.1％）が約３割で同程度である。次いで「『家庭生活』を優先」が 22.5％となっている。

性別でみると、男女とも「『仕事』と『家庭生活』を優先」は３割前後で同程度となっている。男性は「『仕事』を優先」が 38.5％で女性（22.3％）を 16.2 ポイント上回り、女性は「『家庭生活』を優先」が 30.8％で男性（13.4％）を 17.4 ポイント上回っている。

全国調査と比べると、男女ともは今回調査の方が「『家庭生活』を優先」が約６～９ポイント低く、「『仕事』と『家庭生活』を優先」が約８～10 ポイント、「『仕事』を優先」が約２～６ポイント高い。

（イ）理想の生活

図表４－13　理想の生活における優先度［全体、性別］（全国調査比較）



理想の生活では「『仕事』と『家庭生活』を優先」（29.4％）と「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」（27.4％）が３割弱で同程度となっている。次いで「『家庭生活』を優先」が 17.6％となっている。実際の生活では「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」の割合は 4.3％と１割に満たなかったが、理想では 20 ポイント以上増えている。仕事や家庭生活に偏らず、バランスの取れた生活を理想としている。

性別でみると、男性は「『家庭生活』を優先」、女性は「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」の割合がやや高い。

全国調査と比べると、男女とも今回調査の方が「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先」が約 14 ポイント高くなっている。

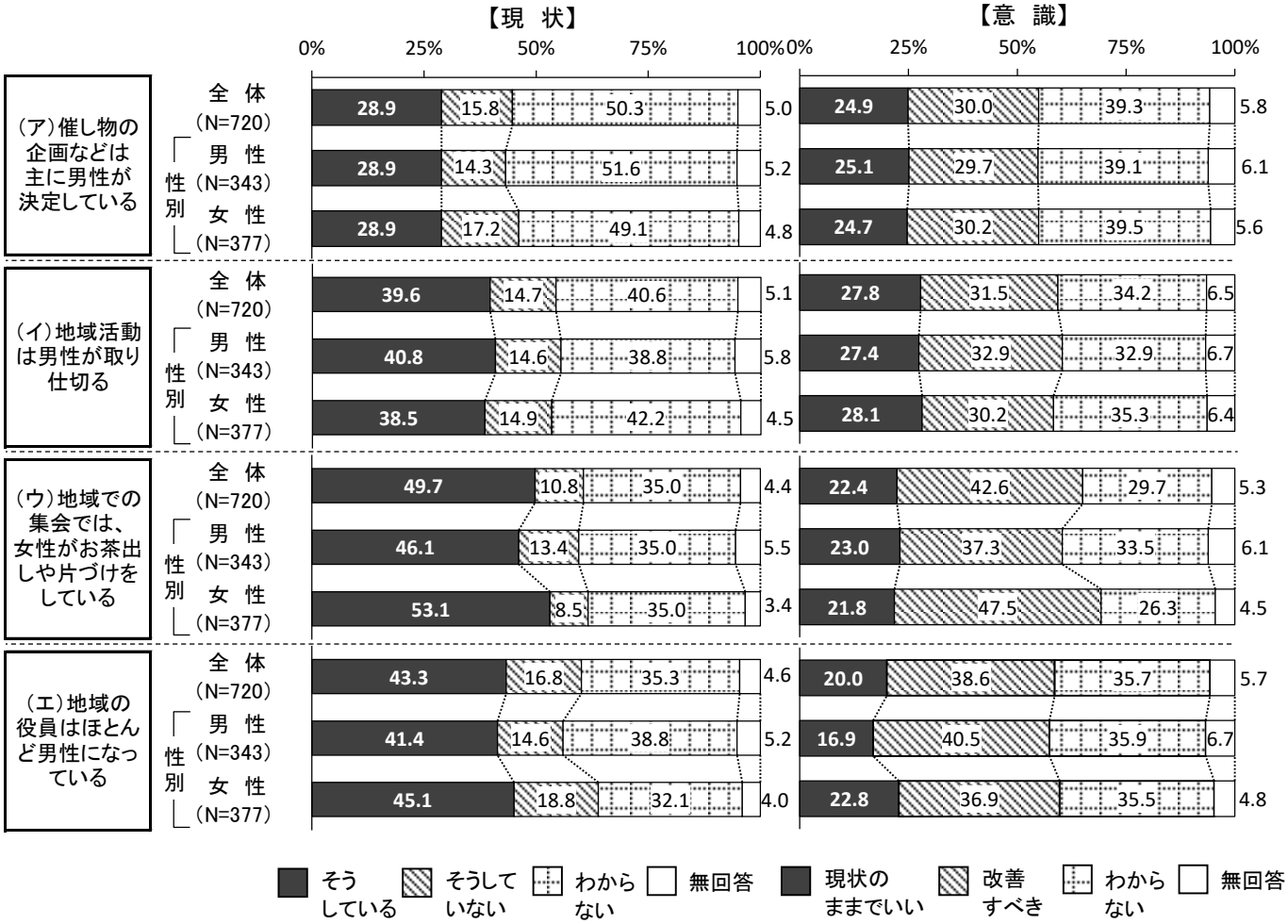
第５章　社会活動への参画について

１．地域活動での男女の役割分担の状況

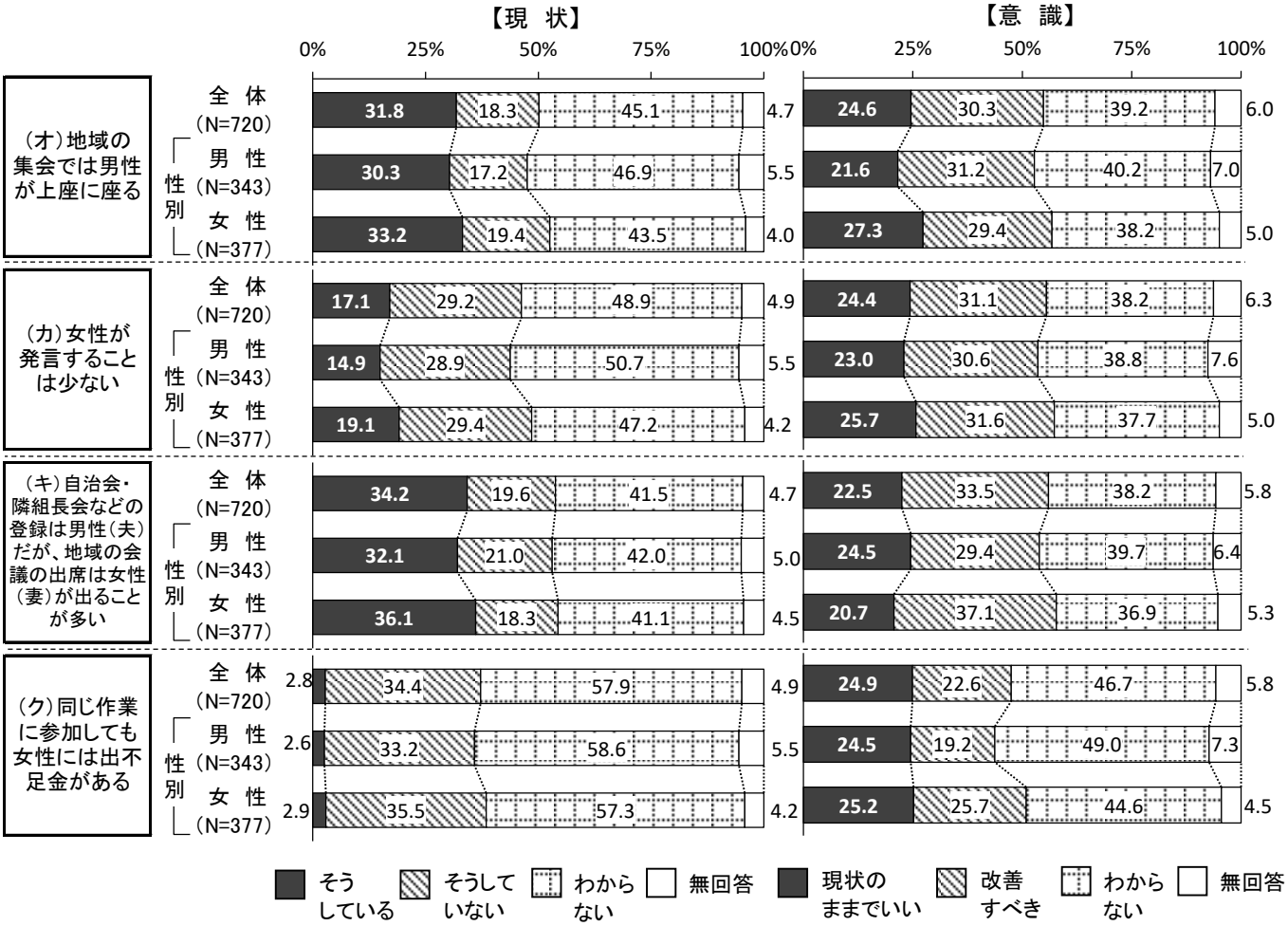
●地域活動の現状は「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」などで約４割から５割が「そうしている」と回答。
●地域活動で男女の役割分担がある場合、「改善すべき」との回答が最も多い。

問 12. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。
（Ａ）現状：あなたが参加している地域活動の現状について（ア）から（ク）のそれぞれにあてはまるものを選んでください。（○印は１つずつ）
（Ｂ）意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。（ア）から（ク）のそれぞれにあてはまるものを選んでください。（○印は１つずつ）

図表５－１（１）地域活動での男女の役割分担の現状と意識［全体、性別］



図表５－１（２）地域活動での男女の役割分担の現状と意識［全体、性別］



地域活動での男女の役割分担の状況について現状と意識をたずねた。現状で「そうしている」の割合が高いのは、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」(49.7%)が約５割、「地域の役員はほとんど男性になっている」（43.3%）、「地域活動は男性が取り仕切る」(39.6%）で４割前後、「自治会・隣組長会などの登録は男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」(34.2%）が３割台半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」(31.8%)、「催し物の企画などは主に男性が決定している」(28.9%）が約３割となっている。

性別でみると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は女性の「そうしている」が 53.1%と男性（46.1%）を７ポイント上回っている。その他「女性が発言することは少ない」(男性 14.9%、女性 19.1%)、「自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」(同 32.1%、36.1%)、「地域の役員はほとんど男性になっている」(同 41.4%、45.1%）などで女性の「そうしている」の割合が男性よりも約４ポイント高い。

各分野の意識を現状別でみると、すべての分野で「そうしている」場合、「改善すべき」の割合が最も高く、特に「女性が発言することは少ない」は 73.2%と最も高くなっている。ただし、「地域活動は男性が取り仕切る」については「改善すべき」が 49.1%と唯一５割を下回っている。

図表５－２　地域活動での男女の役割分担の意識［全体、現状別］

(%)

		標本数	【意識】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している						標本数	【意識】(イ)地域活動は男性が取り仕切る			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		720	179	216	283	42	全体		720	200	227	246	47
		100.0	24.9	30.0	39.3	5.8			100.0	27.8	31.5	34.2	6.5
【現状】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している	そうしている	208	30.8	55.8	12.5	1.0	【現状】(イ)地域活動は男性が取り仕切る	そうしている	285	36.1	49.1	11.9	2.8
	そうしていない	114	73.7	16.7	7.0	2.6		そうしていない	106	70.8	20.8	6.6	1.9
	わからない	362	8.3	22.1	68.5	1.1		わからない	292	7.2	21.6	70.2	1.0
	無回答	36	2.8	2.8	2.8	91.7		無回答	37	2.7	5.4	－	91.9

		標本数	【意識】(ウ)地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている						標本数	【意識】(エ)地域の役員はほとんど男性になっている			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		720	161	307	214	38	全体		720	144	278	257	41
		100.0	22.4	42.6	29.7	5.3			100.0	20.0	38.6	35.7	5.7
【現状】(ウ)地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	そうしている	358	25.4	65.4	8.1	1.1	【現状】(エ)地域の役員はほとんど男性になっている	そうしている	312	21.2	59.6	17.0	2.2
	そうしていない	78	80.8	12.8	5.1	1.3		そうしていない	121	57.0	26.4	14.9	1.7
	わからない	252	2.8	25.0	71.4	0.8		わからない	254	3.5	22.8	73.2	0.4
	無回答	32	－	－	3.1	96.9		無回答	33	－	6.1	－	93.9

		標本数	【意識】(オ)地域の集会では男性が上座に座る						標本数	【意識】(カ)女性が発言することは少ない			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		720	177	218	282	43	全体		720	176	224	275	45
		100.0	24.6	30.3	39.2	6.0			100.0	24.4	31.1	38.2	6.3
【現状】(オ)地域の集会では男性が上座に座る	そうしている	229	28.8	54.6	14.8	1.7	【現状】(カ)女性が発言することは少ない	そうしている	123	14.6	73.2	11.4	0.8
	そうしていない	132	77.3	12.1	9.1	1.5		そうしていない	210	70.0	18.6	9.5	1.9
	わからない	325	2.8	23.4	72.6	1.2		わからない	352	3.1	27.0	68.2	1.7
	無回答	34	－	2.9	－	97.1		無回答	35	－	－	2.9	97.1

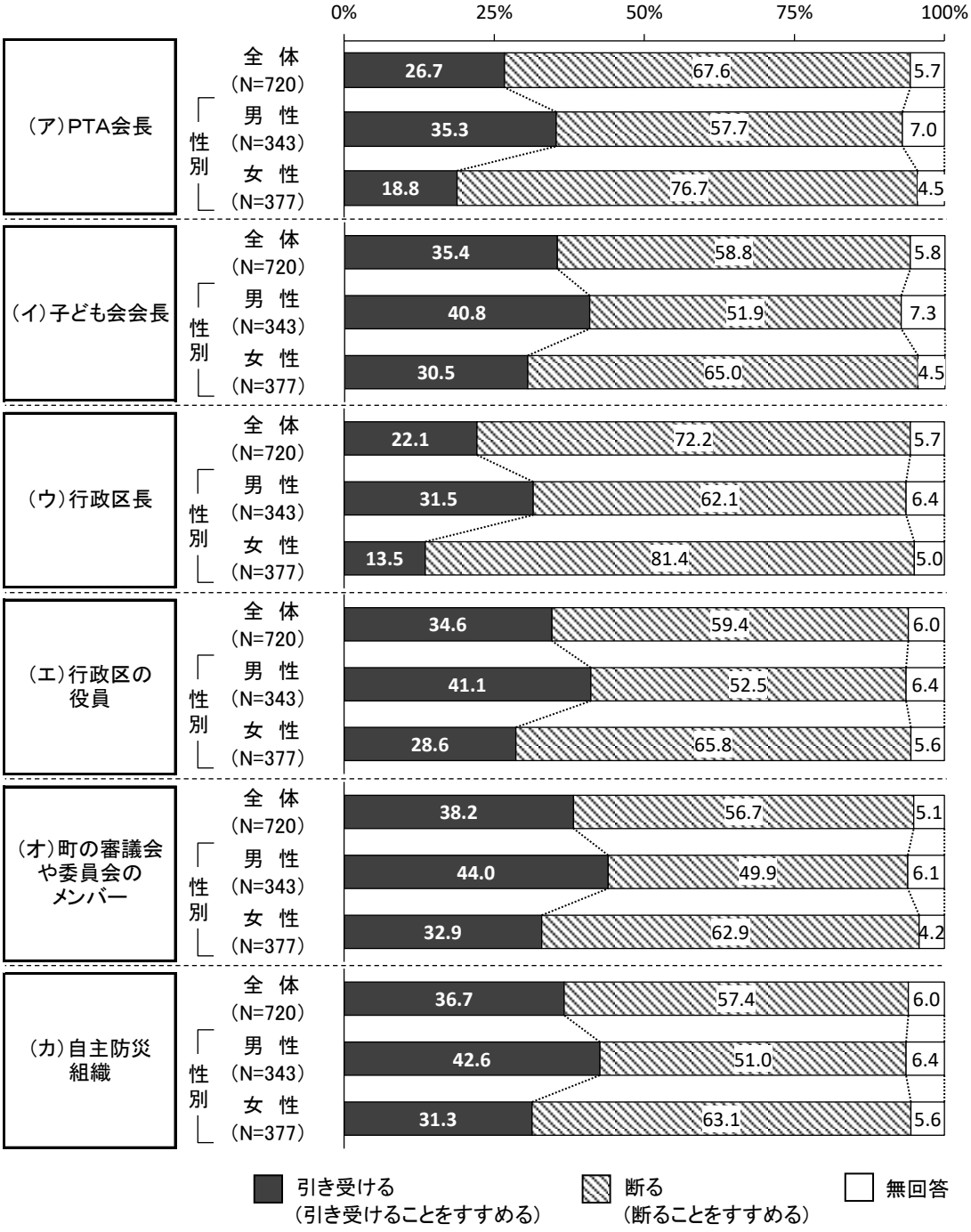
		標本数	【意識】(キ)自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い						標本数	【意識】(ク)同じ作業に参加しても女性には出不足金がある			
			現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答				現状のままでいい	改善すべき	わからない	無回答
全体		720	162	241	274	42	全体		720	179	216	283	42
		100.0	22.5	33.5	38.1	5.8			100.0	24.9	30.0	39.3	5.8
【現状】(キ)自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い	そうしている	246	24.0	61.4	13.4	1.2	【現状】(ク)同じ作業に参加しても女性には出不足金がある	そうしている	20	30.0	50.0	15.0	5.0
	そうしていない	141	65.2	20.6	12.8	1.4		そうしていない	248	66.1	19.4	12.1	2.4
	わからない	299	3.7	20.4	74.6	1.3		わからない	417	2.2	24.5	72.4	1.0
	無回答	34	－	－	2.9	97.1		無回答	35	－	8.6	2.9	88.6

２．地域の役職に女性が推薦された場合の対処

●女性が地域の役職につくことについて、「断る（断ることをすすめる）」は、すべての分野で女性の割合が男性よりも高く、女性の抵抗感が強い。
●女性の 50 代は「引き受ける」割合が比較的高い。

問 13．次の（ア）～（カ）の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどう思いますか。（○印はそれぞれ１つ）

図表５－３　地域の役職に女性が推薦された場合の対処［全体、性別］



女性がＰＴＡ会長や行政区長などの地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねた。

６分野すべてで「断る（断ることをすすめる）」の回答が５割台半ばから７割強となっており、反対に「引き受ける（引き受けることをすすめる）」は２割台半ばから３割台半ばと「断る（断ることをすすめる）」が圧倒的に高い。

性別でみると、「断る（断ることをすすめる）」は、すべての分野で女性の割合が男性よりも高く、特に「行政区長」では 81.4％と男性（62.1％）を 19.3 ポイント上回っている。女性は地域の役職につくことについて抵抗感が強いことがわかる。女性の「引き受ける」が比較的高いものは「町の審議会や委員会のメンバー」(32.9％)や「自主防災組織」(31.3％)、「子ども会会長」（30.5％）などで３割強となっている。

年代別でみると、男性は年代の低い層で「引き受けることをすすめる」の割合が高い傾向がみられる。反対に女性は年代の高い層で「引き受ける」の割合が高い傾向がみられ、「自主防災組織」では女性の 70 歳以上で 42.4％と最も高い。その他の分野では 50 代の割合が高く、「子ども会会長」と「町の審議会や委員会のメンバー」で同率の 38.2％、「行政区役員」で 36.8％、「ＰＴＡ会長」22.4％、「行政区長」17.1％となっている。

図表５－４　地域の役職に女性が推薦された場合の対処［全体、年代別］

（％）

		標本数	(ア)PTA会長			(イ)子ども会会長			(ウ)行政区長		
			引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答	引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答	引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答
全体		720	192	487	41	255	423	42	159	520	41
		100.0	26.7	67.6	5.7	35.4	58.8	5.8	22.1	72.2	5.7
年代別	男性:10・20代	35	45.7	51.4	2.9	51.4	45.7	2.9	48.6	48.6	2.9
	男性:30代	58	34.5	62.1	3.4	34.5	62.1	3.4	34.5	62.1	3.4
	男性:40代	55	27.3	65.5	7.3	34.5	58.2	7.3	27.3	65.5	7.3
	男性:50代	53	35.8	56.6	7.5	41.5	50.9	7.5	35.8	56.6	7.5
	男性:60代	87	33.3	59.8	6.9	42.5	49.4	8.0	24.1	70.1	5.7
	男性:70歳以上	52	42.3	46.2	11.5	46.2	42.3	11.5	30.8	59.6	9.6
	女性:10・20代	31	19.4	77.4	3.2	29.0	67.7	3.2	6.5	90.3	3.2
	女性:30代	46	19.6	78.3	2.2	30.4	65.2	4.3	15.2	80.4	4.3
	女性:40代	73	17.8	79.5	2.7	24.7	72.6	2.7	12.3	84.9	2.7
	女性:50代	76	22.4	73.7	3.9	38.2	57.9	3.9	17.1	78.9	3.9
	女性:60代	90	20.0	76.7	3.3	34.4	62.2	3.3	14.4	81.1	4.4
	女性:70歳以上	59	13.6	76.3	10.2	23.7	67.8	8.5	11.9	78.0	10.2
	無回答	5	－	60.0	40.0	－	60.0	40.0	－	60.0	40.0

		標本数	(エ)行政区の役員			(オ)町の審議会や委員会のメンバー			(カ)自主防災組織		
			引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答	引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答	引き受けることをすすめる（引き受ける）	断ることをすすめる（断る）	無回答
全体		720	249	428	43	275	408	37	264	413	43
		100.0	34.6	59.4	6.0	38.2	56.7	5.1	36.7	57.4	6.0
年代別	男性:10・20代	35	51.4	45.7	2.9	54.3	42.9	2.9	48.6	48.6	2.9
	男性:30代	58	34.5	62.1	3.4	39.7	56.9	3.4	41.4	55.2	3.4
	男性:40代	55	41.8	50.9	7.3	38.2	54.5	7.3	36.4	56.4	7.3
	男性:50代	53	49.1	43.4	7.5	52.8	39.6	7.5	52.8	39.6	7.5
	男性:60代	87	33.3	60.9	5.7	42.5	52.9	4.6	37.9	58.6	3.4
	男性:70歳以上	52	46.2	44.2	9.6	44.2	46.2	9.6	46.2	40.4	13.5
	女性:10・20代	31	16.1	80.6	3.2	22.6	77.4	－	22.6	74.2	3.2
	女性:30代	46	26.1	69.6	4.3	32.6	65.2	2.2	28.3	67.4	4.3
	女性:40代	73	23.3	74.0	2.7	30.1	65.8	4.1	26.0	68.5	5.5
	女性:50代	76	36.8	59.2	3.9	38.2	59.2	2.6	31.6	64.5	3.9
	女性:60代	90	33.3	62.2	4.4	35.6	60.0	4.4	32.2	63.3	4.4
	女性:70歳以上	59	25.4	61.0	13.6	30.5	61.0	8.5	42.4	47.5	10.2
	無回答	5	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	40.0

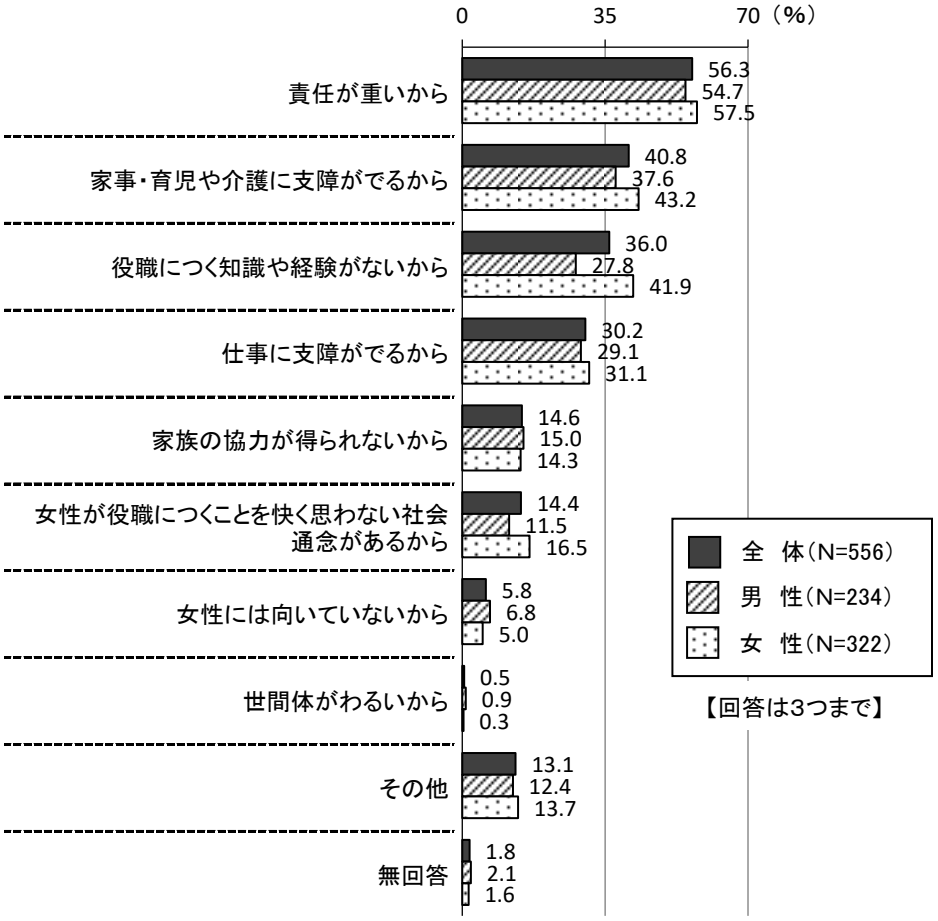
３．断る（断ることをすすめる）理由

●女性が地域の役職につくことを「断る（断ることをすすめる）」理由は、「責任が重いから」「家事・育児や介護に支障がでるから」「役職につく知識や経験がないから」「仕事に支障がでるから」が上位。いずれも女性の割合の方が男性より高い。

問 13 付問１．**〔問 13 で（ア）から（カ）のうちひとつでも２．「断る（断ることをすすめる）」と答えた方に〕**

引き受けないのはどのような理由からですか（○印は３つまで）

図表５－５　地域の役職につくことを断る（断ることをすすめる）理由［全体、性別］



女性が地域の役職につくことを「断る（断ることをすすめる）」と答えた 556 人にその理由をたずねた。「責任が重いから」が 56.3％と最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」が 40.8％、「役職につく知識や経験がないから」が 36.0％、「仕事に支障がでるから」が 30.2％で上位にあげられている。

性別でみると、上位４位にあげられた項目はいずれも女性の割合が男性よりも高く、特に「役職につく知識や経験がないから」は 41.9％と男性の 27.8％を 14.1 ポイント上回っている。

年代別でみると、男女とも年代の高い層で「責任が重いから」の割合が高い傾向がみられ、60 代以上で６割を超えている。また「役職につく知識や経験がないから」「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」「家族の協力が得られないから」も同様の傾向がみられる。「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の 30 代で 65.0％と最も高く、また「仕事に支障がでるから」も女性の 30 代で 50.0％と他の年代に比べて高い。

職業の有無別でみると、職業をもっている女性は、いまは職業をもっていない女性に比べ、「責任が重いから」（もっている 51.8％、いまはもっていない 66.4％）や「役職につく知識や経験がないから」（同 35.1％、51.4％）などの割合が約 15～16 ポイント低く、「仕事に支障がでるから」が 47.6％と高い。また「家事・育児や介護に支障がでるから」は 44.0％ともっていない女性（45.8％）と割合があまり変わらない

図表５－６　地域の役職につくことを断る（断ることをすすめる）理由

［全体、年代別、職業の有無別］

（％）

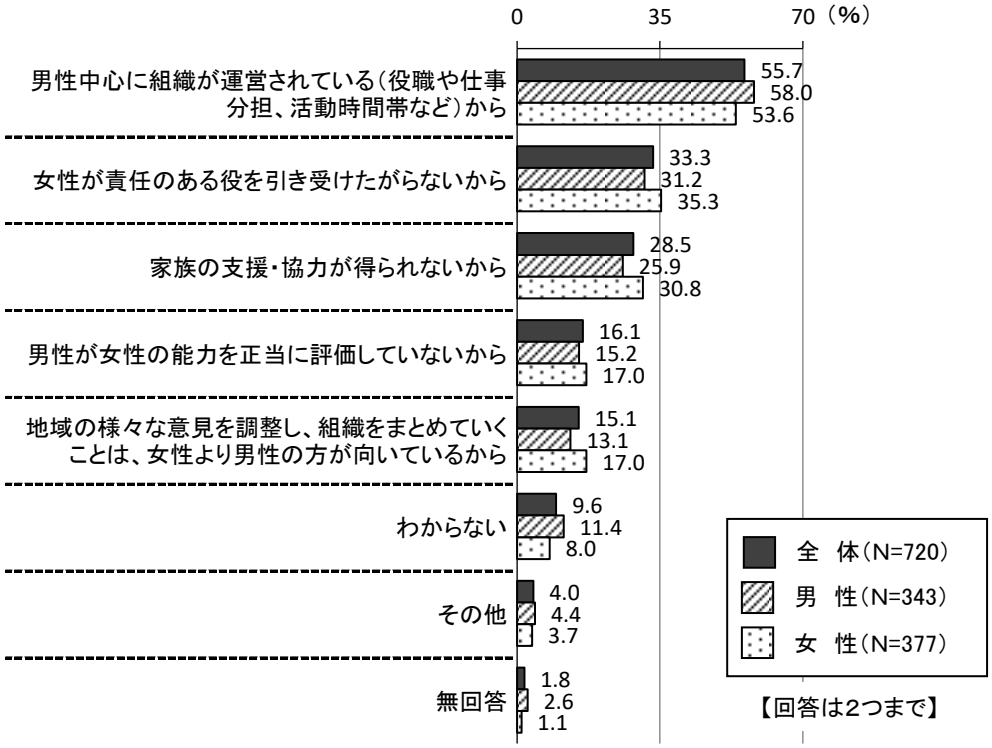
		標本数	家族の協力が得られないから	女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから	家事・育児や介護に支障がでるから	仕事に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	女性には向いていないから	世間体がわるいから	責任が重いから	その他	無回答
全体		556	81	80	227	168	200	32	3	313	73	10
		100.0	14.6	14.4	40.8	30.2	36.0	5.8	0.5	56.3	13.1	1.8
年代別	男性:10･20代	20	10.0	10.0	55.0	50.0	15.0	－	5.0	30.0	35.0	－
	男性:30代	40	5.0	2.5	50.0	35.0	17.5	2.5	－	47.5	15.0	2.5
	男性:40代	40	7.5	22.5	32.5	27.5	15.0	－	2.5	62.5	12.5	－
	男性:50代	33	9.1	3.0	36.4	33.3	33.3	6.1	－	51.5	15.2	－
	男性:60代	66	22.7	10.6	33.3	21.2	30.3	12.1	－	62.1	7.6	4.5
	男性:70歳以上	33	30.3	21.2	27.3	24.2	51.5	12.1	－	60.6	3.0	－
	女性:10･20代	28	7.1	7.1	39.3	39.3	39.3	10.7	3.6	53.6	10.7	－
	女性:30代	40	7.5	7.5	65.0	50.0	30.0	－	－	57.5	10.0	2.5
	女性:40代	65	10.8	13.8	46.2	36.9	32.3	4.6	－	40.0	16.9	1.5
	女性:50代	62	14.5	17.7	48.4	48.4	35.5	4.8	－	59.7	11.3	1.6
	女性:60代	76	18.4	19.7	38.2	13.2	52.6	3.9	－	67.1	10.5	2.6
	女性:70歳以上	50	22.0	26.0	26.0	10.0	56.0	8.0	－	66.0	20.0	－
	無回答	3	－	－	33.3	－	66.7	33.3	－	－	33.3	33.3
職業の有無別	男性:職業をもっている	177	11.3	7.9	40.7	32.2	26.0	5.6	1.1	55.4	13.6	1.1
	男性:いまは職業をもっていない	46	28.3	19.6	30.4	19.6	37.0	10.9	－	58.7	8.7	－
	男性:いままで職業をもったことはない	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0
	女性:職業をもっている	191	10.5	15.7	44.0	47.6	35.1	3.1	0.5	51.8	13.1	1.0
	女性:いまは職業をもっていない	107	21.5	18.7	45.8	7.5	51.4	5.6	－	66.4	11.2	2.8
	女性:いままで職業をもったことはない	15	6.7	6.7	26.7	6.7	66.7	26.7	－	66.7	20.0	－
	無回答	19	21.1	31.6	21.1	10.5	26.3	5.3	－	42.1	26.3	10.5

４．自治会役員に女性が少ない理由

●自治会役員に女性が少ない理由は「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が最も高い。

問 14. 内閣府調査（2020 年４月１日現在）によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では 9.6%でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように少ない理由は何だと思いますか。（○印は２つまで）

図表５－７　自治会役員に女性が少ない理由［全体、性別］



自治会役員に女性が少ない理由は、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」が 55.7%と最も高い。次いで「女性が責任のある役を引き受けたがらないから」が 33.3%、「家族の支援・協力が得られないから」が 28.5%となっている。

年代別でみると、「男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から」は男性の 10・20 代と 60 代、女性の 50 代で６割台と高い。女性の 30 代と 70 歳以上で「女性が責任のある役を引き受けたたがらないから」が４割台、また女性の 30 代では「家族の支援・協力が得られないから」も 41.3％と他の年代に比べて高い。

図表５－８　自治会役員に女性が少ない理由［全体、年代別］

（%）

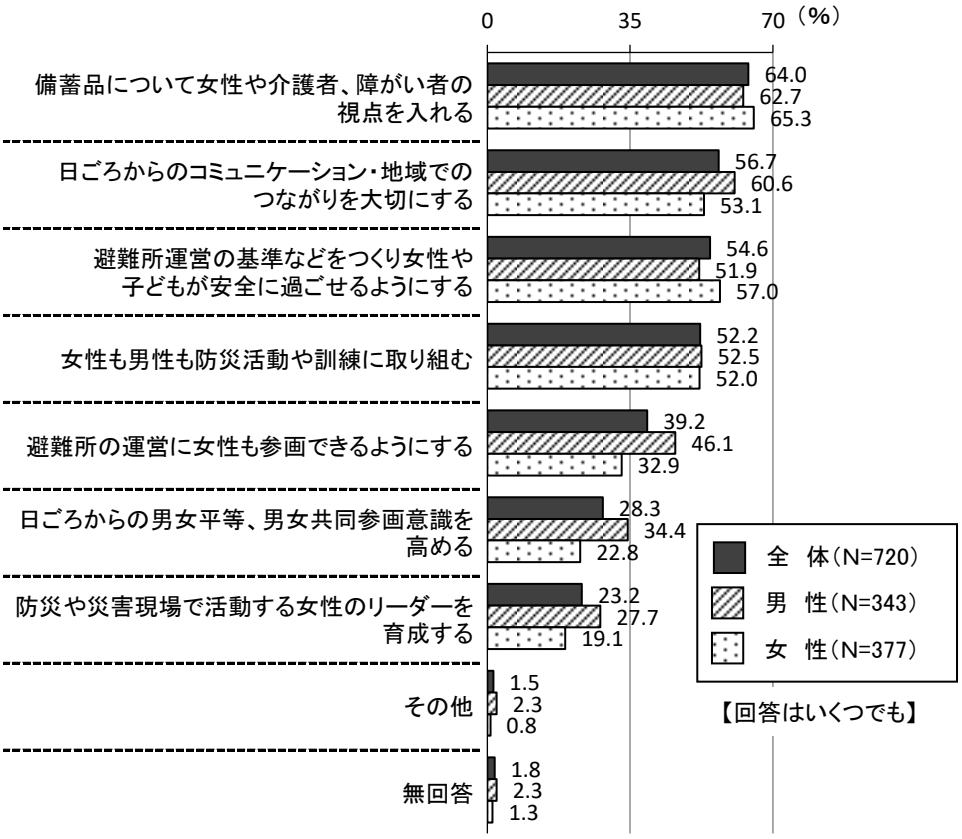
		標本数	男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から	男性が女性の能力を正当に評価していないから	家族の支援・協力が得られないから	女性が責任のある役を引き受けたがらないから	地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性より男性の方が向いているから	わからない	その他	無回答
全体		720	401	116	205	240	109	69	29	13
		100.0	55.7	16.1	28.5	33.3	15.1	9.6	4.0	1.8
年代別	男性:10･20代	35	62.9	11.4	17.1	31.4	5.7	17.1	11.4	2.9
	男性:30代	58	50.0	12.1	36.2	27.6	6.9	20.7	5.2	－
	男性:40代	55	56.4	18.2	23.6	23.6	12.7	12.7	3.6	3.6
	男性:50代	53	58.5	18.9	22.6	34.0	9.4	3.8	7.5	3.8
	男性:60代	87	62.1	14.9	26.4	37.9	18.4	6.9	1.1	1.1
	男性:70歳以上	52	59.6	15.4	26.9	30.8	17.3	11.5	1.9	3.8
	女性:10･20代	31	58.1	12.9	32.3	25.8	16.1	12.9	－	－
	女性:30代	46	43.5	21.7	41.3	41.3	6.5	6.5	6.5	2.2
	女性:40代	73	54.8	20.5	30.1	28.8	9.6	11.0	2.7	1.4
	女性:50代	76	61.8	17.1	27.6	34.2	13.2	5.3	6.6	－
	女性:60代	90	56.7	15.6	35.6	37.8	21.1	3.3	4.4	1.1
	女性:70歳以上	59	42.4	11.9	20.3	42.4	32.2	13.6	－	1.7
	無回答	5	40.0	20.0	－	－	60.0	－	－	20.0

５．災害に備えるために必要なこと

●災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」などが５割を超えている。

問 15．これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点による対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

図表５－９　災害に備えるために必要なこと［全体、性別］



災害への備えとして男女共同参画の視点で必要だと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が 64.0％で最も高く、以下、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」（56.7％）「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」（54.6％）、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（52.2％）などが５割台と多岐にわたってあげられている。

性別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」（男性 62.7%、女性 65.3%）や「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」（同 52.5%、52.0%）などは男女とも同程度の割合となっており、女性は「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」（同 51.9%、57.0%）の割合が男性よりも高く、男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」（同 46.1%、32.9%）、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」（同 60.6%、53.1%）、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」（同 46.1%、32.9%）、「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」（同 34.4%、22.8%）、「防災や災害現場で活躍する女性のリーダーを育成する」（同 27.7%、19.1%）などが女性よりも高くなっている。

年代別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性の 30 代で 78.3%と最も高く、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も女性の 30 代で 67.4%と他の年代に比べて高くなっている。「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は女性の 10・20 代と 70 代以上で６割強と高い。「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は女性の 60 代以上、男性の 10・20 代と 50 代以上で６割を超えている。

居住地域別でみると、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は苅田小学校区、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は片島小学校区で約６割と高い。

図表５－10　災害に備えるために必要なこと［全体、年代別、小学校区別］

(%)

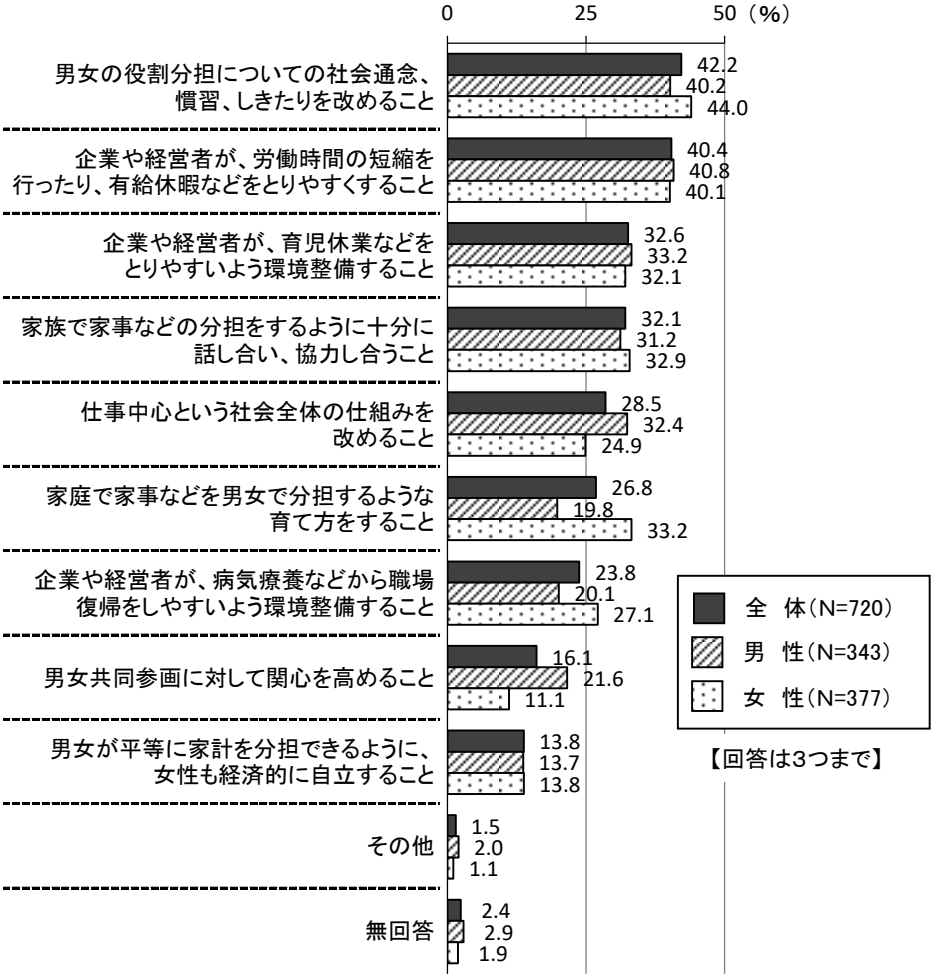
		標本数	避難所の運営に女性も参画できるようにする	女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる	避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする	防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する	日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする	日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める	その他	無回答
全体		720	282	376	461	393	167	408	204	11	13
		100.0	39.2	52.2	64.0	54.6	23.2	56.7	28.3	1.5	1.8
年代別	男性:10･20代	35	48.6	40.0	65.7	48.6	20.0	60.0	22.9	2.9	2.9
	男性:30代	58	37.9	46.6	67.2	62.1	29.3	55.2	27.6	1.7	1.7
	男性:40代	55	41.8	54.5	65.5	56.4	29.1	54.5	30.9	1.8	1.8
	男性:50代	53	64.2	52.8	66.0	50.9	37.7	60.4	47.2	－	1.9
	男性:60代	87	42.5	56.3	57.5	46.0	21.8	63.2	35.6	4.6	－
	男性:70歳以上	52	44.2	59.6	57.7	50.0	28.8	69.2	38.5	1.9	5.8
	女性:10･20代	31	32.3	61.3	64.5	61.3	6.5	45.2	19.4	－	－
	女性:30代	46	19.6	45.7	78.3	67.4	30.4	45.7	21.7	－	－
	女性:40代	73	35.6	47.9	61.6	56.2	21.9	43.8	32.9	1.4	1.4
	女性:50代	76	32.9	52.6	65.8	63.2	22.4	46.1	26.3	－	1.3
	女性:60代	90	34.4	48.9	70.0	58.9	17.8	63.3	16.7	2.2	1.1
	女性:70歳以上	59	37.3	61.0	52.5	35.6	10.2	67.8	16.9	－	3.4
	無回答	5	60.0	40.0	60.0	60.0	40.0	60.0	40.0	－	20.0
小学校区別	苅田小学校区	340	39.1	53.5	63.8	57.1	22.1	62.1	30.0	2.1	0.9
	馬場小学校区	76	38.2	57.9	67.1	52.6	27.6	47.4	28.9	－	2.6
	南原小学校区	100	44.0	53.0	69.0	57.0	27.0	55.0	33.0	2.0	1.0
	与原小学校区	160	36.3	48.8	62.5	51.9	21.9	53.1	22.5	1.3	2.5
	片島小学校区	10	40.0	60.0	40.0	30.0	20.0	50.0	30.0	－	－
	白川小学校区	18	50.0	27.8	66.7	55.6	22.2	50.0	27.8	－	－
	無回答	16	31.3	50.0	50.0	37.5	18.8	43.8	18.8	－	18.8

６．男女がともに仕事と家庭、地域活動に積極的に参画していくために必要なこと

●男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくために必要なことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」と「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」が４割台と高い。

問 16. 男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。
（○印は３つまで）

図表５－11　男女がともに仕事と家庭、地域活動に積極的に参画していくために必要なこと
［全体、性別］



男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくために必要なことは、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」（42.2%）と「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」（40.4%）が４割台で上位にあげられ、次いで「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」（32.6%）、「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」（32.1%）が３割台となっている。

性別でみると、上位４位の項目に男女差はあまりみられない。男性は「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること（男性 32.4%、女性 24.9%）、「男女共同参画に対して関心を高めること」（同 21.6%、11.1%）などの割合が女性よりも約８～11 ポイント高い。女性は「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」（同 19.8%、33.2%）、「企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること」（同 20.1%、27.1%）などが男性よりも約７～13 ポイント高い。

年代別でみると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」や「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力すること」は男女とも年代の高い層で割合が高い傾向がみられる。反対に「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」や「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」などは男女の年代が低い層での割合が高い傾向がみられる。

図表５－12　男女がともに仕事と家庭、地域活動に積極的に参画していくために必要なこと

［全体、年代別］

(%)

		標本数	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること	企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること	企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること	家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力すること	男女が平等に家計を分担できるように、女性も経済的に自立すること	家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること	男女共同参画に対して関心を高めること	その他	無回答
全体		720	304	205	291	235	171	231	99	193	116	11	17
		100.0	42.2	28.5	40.4	32.6	23.8	32.1	13.8	26.8	16.1	1.5	2.4
年代別	男性:10･20代	35	31.4	22.9	45.7	45.7	22.9	28.6	14.3	31.4	20.0	2.9	2.9
	男性:30代	58	41.4	41.4	48.3	43.1	13.8	31.0	17.2	13.8	12.1	－	3.4
	男性:40代	55	32.7	36.4	45.5	36.4	23.6	30.9	14.5	14.5	18.2	3.6	－
	男性:50代	53	45.3	24.5	37.7	24.5	15.1	32.1	9.4	24.5	18.9	3.8	3.8
	男性:60代	87	46.0	36.8	37.9	28.7	24.1	26.4	12.6	17.2	28.7	1.1	2.3
	男性:70歳以上	52	40.4	26.9	32.7	28.8	19.2	40.4	15.4	23.1	28.8	1.9	3.8
	女性:10･20代	31	38.7	22.6	54.8	51.6	16.1	38.7	3.2	35.5	6.5	－	－
	女性:30代	46	41.3	37.0	45.7	37.0	13.0	21.7	19.6	39.1	13.0	－	－
	女性:40代	73	43.8	30.1	37.0	30.1	19.2	27.4	13.7	39.7	11.0	1.4	2.7
	女性:50代	76	42.1	28.9	35.5	28.9	27.6	35.5	15.8	28.9	10.5	1.3	1.3
	女性:60代	90	45.6	18.9	43.3	31.1	37.8	37.8	12.2	30.0	12.2	2.2	2.2
	女性:70歳以上	59	49.2	15.3	33.9	27.1	35.6	35.6	15.3	30.5	10.2	－	1.7
	無回答	5	20.0	－	20.0	－	40.0	20.0	－	20.0	20.0	－	40.0

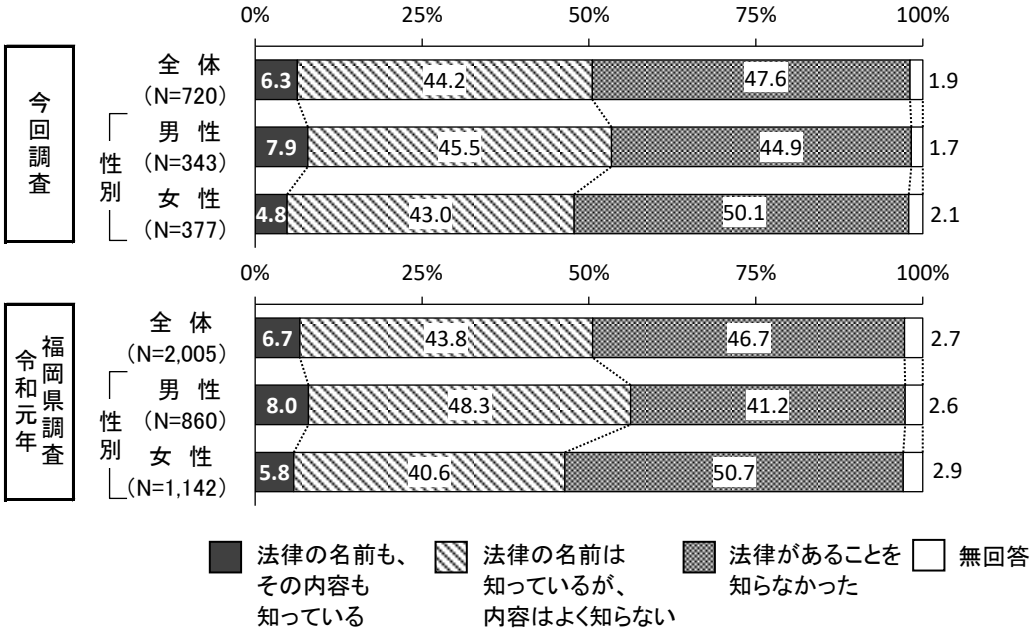
第６章　政治分野における男女共同参画について

１.「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知

●「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知は、「法律があることを知らなかった」「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が各々４割台、「法律の名前も、その内容も知っている」は１割に満たない。

問 17. あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。（〇印は１つ）

図表６－１　「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知
［全体、性別］（福岡県調査比較）



「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知について、「法律があることを知らなかった」が 47.6%と最も高く、次いで「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が 44.2%、「法律の名前も、その内容も知っている」が 6.3%となっている。

性別でみると、男性の方が「法律の名前も、その内容も知っている」や「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」などの割合が女性よりもやや高い。

福岡県調査と比べると、男女とも同程の結果となっている。

年代別でみると、男性は 70 歳以上で「法律の名前も、その内容も知っている」が 13.5%、60 代で「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が 59.8%と年代が高い層で割合が高くなっている。女性は 10･20 代で「法律の名前も、その内容も知っている」が 12.9%、10・20 代と 50 代、70 歳以上で「法律の名前は知っているが、内容はよく知らない」が 5 割前後と高い。

図表６－２　「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知
［全体、年代別］

(%)

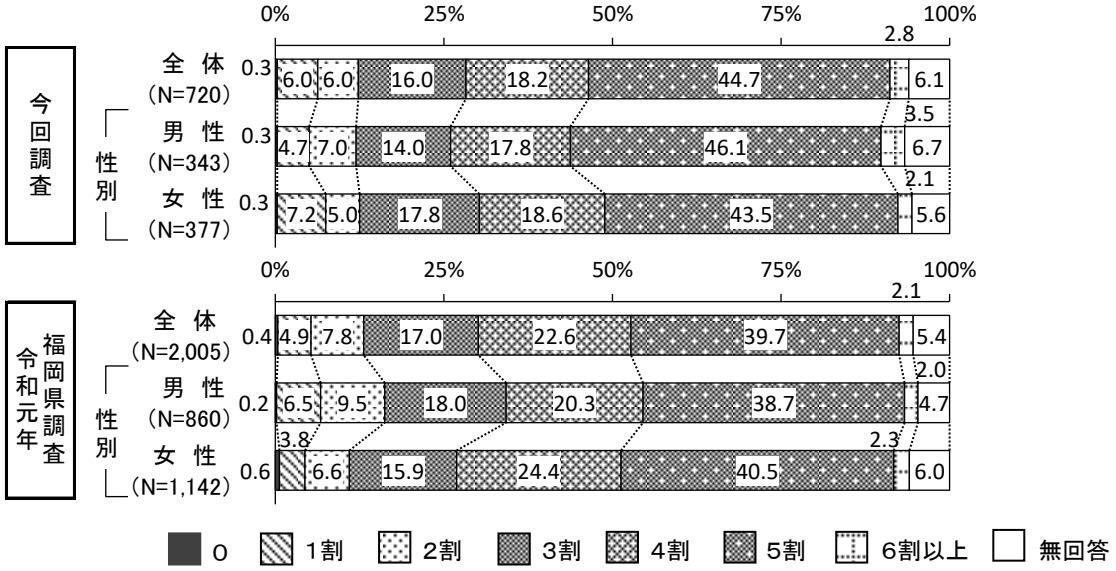
		標本数	法律の名前も、その内容も知っている	法律の名前は知っているが、内容はよく知らない	法律があることを知らなかった	無回答
全体		720	45	318	343	14
		100.0	6.3	44.2	47.6	1.9
年代別	男性:10･20代	35	8.6	45.7	42.9	2.9
	男性:30代	58	6.9	37.9	55.2	－
	男性:40代	55	7.3	40.0	52.7	－
	男性:50代	53	9.4	39.6	49.1	1.9
	男性:60代	87	3.4	59.8	36.8	－
	男性:70歳以上	52	13.5	42.3	38.5	5.8
	女性:10･20代	31	12.9	48.4	35.5	3.2
	女性:30代	46	2.2	34.8	63.0	－
	女性:40代	73	5.5	30.1	63.0	1.4
	女性:50代	76	2.6	50.0	46.1	1.3
	女性:60代	90	3.3	43.3	50.0	3.3
	女性:70歳以上	59	6.8	50.8	39.0	3.4
	無回答	5	20.0	60.0	－	20.0

２．地方議会における女性議員の理想の割合

●地方議会における女性議員の理想の割合は「５割」が４割台半ばで最も高い。
●男女とも年代の低い層で「５割」「６割以上」の割合が高い傾向。

問 18. あなたは、地方議会（県議会・市町村議会）における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に０から１０までの整数をご記入ください。

図表６－３　地方議会における女性議員の理想の割合［全体、性別］（福岡県調査比較）



地方議会における女性議員の理想の割合は「５割」が 44.7％と最も高く、次いで「４割」が 18.2％、「３割」が 16.0％となっている。

性別でみると、「５割」（男性 46.1％、女性 43.5％）は男性の方がやや高く、「４割」や「３割」「２割」などの低い割合は女性の方がやや高くなっている。

福岡県調査と比べると、「５割」は男女とも今回調査の方が割合は高く、特に男性は 7.4 ポイント高い。

年代別でみると、「５割」や「６割以上」は男女とも年代の低い層での割合が高い傾向がみられる。

図表６－４　地方議会における女性議員の理想の割合［全体、年代別］

(%)

		標本数	0	1割	2割	3割	4割	5割	6割以上	無回答
全体		720	2	43	43	115	131	322	20	44
		100.0	0.3	6.0	6.0	16.0	18.2	44.7	2.8	6.1
年代別	男性:10･20代	35	2.9	2.9	5.7	11.4	11.4	54.3	2.9	8.6
	男性:30代	58	－	5.2	5.2	12.1	13.8	44.8	6.9	12.1
	男性:40代	55	－	5.5	1.8	16.4	20.0	47.3	7.3	1.8
	男性:50代	53	－	5.7	13.2	13.2	18.9	41.5	1.9	5.7
	男性:60代	87	－	5.7	8.0	13.8	17.2	48.3	1.1	5.7
	男性:70歳以上	52	－	1.9	7.7	13.5	25.0	44.2	1.9	5.8
	女性:10･20代	31	3.2	－	9.7	6.5	16.1	51.6	9.7	3.2
	女性:30代	46	－	6.5	4.3	13.0	28.3	43.5	2.2	2.2
	女性:40代	73	－	8.2	2.7	9.6	19.2	56.2	1.4	2.7
	女性:50代	76	－	10.5	6.6	15.8	19.7	40.8	1.3	5.3
	女性:60代	90	－	8.9	6.7	28.9	15.6	35.6	1.1	3.3
	女性:70歳以上	59	－	3.4	1.7	23.7	13.6	39.0	1.7	16.9
	無回答	5	－	－	－	40.0	20.0	20.0	－	20.0

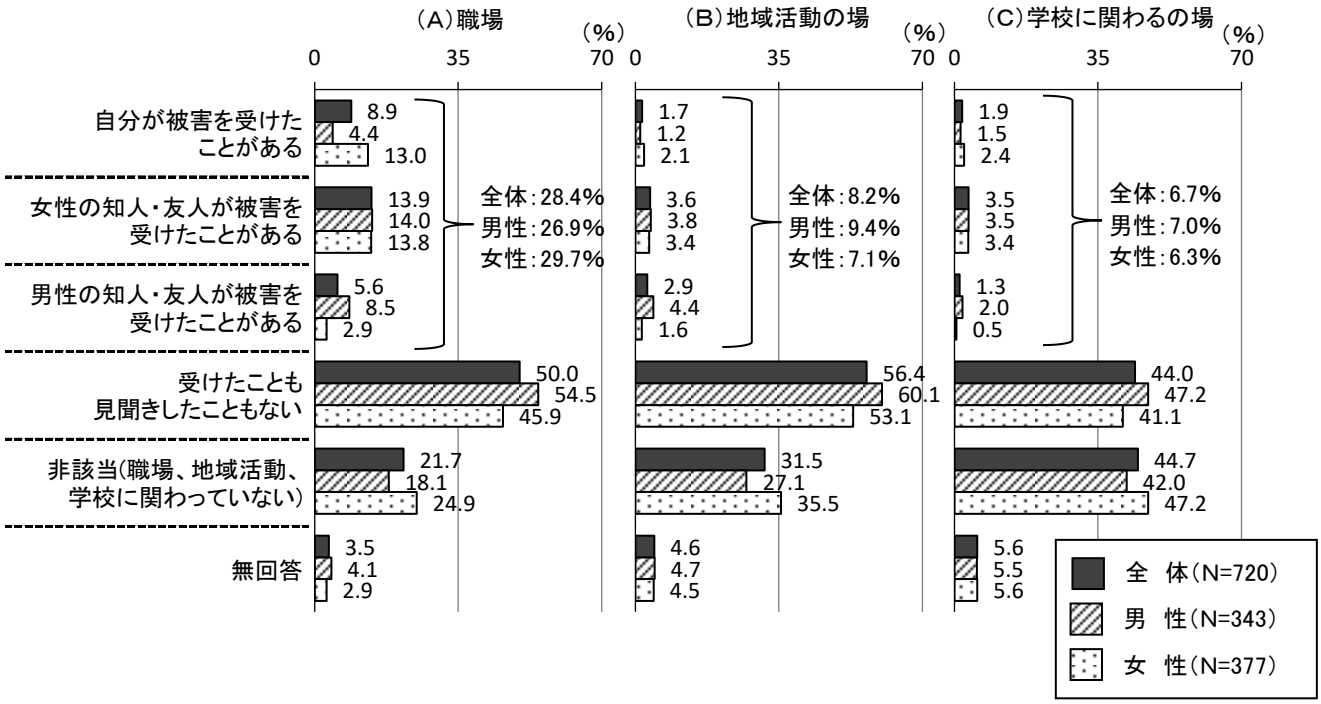
第７章　暴力などの人権侵害について

１．セクシュアルハラスメントの経験・見聞き

●セクシュアルハラスメントの経験・見聞きは「職場」が３割弱、「地域活動の場」と「学校に関わる場」が１割弱。
●「職場」では女性の 30 代と 50 代の経験が２割前後と高い。

問 19. 最近３年間くらいの間に、（Ａ）職場、（Ｂ）地域活動の場、（Ｃ）学校に関わる場で、下記にあげたようなセクシュアルハラスメントを受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印はいくつでも）

図表７－１　セクシュアルハラスメントの経験・見聞き［全体、性別］



【回答はいくつでも】

最近３年間の間に「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」でセクシュアルハラスメントの経験、見聞きをたずねた。

「自分が被害を受けたことがある」や「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」「男性の知人・友人が被害を受けたことがある」など経験や見聞きが高かったのは「職場」であり、それぞれ 8.9%、13.9%、5.6%と 28.4%の人が経験・見聞きがある。次いで「地域活動の場」は 8.2%、「学校に関わる場」は 6.7%となっている。

性別でみると、いずれの場でも「自分が被害を受けたことがある」は女性の方が男性より割合が高く、特に「職場」では女性が 13.0%と最も高い。「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」はいずれの場でも男女同程度の割合で、「男性の知人・友人が被害を受けたことがある」はいずれの場でも男性の方が女性より割合が高くなっている。

年代別でみると、「職場」で経験・見聞きがある人は女性の 50 代で 44.8%と最も高く、「自分が被害を受けたことがある」と「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」は同率の 21.1%となっている。また、女性の 30 代でも「自分が被害を受けたことがある」が 19.6%と２番目に高くなっている。「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」は男性の 10・20 代と 30 代で２割を超えており、職場でのセクシュアルハラスメントの被害は女性が多いようである。

図表７－２　職場でのセクシュアルハラスメントの経験・見聞き［全体、年代別］

(%)

		標本数	(A)職場で						
			自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当（職場、地域活動、学校に関わっていない）	無回答	経験・見聞きあり
全体		720	64	100	40	360	156	25	**204**
		100.0	8.9	13.9	5.6	50.0	21.7	3.5	**28.4**
年代別	男性:10･20代	35	2.9	22.9	11.4	54.3	14.3	2.9	**37.2**
	男性:30代	58	5.2	24.1	8.6	53.4	12.1	3.4	**37.9**
	男性:40代	55	9.1	12.7	3.6	70.9	3.6	3.6	**25.4**
	男性:50代	53	7.5	17.0	1.9	69.8	3.8	－	**26.4**
	男性:60代	87	2.3	8.0	17.2	48.3	23.0	3.4	**27.5**
	男性:70歳以上	52	－	5.8	3.8	36.5	46.2	9.6	**9.6**
	女性:10･20代	31	6.5	12.9	－	58.1	22.6	－	**19.4**
	女性:30代	46	19.6	13.0	2.2	56.5	13.0	－	**34.8**
	女性:40代	73	13.7	19.2	4.1	54.8	12.3	1.4	**37.0**
	女性:50代	76	21.1	21.1	2.6	47.4	13.2	2.6	**44.8**
	女性:60代	90	7.8	12.2	4.4	32.2	42.2	2.2	**24.4**
	女性:70歳以上	59	8.5	1.7	1.7	40.7	39.0	8.5	**11.9**
	無回答	5	－	－	－	－	60.0	40.0	－

「地域活動の場」で経験・見聞きがある人は男性の 10・20 代と 30 代で１割を超えて高く、女性の 50 代でも１割弱ある。

図表７－３　地域活動の場でのセクシュアルハラスメントの経験・見聞き［全体、年代別］

(%)

		標本数	(B)地域活動の場で						
			自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当（職場、地域活動、学校に関わっていない）	無回答	経験・見聞きあり
全体		720	12	26	21	406	227	33	59
		100.0	1.7	3.6	2.9	56.4	31.5	4.6	8.2
年代別	男性:10･20代	35	－	2.9	11.4	54.3	31.4	2.9	14.3
	男性:30代	58	1.7	6.9	5.2	53.4	32.8	3.4	13.8
	男性:40代	55	1.8	－	－	69.1	20.0	9.1	1.8
	男性:50代	53	1.9	3.8	3.8	75.5	15.1	－	9.5
	男性:60代	87	－	5.7	3.4	58.6	28.7	4.6	9.1
	男性:70歳以上	52	1.9	1.9	5.8	51.9	32.7	5.8	9.6
	女性:10･20代	31	－	3.2	－	58.1	38.7	－	3.2
	女性:30代	46	2.2	2.2	2.2	56.5	39.1	－	6.6
	女性:40代	73	2.7	4.1	－	60.3	31.5	1.4	6.8
	女性:50代	76	3.9	3.9	1.3	48.7	36.8	5.3	9.1
	女性:60代	90	2.2	1.1	4.4	47.8	37.8	6.7	7.7
	女性:70歳以上	59	－	6.8	－	54.2	30.5	8.5	6.8
	無回答	5	－	－	－	－	60.0	40.0	－

「学校に関わる場」で経験・見聞きがある人は男性の 10・20 代で 22.9%と最も高く、「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」が 11.4%となっている。次いで、経験・見聞きは女性の 30 代で 13.1%あり、「自分が被害を受けたことがある」が 10.9%となっている。学校に関わる場でのセクシュアルハラスメントの被害は女性が多いようである

図表７－４　学校に関わる場でのセクシュアルハラスメントの経験・見聞き［全体、年代別］

(%)

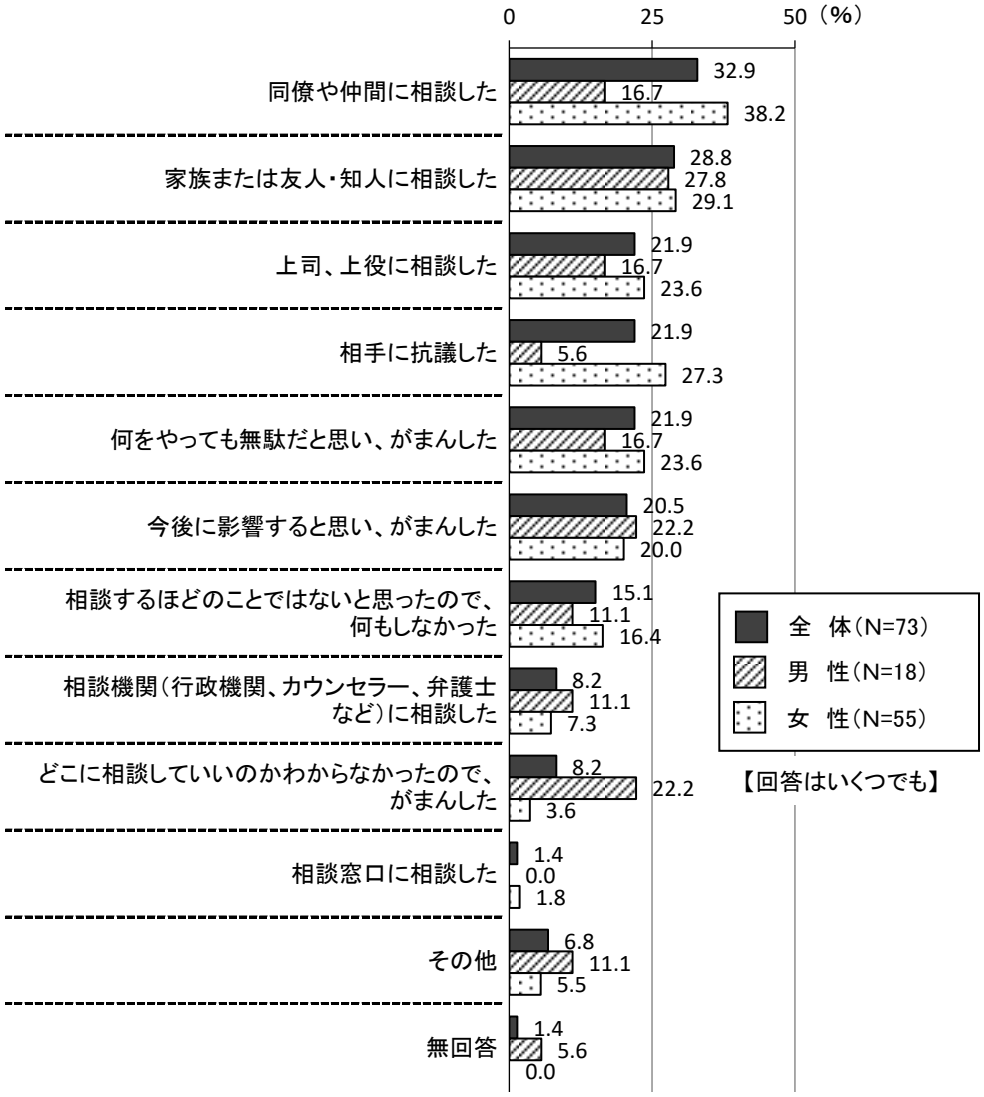
		標本数	(C)学校に関わる場で						
			自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当（職場、地域活動、学校に関わっていない）	無回答	経験・見聞きあり
全体		720	14	25	9	317	322	40	48
		100.0	1.9	3.5	1.3	44.0	44.7	5.6	6.7
年代別	男性:10･20代	35	2.9	11.4	8.6	51.4	28.6	2.9	22.9
	男性:30代	58	－	3.4	3.4	55.2	37.9	3.4	6.8
	男性:40代	55	3.6	－	－	60.0	27.3	9.1	3.6
	男性:50代	53	1.9	3.8	－	62.3	32.1	－	5.7
	男性:60代	87	1.1	3.4	2.3	39.1	50.6	5.7	6.8
	男性:70歳以上	52	－	1.9	－	23.1	65.4	9.6	1.9
	女性:10･20代	31	3.2	6.5	－	58.1	32.3	－	9.7
	女性:30代	46	10.9	2.2	－	50.0	39.1	－	13.1
	女性:40代	73	2.7	5.5	－	53.4	37.0	1.4	8.2
	女性:50代	76	－	6.6	－	38.2	50.0	5.3	6.6
	女性:60代	90	－	1.1	1.1	28.9	60.0	8.9	2.2
	女性:70歳以上	59	1.7	－	1.7	33.9	50.8	11.9	3.4
	無回答	5	－	－	－	－	60.0	40.0	－

２．セクシュアルハラスメントを受けたときの対応

●セクシュアルハラスメントを受けたときの対応について、男性は「どこに相談していいのかわからなかったので、がまんした」が女性より約 19 ポイント高く、女性は「同僚や仲間に相談した」「相手に抗議した」が約 20 ポイント男性より高い。

問 19 付問１**【問 19 の（Ａ）（Ｂ）（Ｃ）いずれかで「１．自分が被害を受けたことがある」と答えた方に】**その時あなたはどのように対応しましたか。（○印はいくつでも）

図表７－５　セクシュアルハラスメントを受けたときの対応［全体、性別］



最近３年間の間に「職場」「地域活動の場」「学校に関わる場」でセクシュアルハラスメントを「自分が被害を受けたことがある」と答えた人に、受けたときの対応をたずねた。

「同僚や仲間に相談した」が 32.9%、「家族または友人・知人に相談した」が 28.8%、「上司、上役に相談した」「相手に抗議した」「何をやっても無駄だと思い、がまんした」が同率の 21.9%、「今後に影響すると思い、がまんした」が 20.5%であげられている。

性別でみると、男性は「家族または友人・知人に相談した」が 27.8%で最も高く、次いで「今後に影響すると思い、がまんした」と「どこに相談していいのかわからなかったので、がまんした」が同率の 22.2%となっている。女性は「同僚や仲間に相談した」が 38.2%で最も高く、男性(16.7%)を21.5ポイント上回っている。また、「相手に抗議した」(27.3%)も男性（5.6%）を 21.7 ポイント上回っている。

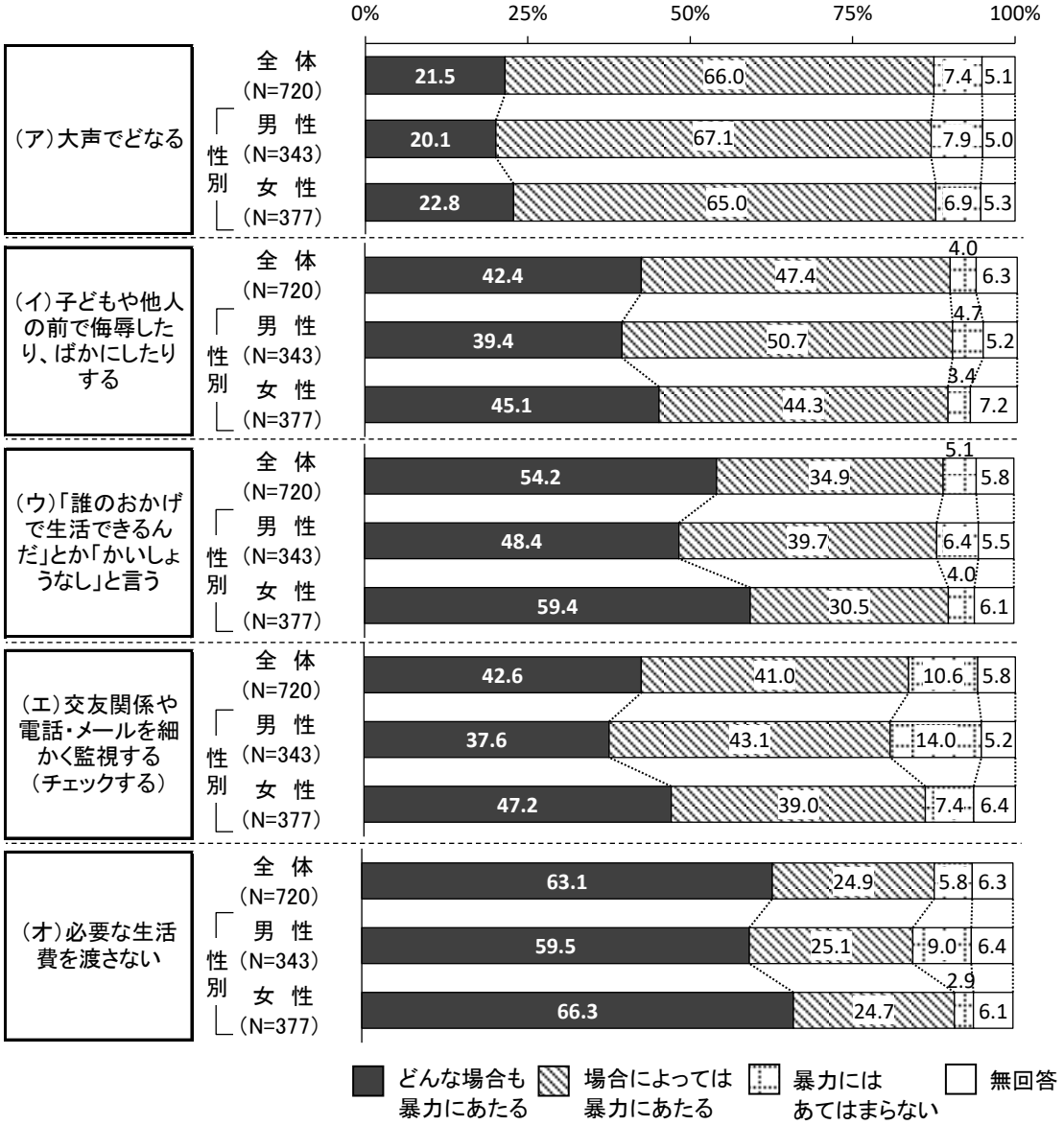
３．配偶者・パートナーからの暴力について

（１）配偶者・パートナー間の暴力の認知

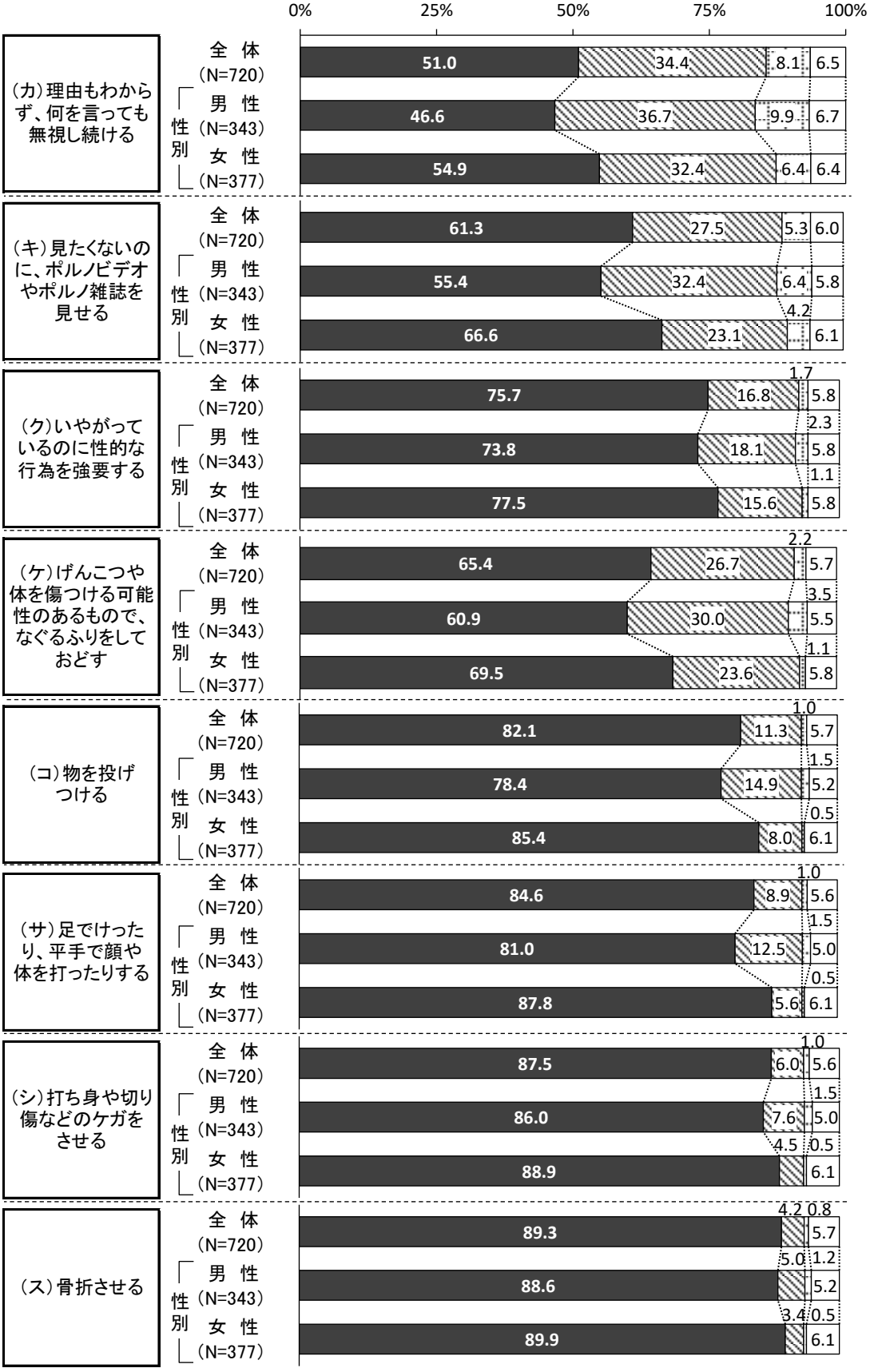
●身体的暴力の認知は８割台であるが、「大声でどなる」は２割台と最も低く、その他の精神的暴力、経済的暴力、性的暴力などの認知は４割台から６割台と低い。

問 20.（Ａ）あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の（ア）～（ス）の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

図表７－６（１）配偶者・パートナー間の暴力の認知［全体、性別］



図表７－６（２）配偶者・パートナー間の暴力の認知［全体、性別］



13 項目の行為について、配偶者や交際相手の間で行われた場合に暴力だと思うかどうかたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が最も高いのは「骨折させる」で 89.3%、次いで「打ち身や切り傷などのケガをさせる」が 87.5%、「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」が 84.6%、「物を投げつける」が 82.1%などとなっている。

ここであげた行為はすべて暴力行為であるが、「大声でどなる」の「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は 21.5%と最も低く、その他「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」(42.4%)、「交友関係や電話・メールを細かく監視する（チェックする)」(42.6%)、「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」(51.0%)、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」(54.2%)、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(61.3%)、「必要な生活費を渡さない」(63.1%)、「げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」(65.4%) などは４割台から６割台と低くなっている。

性別でみると、いずれの暴力も「どんな場合でも暴力にあたる」の割合は女性の方が男性よりも高く、「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(男性 55.4%、女性 66.6%) や「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」(同 48.4%、59.4%)、「交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」(同 37.6%、47.2%) など 10 ポイント前後の差がある。しかし、「大声でどなる」の「どんな場合でも暴力にあたる」は女性でも 22.8%と認知が低い。

年代別でみると、男性はほとんどの項目で 10・20 代と 30 代の層で「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が高い傾向がみられ、「物を投げつける」「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」「打ち身や切り傷などのケガをさせる」「骨折させる」などの身体的暴力については男性の 50 代の認知も高い。女性も年齢の低い層で暴力の認知が高い傾向がみられるが、「交友関係や電話・メールを細かく監視する（チェックする)」は 40 代から 60 代、「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」は 30 代から 50 代の認知が高い。

図表７－７（１）配偶者・パートナー間の暴力の認知［全体、年代別］

（%）

		標本数	(ア)大声でどなる				(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする				(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う			
			どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答
全体		720	155	475	53	37	305	341	29	45	390	251	37	42
		100.0	21.5	66.0	7.4	5.1	42.4	47.4	4.0	6.3	54.2	34.9	5.1	5.8
年代別	男性:10・20代	35	28.6	62.9	5.7	2.9	71.4	25.7	－	2.9	65.7	31.4	－	2.9
	男性:30代	58	24.1	60.3	13.8	1.7	51.7	39.7	6.9	1.7	63.8	24.1	10.3	1.7
	男性:40代	55	16.4	74.5	－	9.1	34.5	56.4	－	9.1	47.3	40.0	3.6	9.1
	男性:50代	53	18.9	66.0	11.3	3.8	37.7	50.9	7.5	3.8	43.4	43.4	9.4	3.8
	男性:60代	87	17.2	71.3	6.9	4.6	28.7	60.9	5.7	4.6	40.2	49.4	4.6	5.7
	男性:70歳以上	52	21.2	67.3	7.7	3.8	30.8	59.6	3.8	5.8	42.3	44.2	7.7	5.8
	女性:10・20代	31	19.4	74.2	6.5	－	54.8	38.7	6.5	－	61.3	35.5	3.2	－
	女性:30代	46	19.6	80.4	－	－	56.5	39.1	4.3	－	71.7	26.1	2.2	－
	女性:40代	73	34.2	58.9	5.5	1.4	47.9	49.3	－	2.7	69.9	26.0	2.7	1.4
	女性:50代	76	19.7	71.1	5.3	3.9	47.4	46.1	2.6	3.9	56.6	39.5	－	3.9
	女性:60代	90	21.1	63.3	11.1	4.4	40.0	46.7	5.6	7.8	56.7	27.8	7.8	7.8
	女性:70歳以上	59	20.3	50.8	10.2	18.6	32.2	40.7	3.4	23.7	45.8	28.8	6.8	18.6
	無回答	5	－	20.0	20.0	60.0	20.0	－	20.0	60.0	－	20.0	20.0	60.0

		標本数	(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)				(オ)必要な生活費を渡さない				(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける			
			どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答
全体		720	307	295	76	42	454	179	42	45	367	248	58	47
		100.0	42.6	41.0	10.6	5.8	63.1	24.9	5.8	6.3	51.0	34.4	8.1	6.5
年代別	男性:10・20代	35	42.9	42.9	11.4	2.9	60.0	25.7	8.6	5.7	54.3	37.1	5.7	2.9
	男性:30代	58	50.0	34.5	13.8	1.7	72.4	17.2	8.6	1.7	55.2	36.2	6.9	1.7
	男性:40代	55	30.9	50.9	9.1	9.1	50.9	34.5	5.5	9.1	49.1	38.2	3.6	9.1
	男性:50代	53	39.6	39.6	17.0	3.8	66.0	20.8	7.5	5.7	49.1	34.0	11.3	5.7
	男性:60代	87	32.2	47.1	16.1	4.6	56.3	27.6	10.3	5.7	37.9	42.5	12.6	6.9
	男性:70歳以上	52	36.5	44.2	13.5	5.8	53.8	25.0	13.5	7.7	44.2	30.8	15.4	9.6
	女性:10・20代	31	45.2	35.5	19.4	－	58.1	38.7	3.2	－	41.9	41.9	16.1	－
	女性:30代	46	39.1	58.7	2.2	－	76.1	23.9	－	－	65.2	26.1	8.7	－
	女性:40代	73	53.4	34.2	11.0	1.4	74.0	23.3	1.4	1.4	64.4	30.1	2.7	2.7
	女性:50代	76	51.3	43.4	1.3	3.9	69.7	23.7	2.6	3.9	61.8	31.6	2.6	3.9
	女性:60代	90	51.1	34.4	7.8	6.7	64.4	23.3	5.6	6.7	50.0	34.4	8.9	6.7
	女性:70歳以上	59	35.6	33.9	8.5	22.0	52.5	23.7	3.4	20.3	42.4	32.2	5.1	20.3
	無回答	5	20.0	－	20.0	60.0	40.0	－	－	60.0	－	20.0	20.0	60.0

		標本数	(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する				(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす			
			どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	無回答
全体		720	441	198	38	43	545	121	12	42	471	192	16	41
		100.0	61.3	27.5	5.3	6.0	75.7	16.8	1.7	5.8	65.4	26.7	2.2	5.7
年代別	男性:10・20代	35	71.4	22.9	2.9	2.9	91.4	5.7	－	2.9	77.1	17.1	2.9	2.9
	男性:30代	58	62.1	27.6	8.6	1.7	77.6	19.0	1.7	1.7	70.7	22.4	5.2	1.7
	男性:40代	55	58.2	32.7	－	9.1	78.2	12.7	－	9.1	54.5	36.4	－	9.1
	男性:50代	53	64.2	22.6	7.5	5.7	83.0	11.3	－	5.7	67.9	24.5	3.8	3.8
	男性:60代	87	44.8	43.7	5.7	5.7	63.2	27.6	3.4	5.7	59.8	31.0	4.6	4.6
	男性:70歳以上	52	46.2	34.6	13.5	5.8	65.4	21.2	7.7	5.8	44.2	44.2	3.8	7.7
	女性:10・20代	31	67.7	29.0	3.2	－	93.5	6.5	－	－	87.1	9.7	3.2	－
	女性:30代	46	82.6	15.2	2.2	－	91.3	8.7	－	－	89.1	10.9	－	－
	女性:40代	73	71.2	23.3	4.1	1.4	86.3	12.3	－	1.4	78.1	20.5	－	1.4
	女性:50代	76	68.4	23.7	3.9	3.9	80.3	15.8	－	3.9	68.4	26.3	1.3	3.9
	女性:60代	90	66.7	20.0	6.7	6.7	72.2	18.9	3.3	5.6	65.6	27.8	1.1	5.6
	女性:70歳以上	59	45.8	30.5	3.4	20.3	52.5	25.4	1.7	20.3	44.1	33.9	1.7	20.3
	無回答	5	20.0	20.0	－	60.0	20.0	20.0	－	60.0	－	40.0	－	60.0

図表７－７（２）配偶者・パートナー間の暴力の認知［全体、年代別］

(%)

		標本数	(コ)物を投げつける				(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする				(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる			
			どんな場合にあたるも	場合によって暴力にあたるは	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によって暴力にあたるは	暴力にはあてはまらない	無回答	どんな場合にあたるも	場合によって暴力にあたるは	暴力にはあてはまらない	無回答
全体		720	591	81	7	41	609	64	7	40	630	43	7	40
		100.0	82.1	11.3	1.0	5.7	84.6	8.9	1.0	5.6	87.5	6.0	1.0	5.6
年代別	男性:10・20代	35	85.7	11.4	－	2.9	77.1	20.0	－	2.9	88.6	8.6	－	2.9
	男性:30代	58	84.5	13.8	－	1.7	84.5	13.8	－	1.7	89.7	8.6	－	1.7
	男性:40代	55	72.7	18.2	－	9.1	81.8	9.1	－	9.1	85.5	5.5	－	9.1
	男性:50代	53	88.7	7.5	－	3.8	88.7	9.4	－	1.9	98.1	－	－	1.9
	男性:60代	87	73.6	17.2	4.6	4.6	77.0	13.8	4.6	4.6	79.3	11.5	4.6	4.6
	男性:70歳以上	52	73.1	19.2	1.9	5.8	80.8	11.5	1.9	5.8	82.7	9.6	1.9	5.8
	女性:10・20代	31	90.3	9.7	－	－	96.8	3.2	－	－	96.8	3.2	－	－
	女性:30代	46	93.5	6.5	－	－	97.8	2.2	－	－	100.0	－	－	－
	女性:40代	73	93.2	5.5	－	1.4	93.2	5.5	－	1.4	95.9	2.7	－	1.4
	女性:50代	76	85.5	10.5	－	3.9	90.8	5.3	－	3.9	90.8	5.3	－	3.9
	女性:60代	90	84.4	6.7	2.2	6.7	86.7	4.4	2.2	6.7	88.9	2.2	2.2	6.7
	女性:70歳以上	59	69.5	10.2	－	20.3	67.8	11.9	－	20.3	66.1	13.6	－	20.3
	無回答	5	40.0	－	－	60.0	40.0	－	－	60.0	40.0	－	－	60.0

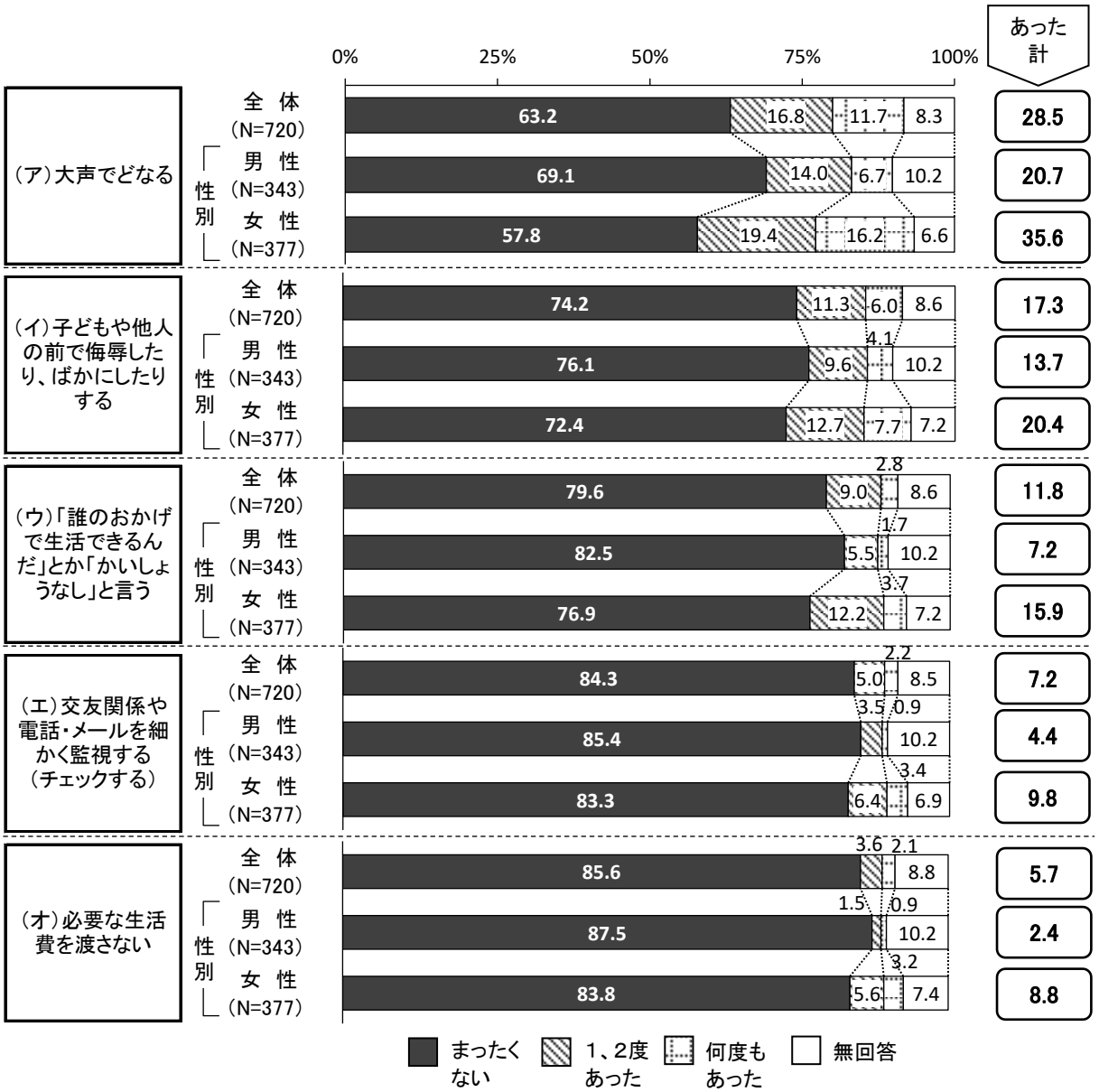
		標本数	(ス)骨折させる			
			どんな場合にあたるも	場合によって暴力にあたるは	暴力にはあてはまらない	無回答
全体		720	643	30	6	41
		100.0	89.3	4.2	0.8	5.7
年代別	男性:10・20代	35	91.4	5.7	－	2.9
	男性:30代	58	93.1	5.2	－	1.7
	男性:40代	55	87.3	3.6	－	9.1
	男性:50代	53	98.1	－	－	1.9
	男性:60代	87	81.6	9.2	3.4	5.7
	男性:70歳以上	52	88.5	3.8	1.9	5.8
	女性:10・20代	31	93.5	6.5	－	－
	女性:30代	46	100.0	－	－	－
	女性:40代	73	97.3	1.4	－	1.4
	女性:50代	76	92.1	3.9	－	3.9
	女性:60代	90	88.9	2.2	2.2	6.7
	女性:70歳以上	59	71.2	8.5	－	20.3
	無回答	5	40.0	－	－	60.0

（２）配偶者・パートナーからの暴力の経験

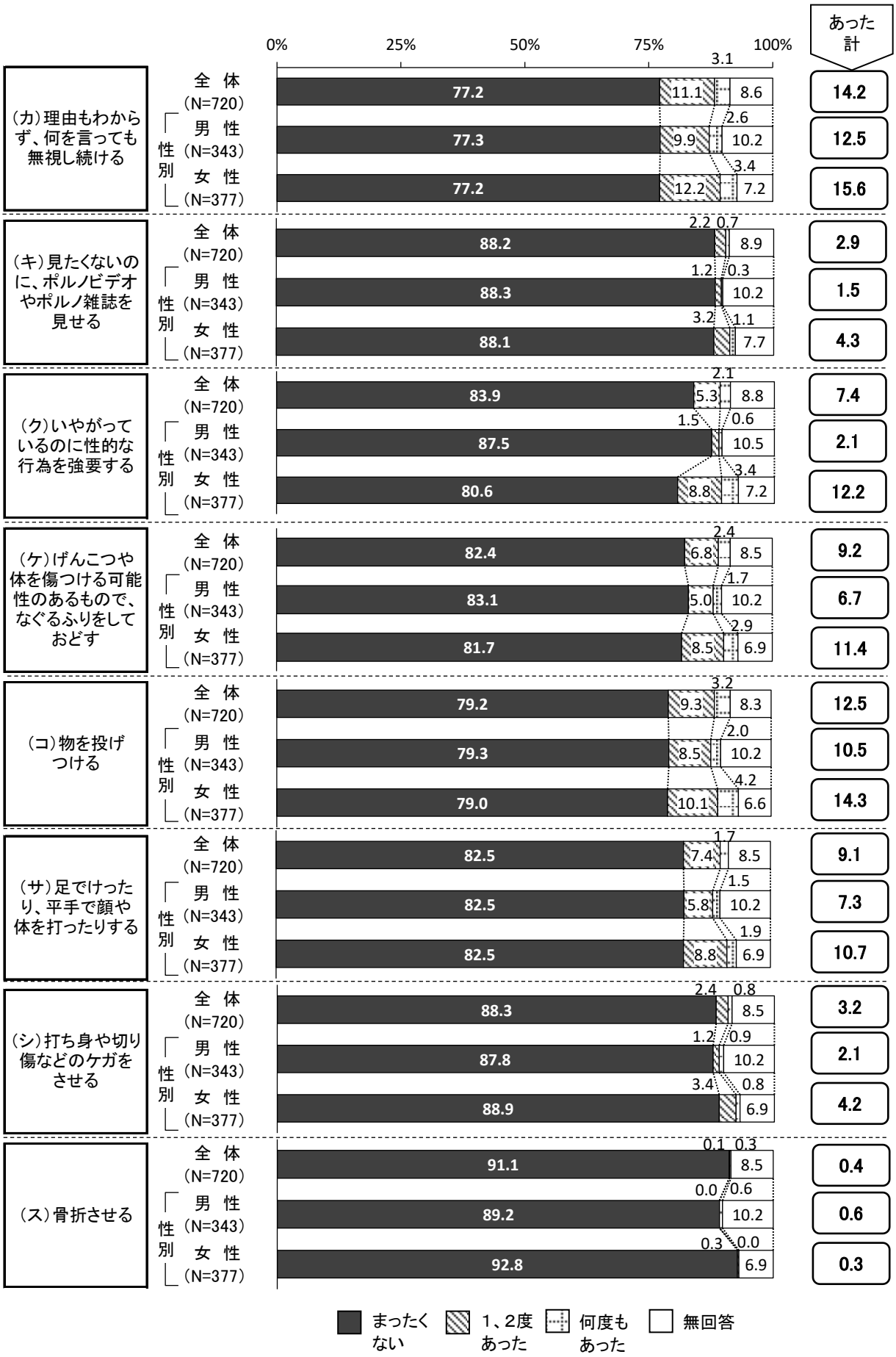
●配偶者・パートナーからの暴力の経験は女性４割台半ば、男性３割。
●具体的には「大声でどなる」や「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」などの精神的暴力が多い。

問 20.（Ｂ）あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった人から次の（ア）～（ス）のようなことをされたことがありますか。（○印はそれぞれ１つ）

図表７－８（１）配偶者・パートナーからの暴力の経験［全体、性別］



図表７－８（２）配偶者・パートナーからの暴力の経験［全体、性別］



配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から暴力を受けたことがあるかどうか、暴力の内容ごとにたずねた。

「何度もあった」と「１、２度あった」を合計した『あった』は、「大声でどなる」が 28.5%と最も高く、次いで「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」（17.3%）、「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」（14.2%）、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」（11.8%）などが１割を超えており、いずれも暴力であるとの認知が低いものが上位にあげられている。

性別でみると、「骨折をさせる」以外の暴力は女性の方が男性よりも経験している割合が高い。特に「大声でどなる」は、女性の『あった』は 35.6%と３分の１強、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」は 20.4%、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」は 15.9%、「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」は 15.6%、「物を投げつける」は 14.3%、「いやがっているのに性的な行為を強要する」は 12.2%、「げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」は 11.4%、「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」は 10.7%など１割を超えるものが多い。

年代別でみると、ほとんどの項目で女性は 40 代と 50 代を中心にその前後の年代で『あった』の割合が高い傾向がみられる。男性も年齢の高い層で暴力の経験が高い傾向がみられるが、「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」は男性の 10・20 代で 11.5%と高い。

図表７－９（１）配偶者・パートナーからの暴力の経験［全体、年代別］

(%)

		標本数	(ア)大声でどなる					(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする					(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う				
			まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**
全体		720	455	121	84	60	**205**	534	81	43	62	**124**	573	65	20	62	**85**
		100.0	63.2	16.8	11.7	8.3	**28.5**	74.2	11.3	6.0	8.6	**17.3**	79.6	9.0	2.8	8.6	**11.8**
年代別	男性:10・20代	35	77.1	5.7	5.7	11.4	**11.4**	82.9	5.7	－	11.4	**5.7**	85.7	2.9	－	11.4	**2.9**
	男性:30代	58	65.5	10.3	12.1	12.1	**22.4**	77.6	6.9	3.4	12.1	**10.3**	86.2	1.7	1.7	10.3	**3.4**
	男性:40代	55	67.3	16.4	5.5	10.9	**21.9**	72.7	12.7	3.6	10.9	**16.3**	80.0	7.3	1.8	10.9	**9.1**
	男性:50代	53	64.2	17.0	7.5	11.3	**24.5**	73.6	5.7	9.4	11.3	**15.1**	83.0	3.8	1.9	11.3	**5.7**
	男性:60代	87	70.1	17.2	4.6	8.0	**21.8**	74.7	13.8	3.4	8.0	**17.2**	78.2	8.0	3.4	10.3	**11.4**
	男性:70歳以上	52	73.1	13.5	5.8	7.7	**19.3**	78.8	9.6	3.8	7.7	**13.4**	86.5	7.7	－	5.8	**7.7**
	女性:10・20代	31	77.4	9.7	6.5	6.5	**16.2**	83.9	9.7	－	6.5	**9.7**	90.3	3.2	－	6.5	**3.2**
	女性:30代	46	60.9	23.9	10.9	4.3	**34.8**	84.8	8.7	2.2	4.3	**10.9**	84.8	10.9	－	4.3	**10.9**
	女性:40代	73	58.9	16.4	21.9	2.7	**38.3**	69.9	15.1	12.3	2.7	**27.4**	82.2	11.0	2.7	4.1	**13.7**
	女性:50代	76	46.1	30.3	19.7	3.9	**50.0**	68.4	11.8	15.8	3.9	**27.6**	69.7	17.1	9.2	3.9	**26.3**
	女性:60代	90	60.0	20.0	13.3	6.7	**33.3**	70.0	17.8	5.6	6.7	**23.4**	76.7	13.3	3.3	6.7	**16.6**
	女性:70歳以上	59	55.9	10.2	18.6	15.3	**28.8**	69.5	8.5	3.4	18.6	**11.9**	67.8	11.9	3.4	16.9	**15.3**
	無回答	5	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**

		標本数	(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)					(オ)必要な生活費を渡さない					(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける				
			まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**
全体		720	607	36	16	61	**52**	616	26	15	63	**41**	556	80	22	62	**102**
		100.0	84.3	5.0	2.2	8.5	**7.2**	85.6	3.6	2.1	8.8	**5.7**	77.2	11.1	3.1	8.6	**14.2**
年代別	男性:10・20代	35	85.7	－	2.9	11.4	**2.9**	82.9	－	2.9	14.3	**2.9**	80.0	－	8.6	11.4	**8.6**
	男性:30代	58	84.5	3.4	1.7	10.3	**5.1**	87.9	－	1.7	10.3	**1.7**	81.0	6.9	1.7	10.3	**8.6**
	男性:40代	55	83.6	5.5	－	10.9	**5.5**	89.1	－	－	10.9	**－**	78.2	9.1	1.8	10.9	**10.9**
	男性:50代	53	79.2	7.5	1.9	11.3	**9.4**	86.8	1.9	－	11.3	**1.9**	66.0	17.0	5.7	11.3	**22.7**
	男性:60代	87	87.4	2.3	－	10.3	**2.3**	87.4	2.3	1.1	9.2	**3.4**	79.3	10.3	1.1	9.2	**11.4**
	男性:70歳以上	52	92.3	1.9	－	5.8	**1.9**	90.4	3.8	－	5.8	**3.8**	78.8	13.5	－	7.7	**13.5**
	女性:10・20代	31	83.9	6.5	3.2	6.5	**9.7**	93.5	－	－	6.5	**－**	93.5	－	－	6.5	**－**
	女性:30代	46	89.1	4.3	2.2	4.3	**6.5**	89.1	4.3	2.2	4.3	**6.5**	84.8	4.3	6.5	4.3	**10.8**
	女性:40代	73	79.5	11.0	6.8	2.7	**17.8**	89.0	5.5	2.7	2.7	**8.2**	79.5	11.0	6.8	2.7	**17.8**
	女性:50代	76	78.9	11.8	5.3	3.9	**17.1**	77.6	10.5	7.9	3.9	**18.4**	76.3	14.5	3.9	5.3	**18.4**
	女性:60代	90	90.0	1.1	2.2	6.7	**3.3**	83.3	5.6	3.3	7.8	**8.9**	71.1	18.9	2.2	7.8	**21.1**
	女性:70歳以上	59	79.7	3.4	－	16.9	**3.4**	78.0	3.4	－	18.6	**3.4**	71.2	13.6	－	15.3	**13.6**
	無回答	5	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**

図表７－９（２）配偶者・パートナーからの暴力の経験［全体、年代別］

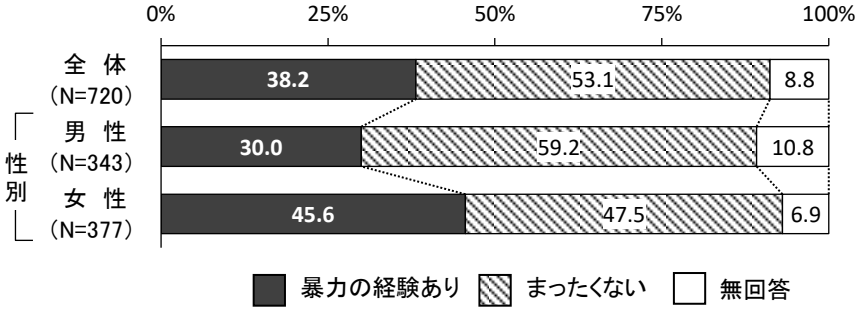
（%）

		標本数	(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる					(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する					(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす				
			まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**
全体		720	635	16	5	64	**21**	604	38	15	63	**53**	593	49	17	61	**66**
		100.0	88.2	2.2	0.7	8.9	**2.9**	83.9	5.3	2.1	8.8	**7.4**	82.4	6.8	2.4	8.5	**9.2**
年代別	男性:10･20代	35	82.9	5.7	－	11.4	**5.7**	88.6	－	－	11.4	**－**	85.7	－	2.9	11.4	**2.9**
	男性:30代	58	87.9	－	1.7	10.3	**1.7**	84.5	1.7	3.4	10.3	**5.1**	81.0	5.2	3.4	10.3	**8.6**
	男性:40代	55	89.1	－	－	10.9	**－**	89.1	－	－	10.9	**－**	81.8	5.5	1.8	10.9	**7.3**
	男性:50代	53	86.8	－	－	13.2	**－**	86.8	－	－	13.2	**－**	86.8	－	1.9	11.3	**1.9**
	男性:60代	87	90.8	－	－	9.2	**－**	88.5	2.3	－	9.2	**2.3**	82.8	6.9	1.1	9.2	**8.0**
	男性:70歳以上	52	90.4	3.8	－	5.8	**3.8**	88.5	3.8	－	7.7	**3.8**	82.7	9.6	－	7.7	**9.6**
	女性:10･20代	31	90.3	3.2	－	6.5	**3.2**	93.5	－	－	6.5	**－**	87.1	3.2	3.2	6.5	**6.4**
	女性:30代	46	95.7	－	－	4.3	**－**	89.1	6.5	－	4.3	**6.5**	87.0	8.7	－	4.3	**8.7**
	女性:40代	73	93.2	2.7	1.4	2.7	**4.1**	84.9	6.8	5.5	2.7	**12.3**	83.6	9.6	4.1	2.7	**13.7**
	女性:50代	76	86.8	3.9	3.9	5.3	**7.8**	80.3	9.2	6.6	3.9	**15.8**	77.6	11.8	6.6	3.9	**18.4**
	女性:60代	90	86.7	5.6	－	7.8	**5.6**	76.7	13.3	2.2	7.8	**15.5**	83.3	7.8	2.2	6.7	**10.0**
	女性:70歳以上	59	79.7	1.7	－	18.6	**1.7**	69.5	10.2	3.4	16.9	**13.6**	76.3	6.8	－	16.9	**6.8**
	無回答	5	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**

		標本数	(コ)物を投げつける					(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする					(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる				
			まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**	まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**
全体		720	570	67	23	60	**90**	594	53	12	61	**65**	636	17	6	61	**23**
		100.0	79.2	9.3	3.2	8.3	**12.5**	82.5	7.4	1.7	8.5	**9.1**	88.3	2.4	0.8	8.5	**3.2**
年代別	男性:10･20代	35	80.0	2.9	5.7	11.4	**8.6**	77.1	8.6	2.9	11.4	**11.5**	88.6	－	－	11.4	**－**
	男性:30代	58	84.5	3.4	1.7	10.3	**5.1**	84.5	3.4	1.7	10.3	**5.1**	87.9	－	1.7	10.3	**1.7**
	男性:40代	55	76.4	9.1	3.6	10.9	**12.7**	83.6	3.6	1.8	10.9	**5.4**	87.3	－	1.8	10.9	**1.8**
	男性:50代	53	79.2	7.5	1.9	11.3	**9.4**	79.2	7.5	1.9	11.3	**9.4**	86.8	－	1.9	11.3	**1.9**
	男性:60代	87	75.9	13.8	1.1	9.2	**14.9**	85.1	4.6	1.1	9.2	**5.7**	87.4	3.4	－	9.2	**3.4**
	男性:70歳以上	52	82.7	9.6	－	7.7	**9.6**	82.7	9.6	－	7.7	**9.6**	90.4	1.9	－	7.7	**1.9**
	女性:10･20代	31	87.1	3.2	3.2	6.5	**6.4**	87.1	3.2	3.2	6.5	**6.4**	90.3	3.2	－	6.5	**3.2**
	女性:30代	46	84.8	10.9	－	4.3	**10.9**	82.6	13.0	－	4.3	**13.0**	87.0	8.7	－	4.3	**8.7**
	女性:40代	73	80.8	11.0	5.5	2.7	**16.5**	83.6	13.7	－	2.7	**13.7**	93.2	2.7	1.4	2.7	**4.1**
	女性:50代	76	77.6	11.8	6.6	3.9	**18.4**	80.3	10.5	5.3	3.9	**15.8**	88.2	5.3	2.6	3.9	**7.9**
	女性:60代	90	81.1	8.9	4.4	5.6	**13.3**	86.7	5.6	1.1	6.7	**6.7**	91.1	2.2	－	6.7	**2.2**
	女性:70歳以上	59	67.8	11.9	3.4	16.9	**15.3**	76.3	5.1	1.7	16.9	**6.8**	83.1	－	－	16.9	**－**
	無回答	5	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**	60.0	－	－	40.0	**－**

		標本数	(ス)骨折させる				
			まったくない	1、2度あった	何度もあった	無回答	**あった計**
全体		720	656	1	2	61	**3**
		100.0	91.1	0.1	0.3	8.5	**0.4**
年代別	男性:10･20代	35	88.6	－	－	11.4	**－**
	男性:30代	58	87.9	－	1.7	10.3	**1.7**
	男性:40代	55	89.1	－	－	10.9	**－**
	男性:50代	53	86.8	－	1.9	11.3	**1.9**
	男性:60代	87	90.8	－	－	9.2	**－**
	男性:70歳以上	52	92.3	－	－	7.7	**－**
	女性:10･20代	31	93.5	－	－	6.5	**－**
	女性:30代	46	95.7	－	－	4.3	**－**
	女性:40代	73	97.3	－	－	2.7	**－**
	女性:50代	76	94.7	－	－	5.3	**－**
	女性:60代	90	93.3	1.1	－	5.6	**1.1**
	女性:70歳以上	59	83.1	－	－	16.9	**－**
	無回答	5	60.0	－	－	40.0	**－**

図表７－10　配偶者・パートナーからの暴力の経験・まとめ［全体、性別］



13 項目からなる暴力に一つでも「何度もあった」「１、２度あった」と回答した「暴力の経験あり」は 38.2%、「まったくない」は 53.1%となっている。

性別でみると、女性の「暴力の経験あり」は 45.6%、男性は 30.0%となっている。

年代別でみると、「暴力の経験あり」は女性の 50 代（53.9%）と 60 代（53.3%）で５割を超え、30 代（43.5%）と 40 代（46.6%）でも４割台と高い。

配偶関係別でみると、「暴力の経験あり」は女性の既婚で５割前後と高いが、女性の離別では標本数は少ないが 67.9%と７割近くとなっている。

図表７－11　配偶者・パートナーからの暴力の経験・まとめ［全体、年代別、配偶関係別］

(%)

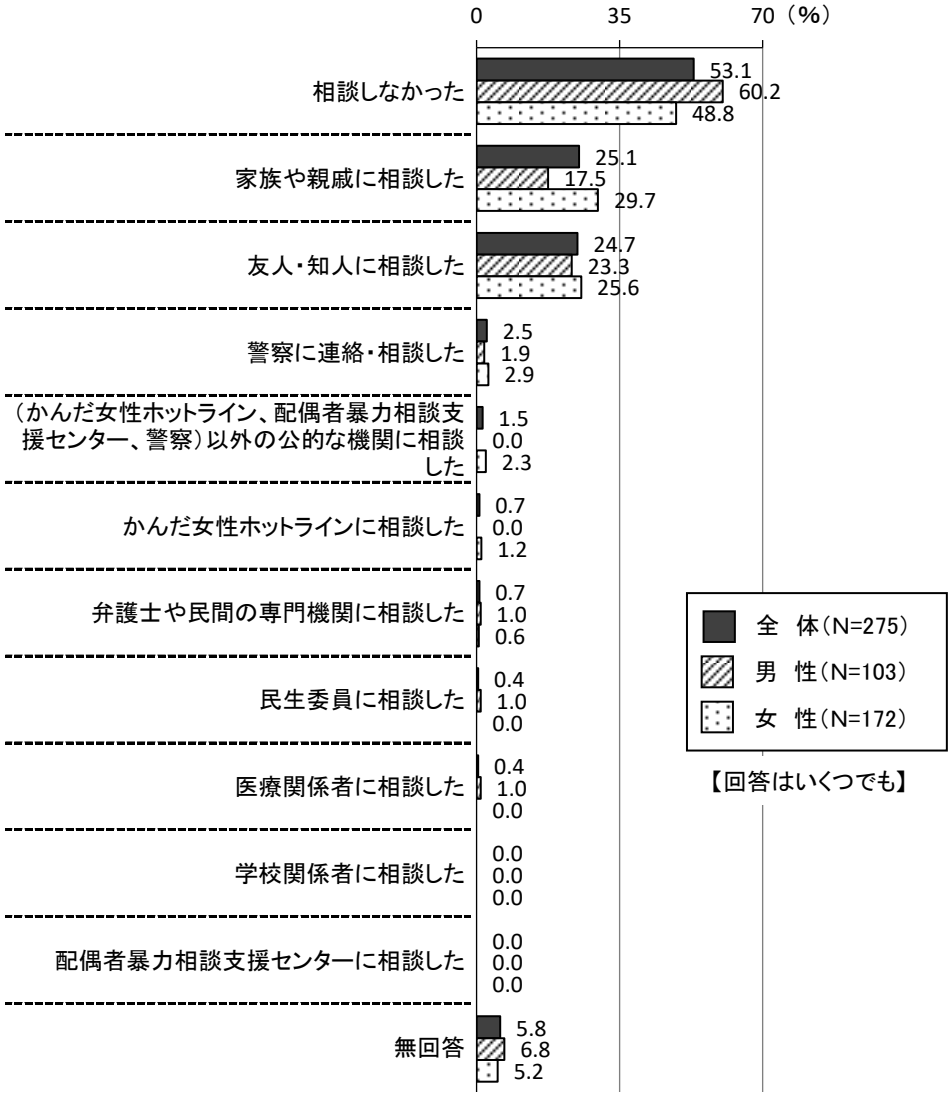
		標本数	暴力の経験あり	まったくない	無回答
全 体		720	275	382	63
		100.0	38.2	53.1	8.8
年代別	男性:10･20代	35	22.9	62.9	14.3
	男性:30代	58	25.9	62.1	12.1
	男性:40代	55	29.1	60.0	10.9
	男性:50代	53	34.0	54.7	11.3
	男性:60代	87	33.3	57.5	9.2
	男性:70歳以上	52	32.7	59.6	7.7
	女性:10･20代	31	22.6	71.0	6.5
	女性:30代	46	43.5	52.2	4.3
	女性:40代	73	46.6	50.7	2.7
	女性:50代	76	53.9	42.1	3.9
	女性:60代	90	53.3	40.0	6.7
	女性:70歳以上	59	37.3	45.8	16.9
	無回答	5	－	60.0	40.0
配偶関係別	男性:結婚したことはない	82	15.9	61.0	23.2
	男性:既婚(共働きである)	115	30.4	63.5	6.1
	男性:既婚(共働きでない)	116	37.1	56.0	6.9
	男性:死別	2	50.0	50.0	－
	男性:離別	20	40.0	50.0	10.0
	男性:その他	1	100.0	－	－
	女性:結婚したことはない	80	27.5	61.3	11.3
	女性:既婚(共働きである)	120	49.2	48.3	2.5
	女性:既婚(共働きでない)	114	54.4	42.1	3.5
	女性:死別	29	31.0	55.2	13.8
	女性:離別	28	67.9	17.9	14.3
	女性:その他	1	100.0	－	－
	無回答	12	16.7	58.3	25.0

（３）相談先

●暴力についての相談は主に「家族・親族」「友人・知人」が多い。「相談しなかった」は男性が約６割、女性が約５割で男性に多い。

問 20．付問１．**〔問 20（Ｂ）でひとつでも「１、２度あった」「何度もあった」と答えた方に〕**あなたはこれまでに、問 20（ア）～（ス）のようなことをされたとき、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（○印はいくつでも）

図表７－12　暴力についての相談先［全体、性別］



配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から暴力を受けたことが、「何度もあった」「１、２度あった」と回答した 275 人に、そのことについて誰かに打ち明けたり相談したりしたかたずねたところ、「相談しなかった」が 53.1％で最も高かった。打ち明けたり相談したりした相手は「家族や親戚に相談した」（25.1％）、「友人・知人に相談した」（24.7％）が主な相談先となっており、専門家や相談機関、公的機関に相談したという人はわずかで、「かんだ女性ホットラインに相談した」は 0.7％と低かった。

性別でみると、男性では「相談しなかった」が 60.2%と多いが、女性も 48.8%ある。女性では「家族や親戚に相談した」（男性 17.5%、女性 29.7%）が男性より 12.2 ポイント高い。

年代別でみると、「相談しなかった」は男性の 10・20 代と 70 歳以上で約７割から９割近く、女性は 60 代以上で約６割から７割近くと高い。「友人・知人に相談した」は男性の 30 代と女性の 10・20 代で４割台、「家族や親戚に相談した」は男性の 40 代、女性の 40 代と 50 代で４割前後と高い。「かんだ女性ホットラインに相談した」は女性の 30 代と 40 代で相談がみられ、「警察に連絡・相談した」は女性の 40 代で 11.8%と１割を超えている。

図表７－13　暴力についての相談先［全体、年代別］

(%)

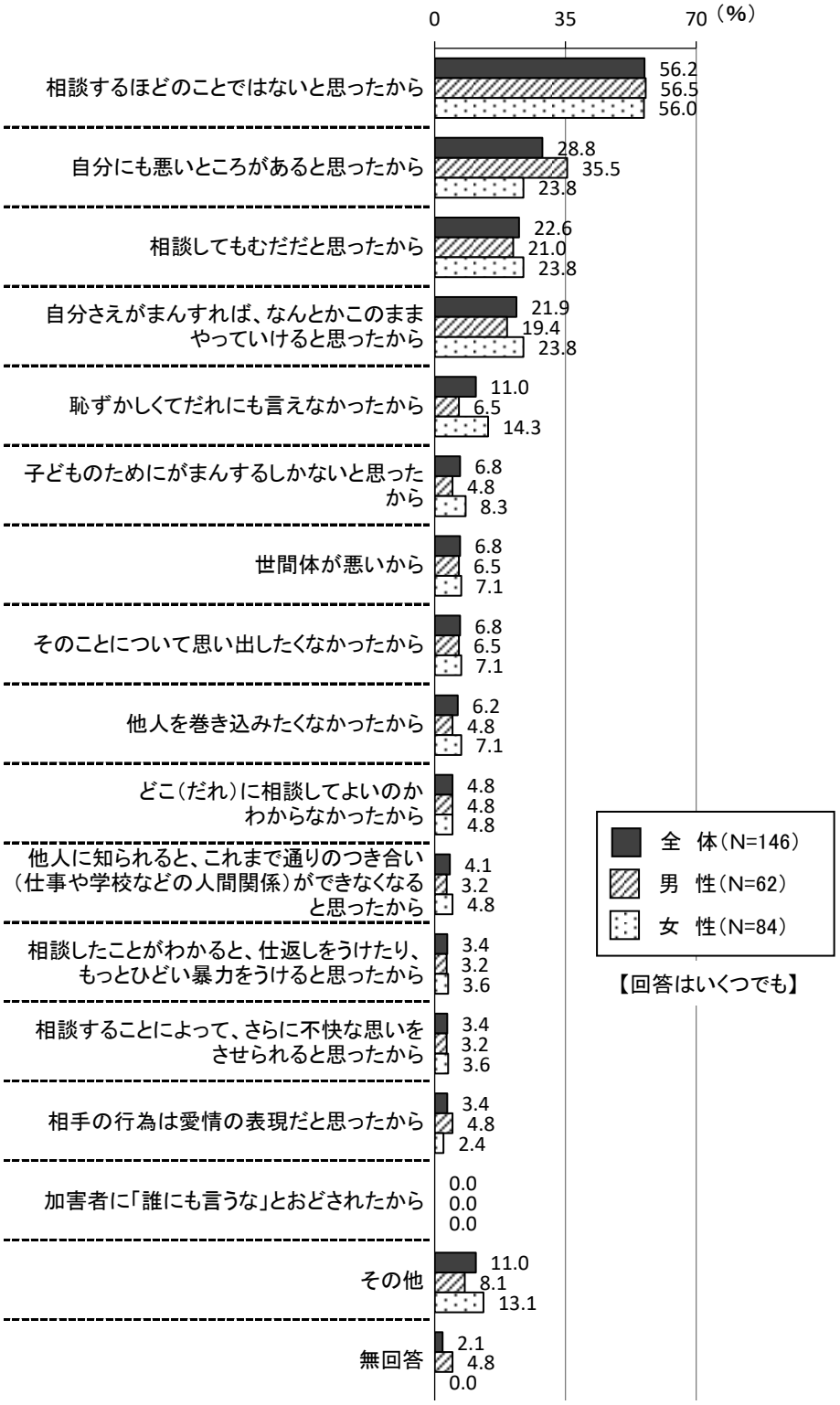
		標本数	友人・知人に相談した	家族や親戚に相談した	学校関係者に相談した	民生委員に相談した	かんだ女性ホットラインに相談した	医療関係者に相談した	弁護士や民間の専門機関に相談した	配偶者暴力相談支援センターに相談した	警察に連絡・相談した	（かんだ女性ホットライン、配偶者暴力相談支援センター、警察）以外の公的な機関に相談した	相談しなかった	無回答
全体		275	68	69	－	1	2	1	2	－	7	4	146	16
		100.0	24.7	25.1	－	0.4	0.7	0.4	0.7	－	2.5	1.5	53.1	5.8
年代別	男性:10･20代	8	12.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	87.5	－
	男性:30代	15	40.0	26.7	－	－	－	－	－	－	－	－	46.7	－
	男性:40代	16	25.0	37.5	－	－	－	－	－	－	－	－	56.3	6.3
	男性:50代	18	11.1	11.1	－	5.6	－	－	5.6	－	5.6	－	66.7	11.1
	男性:60代	29	27.6	17.2	－	－	－	3.4	－	－	3.4	－	51.7	10.3
	男性:70歳以上	17	17.6	5.9	－	－	－	－	－	－	－	－	70.6	5.9
	女性:10･20代	7	42.9	28.6	－	－	－	－	－	－	－	－	42.9	－
	女性:30代	20	30.0	35.0	－	－	5.0	－	－	－	5.0	－	50.0	－
	女性:40代	34	32.4	38.2	－	－	2.9	－	2.9	－	11.8	2.9	32.4	8.8
	女性:50代	41	29.3	41.5	－	－	－	－	－	－	－	4.9	39.0	2.4
	女性:60代	48	20.8	16.7	－	－	－	－	－	－	－	2.1	60.4	8.3
	女性:70歳以上	22	9.1	18.2	－	－	－	－	－	－	－	－	68.2	4.5

（４）相談しなかった理由

●暴力を受けたことについて相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」。

問 20. 付問１－１ **【問 20 付問１で「11. 相談しなかった」と答えた方に】**
あなたがどこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○印はいくつでも）

図表７－14　暴力について相談しなかった理由［全体、性別］



「相談しなかった」と回答した 146 人に、その理由をたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」が 56.2%で最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 28.8%、「相談してもむだだと思ったから」が 22.6%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 21.9%などとなっている。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は男女とも５割台半ばと同程度あり、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が 35.5%で女性の 23.8%を 11.7 ポイント上回っている。女性は「はずかしくてだれにも言えなかった」(男性 6.5%、女性 14.3%）や「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（同 19.4%、23.8%)、「子どものためにがまんするしかないと思ったから」（同 4.8%、8.3%）などが男性の割合を上回っている。

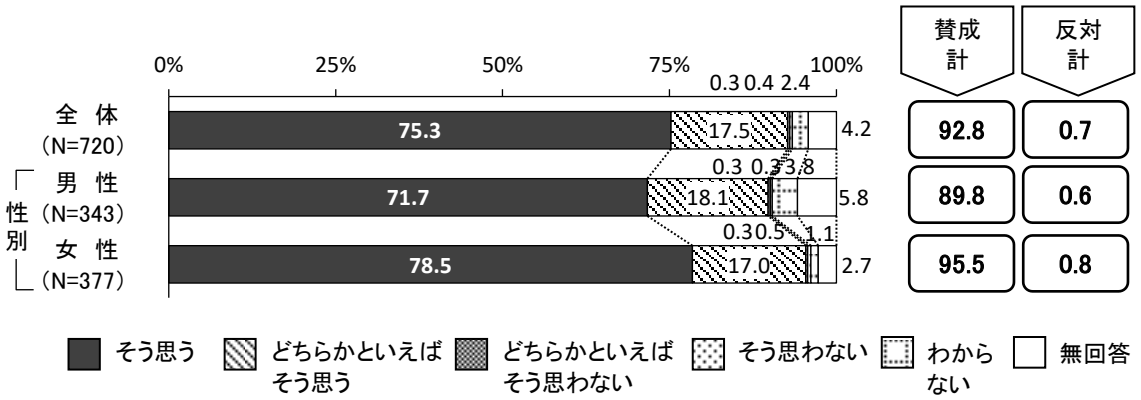
４．妊娠や性に関しての考え方

●「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で十分に話し合うべき」の『賛成』は９割超。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人間で合意できない場合は、女性の意思が尊重されるべき」の『賛成』は７割台半ば。

問 21．次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

（ア）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである

図表７－15　妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである［全体、性別］



「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである」について、「そう思う」が 75.3%、「どちらかといえばそう思う」が 17.5%でこれらをあわせた『賛成』は 92.8%である。他方、「そう思わない」は 0.4%、「どちらかといえばそう思わない」は 0.3%でこれらをあわせた『反対』は 0.7%とわずかである。

性別でみると、女性の『賛成』は 95.5%で男性（89.8%）を 5.7 ポイント上回っており、特に『賛成』のうち積極的な賛成である「そう思う」は 78.5%と男性（71.7%）を 6.8 ポイント上回っている。

年代別でみると、『賛成』は女性のいずれの年代も、男性は 50 代以下で９割を超えている。積極的な賛成である「そう思う」は女性では年齢の低い層で高くなる傾向がみられるが、男性は 10・20 代と 50 代で８割台半ばと高い。

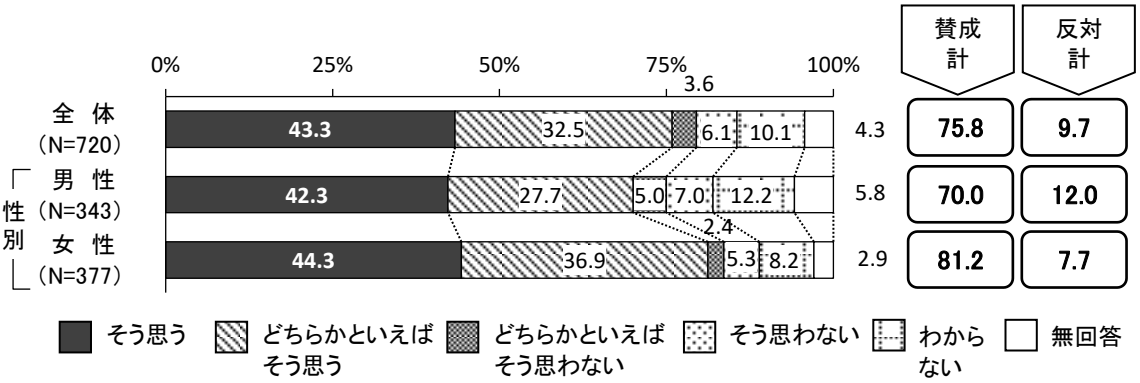
図表７－16　妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである［全体、年代別］

（%）

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成計	反対計
全体		720	542	126	2	3	17	30	668	5
		100.0	75.3	17.5	0.3	0.4	2.4	4.2	92.8	0.7
年代別	男性:10･20代	35	85.7	8.6	－	－	2.9	2.9	94.3	－
	男性:30代	58	75.9	20.7	－	－	3.4	－	96.6	－
	男性:40代	55	76.4	14.5	－	－	1.8	7.3	90.9	－
	男性:50代	53	83.0	11.3	－	－	－	5.7	94.3	－
	男性:60代	87	63.2	24.1	1.1	－	4.6	6.9	87.3	1.1
	男性:70歳以上	52	57.7	23.1	－	1.9	9.6	7.7	80.8	1.9
	女性:10･20代	31	90.3	9.7	－	－	－	－	100.0	－
	女性:30代	46	84.8	13.0	－	－	－	2.2	97.8	－
	女性:40代	73	78.1	17.8	－	1.4	2.7	－	95.9	1.4
	女性:50代	76	78.9	17.1	1.3	－	－	2.6	96.0	1.3
	女性:60代	90	72.2	21.1	－	1.1	1.1	4.4	93.3	1.1
	女性:70歳以上	59	78.0	16.9	－	－	1.7	3.4	94.9	－
	無回答	5	40.0	－	－	－	－	60.0	40.0	－

（イ）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重される

図表７－17　妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重される［全体、性別］



「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重される」については、「そう思う」は 43.3%、「どちらかといえばそう思う」が 32.5%と『賛成』は 75.8%、『反対』は 9.7%、「わからない」が 10.1%となっている。先の「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである」に比べると積極的な賛成である「そう思う」は 32 ポイント低く、消極的な賛成である「どちらかといえばそう思う」が 15 ポイント高い。

性別でみると、男女とも積極的な賛成である「そう思う」は４割強と大差はみられず、消極的な賛成である「どちらかといえばそう思う」は女性の方が 9.2 ポイント高い。男性は『反対』や「わからない」が女性よりも約４ポイント高い。

年代別でみると、男性は 10・20 代と 30 代では積極的な賛成である「そう思う」は 40 代や 50 代に比べて高いが、積極的な反対である「そう思わない」が１割を超えており、『反対』は２割前後と他の年代に比べて高い。女性は 10・20 代で積極的な賛成である「そう思う」が 64.5％と最も高い。また、30 代は「そう思う」が 41.3％と 60 代以上よりも低いが、消極的な賛成である「どちらかといえばそう思う」が 43.5％で『賛成』は 84.8％と女性の中では 70 歳以上に次いで２番目に高い。

図表７－18　妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重される［全体、年代別］

（%）

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成計	反対計
全体		720	312	234	26	44	73	31	546	70
		100.0	43.3	32.5	3.6	6.1	10.1	4.3	75.8	9.7
年代別	男性:10･20代	35	42.9	22.9	11.4	11.4	8.6	2.9	65.8	22.8
	男性:30代	58	46.6	15.5	1.7	15.5	20.7	－	62.1	17.2
	男性:40代	55	34.5	34.5	10.9	－	12.7	7.3	69.0	10.9
	男性:50代	53	37.7	35.8	5.7	7.5	7.5	5.7	73.5	13.2
	男性:60代	87	48.3	26.4	3.4	5.7	9.2	6.9	74.7	9.1
	男性:70歳以上	52	42.3	32.7	－	1.9	15.4	7.7	75.0	1.9
	女性:10･20代	31	64.5	16.1	3.2	6.5	9.7	－	80.6	9.7
	女性:30代	46	41.3	43.5	2.2	4.3	6.5	2.2	84.8	6.5
	女性:40代	73	39.7	41.1	－	8.2	9.6	1.4	80.8	8.2
	女性:50代	76	36.8	44.7	2.6	3.9	9.2	2.6	81.5	6.5
	女性:60代	90	46.7	28.9	4.4	6.7	8.9	4.4	75.6	11.1
	女性:70歳以上	59	49.2	39.0	1.7	1.7	5.1	3.4	88.2	3.4
	無回答	5	－	20.0	－	20.0	－	60.0	20.0	20.0

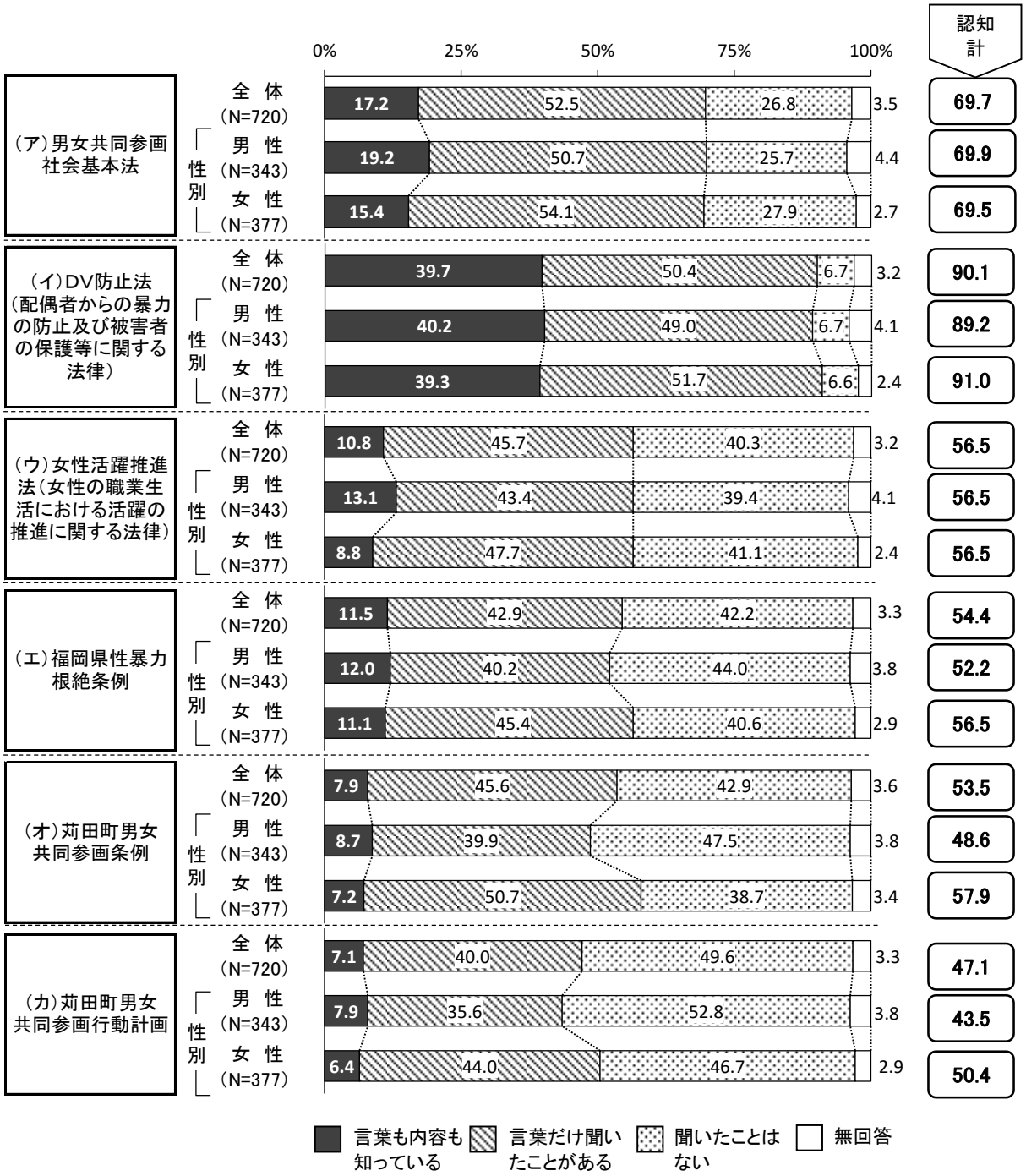
第８章　男女共同参画社会の実現について

１．男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知

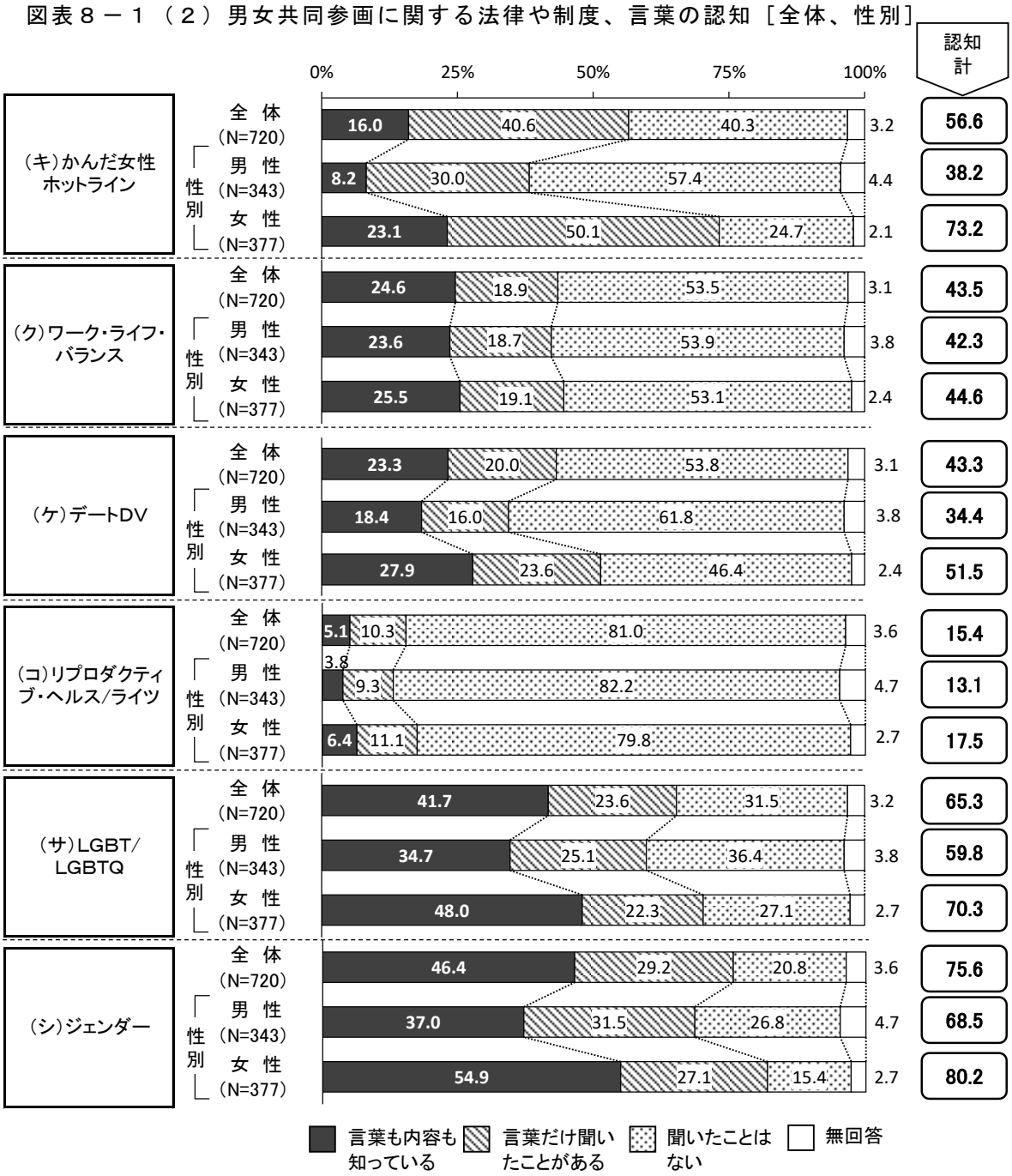
●「ジェンダー」「ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ」「ＤＶ防止法」は４割前後が「言葉も内容も知っている」。

問 22. 次の法律や制度、言葉などについて、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。（○印はそれぞれ１つ）

図表８－１（１）男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知［全体、性別］



図表８－１（２）男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知［全体、性別］



男女共同参画社会に関する法律や条例、言葉、苅田町の取り組みなどの認知についてたずねた。「言葉も内容も知っている」の割合が高いのは「ジェンダー」（46.4％）、「ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ」（41.7％）で４割を超えている。「言葉だけ聞いたことがある」の認知は「男女共同参画社会基本法」「ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の促進に関する法律）」「福岡県性暴力根絶条例」「苅田町男女共同参画条例」「かんだ女性ホットライン」などが約４割から５割となっている。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は「聞いたことはない」が 81.0％と最も高い。

性別でみると、女性は「かんだ女性ホットライン」「デートＤＶ」「ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ」「ジェンダー」「デートＤＶ」などの「言葉も内容も知っている」の割合が男性よりも高い。男性は「男女共同参画社会基本法」や「女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）」などの「言葉も内容も知っている」が女性よりもやや高い。

年代別でみると、苅田町の取り組みである「苅田町男女共同参画条例」「苅田町男女共同参画行動計画」などは男女とも年齢の高い層で、「言葉も内容も知っている」と「言葉だけ聞いたことがある」をあわせた認知が高い。「かんだ女性ホットライン」は女性の 30 代から 60 代で７割を超える認知となっている。その他の法律や条例、言葉の認知は男女とも年齢の低い層で「言葉も内容も知っている」の認知が高い傾向がみられ、特に「ジェンダー」「ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ」「ワーク・ライフ・バランス」などの言葉の認知で顕著である。

図表８－２（１）男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知［全体、年代別］

(%)

		標本数	(ア)男女共同参画社会基本法				(イ)DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)				(ウ)女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の促進に関する法律)			
			言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答
全体		720	124	378	193	25	286	363	48	23	78	329	290	23
		100.0	17.2	52.5	26.8	3.5	39.7	50.4	6.7	3.2	10.8	45.7	40.3	3.2
年代別	男性:10･20代	35	34.3	48.6	17.1	－	34.3	51.4	11.4	2.9	20.0	34.3	45.7	－
	男性:30代	58	15.5	41.4	41.4	1.7	43.1	50.0	5.2	1.7	6.9	46.6	44.8	1.7
	男性:40代	55	18.2	49.1	30.9	1.8	38.2	47.3	12.7	1.8	10.9	38.2	49.1	1.8
	男性:50代	53	24.5	43.4	26.4	5.7	41.5	45.3	7.5	5.7	13.2	49.1	32.1	5.7
	男性:60代	87	13.8	60.9	19.5	5.7	41.4	51.7	2.3	4.6	13.8	47.1	33.3	5.7
	男性:70歳以上	52	19.2	55.8	19.2	5.8	40.4	50.0	5.8	3.8	15.4	42.3	38.5	3.8
	女性:10･20代	31	45.2	45.2	9.7	－	45.2	48.4	6.5	－	19.4	54.8	25.8	－
	女性:30代	46	17.4	50.0	28.3	4.3	32.6	50.0	13.0	4.3	8.7	43.5	43.5	4.3
	女性:40代	73	9.6	57.5	31.5	1.4	34.2	60.3	4.1	1.4	8.2	39.7	50.7	1.4
	女性:50代	76	14.5	51.3	34.2	－	50.0	46.1	3.9	－	9.2	52.6	38.2	－
	女性:60代	90	13.3	57.8	25.6	3.3	35.6	53.3	8.9	2.2	6.7	47.8	43.3	2.2
	女性:70歳以上	59	10.2	55.9	28.8	5.1	39.0	50.8	5.1	5.1	6.8	50.8	37.3	5.1
	無回答	5	－	40.0	－	60.0	40.0	－	－	60.0	20.0	20.0	－	60.0

		標本数	(エ)福岡県性暴力根絶条例				(オ)苅田町男女共同参画条例				(カ)苅田町男女共同参画行動計画			
			言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答
全体		720	83	309	304	24	57	328	309	26	51	288	357	24
		100.0	11.5	42.9	42.2	3.3	7.9	45.6	42.9	3.6	7.1	40.0	49.6	3.3
年代別	男性:10･20代	35	20.0	31.4	48.6	－	8.6	37.1	54.3	－	8.6	31.4	60.0	－
	男性:30代	58	10.3	27.6	60.3	1.7	6.9	29.3	62.1	1.7	5.2	27.6	65.5	1.7
	男性:40代	55	10.9	38.2	49.1	1.8	9.1	30.9	58.2	1.8	7.3	29.1	61.8	1.8
	男性:50代	53	13.2	43.4	37.7	5.7	11.3	37.7	45.3	5.7	7.5	39.6	47.2	5.7
	男性:60代	87	10.3	46.0	39.1	4.6	4.6	52.9	37.9	4.6	6.9	42.5	46.0	4.6
	男性:70歳以上	52	11.5	50.0	34.6	3.8	15.4	44.2	36.5	3.8	13.5	38.5	44.2	3.8
	女性:10･20代	31	19.4	29.0	51.6	－	9.7	35.5	54.8	－	9.7	32.3	58.1	－
	女性:30代	46	8.7	37.0	50.0	4.3	10.9	32.6	50.0	6.5	6.5	30.4	58.7	4.3
	女性:40代	73	9.6	42.5	46.6	1.4	5.5	52.1	39.7	2.7	6.8	43.8	46.6	2.7
	女性:50代	76	9.2	47.4	43.4	－	9.2	53.9	36.8	－	9.2	48.7	42.1	－
	女性:60代	90	8.9	56.7	31.1	3.3	5.6	58.9	32.2	3.3	4.4	52.2	41.1	2.2
	女性:70歳以上	59	15.3	45.8	32.2	6.8	5.1	55.9	33.9	5.1	3.4	44.1	47.5	5.1
	無回答	5	20.0	20.0	－	60.0	－	20.0	－	80.0	－	20.0	－	80.0

図表８－２（２）男女共同参画に関する法律や制度、言葉の認知［全体、年代別］

(%)

		標本数	(キ)かんだ女性ホットライン				(ク)ワーク・ライフ・バランス				(ケ)デートDV			
			言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答
全体		720	115	292	290	23	177	136	385	22	168	144	387	22
		100.0	16.0	40.6	40.3	3.2	24.6	18.9	53.5	3.1	23.3	20.0	53.8	3.1
年代別	男性:10・20代	35	14.3	31.4	54.3	－	48.6	20.0	31.4	－	34.3	20.0	45.7	－
	男性:30代	58	12.1	22.4	63.8	1.7	29.3	12.1	56.9	1.7	20.7	10.3	67.2	1.7
	男性:40代	55	5.5	30.9	60.0	3.6	30.9	14.5	52.7	1.8	18.2	20.0	60.0	1.8
	男性:50代	53	5.7	34.0	54.7	5.7	30.2	18.9	45.3	5.7	28.3	17.0	49.1	5.7
	男性:60代	87	6.9	32.2	55.2	5.7	9.2	25.3	60.9	4.6	10.3	17.2	67.8	4.6
	男性:70歳以上	52	7.7	30.8	57.7	3.8	11.5	19.2	65.4	3.8	9.6	11.5	75.0	3.8
	女性:10・20代	31	19.4	41.9	38.7	－	45.2	12.9	41.9	－	41.9	35.5	22.6	－
	女性:30代	46	37.0	39.1	21.7	2.2	45.7	4.3	45.7	4.3	28.3	15.2	52.2	4.3
	女性:40代	73	16.4	61.6	20.5	1.4	31.5	27.4	39.7	1.4	35.6	28.8	35.6	1.4
	女性:50代	76	31.6	48.7	19.7	－	30.3	25.0	44.7	－	43.4	18.4	38.2	－
	女性:60代	90	22.2	55.6	20.0	2.2	13.3	23.3	61.1	2.2	18.9	26.7	52.2	2.2
	女性:70歳以上	59	13.6	42.4	39.0	5.1	3.4	10.2	81.4	5.1	5.1	20.3	69.5	5.1
	無回答	5	－	20.0	20.0	60.0	20.0	－	20.0	60.0	－	20.0	20.0	60.0

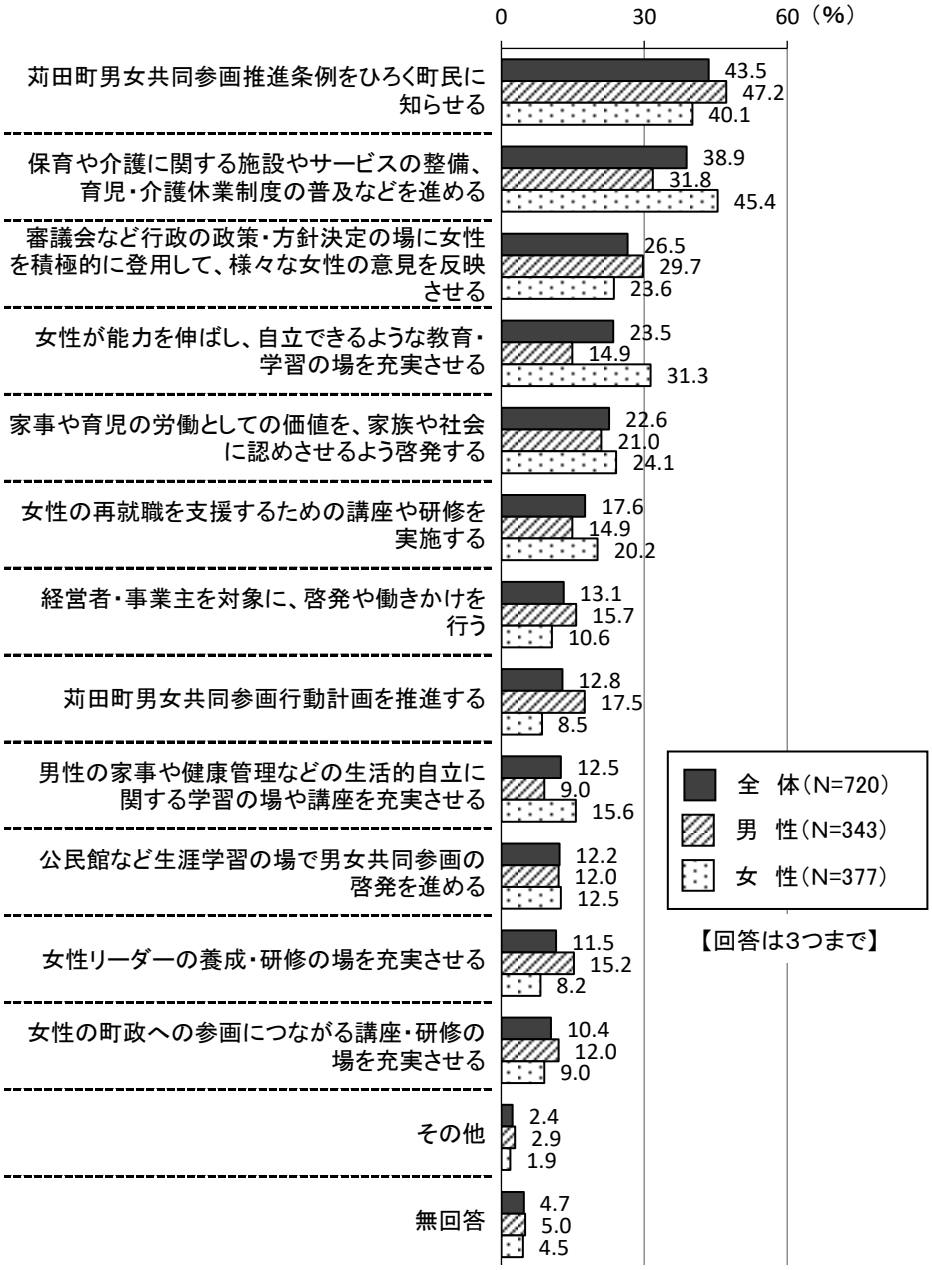
		標本数	(コ)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ				(サ)LGBT/LGBTQ				(シ)ジェンダー			
			言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない	無回答
全体		720	37	74	583	26	300	170	227	23	334	210	150	26
		100.0	5.1	10.3	81.0	3.6	41.7	23.6	31.5	3.2	46.4	29.2	20.8	3.6
年代別	男性:10・20代	35	11.4	11.4	77.1	－	60.0	25.7	14.3	－	62.9	22.9	14.3	－
	男性:30代	58	5.2	5.2	87.9	1.7	44.8	22.4	31.0	1.7	37.9	37.9	22.4	1.7
	男性:40代	55	3.6	12.7	78.2	5.5	41.8	20.0	36.4	1.8	41.8	27.3	27.3	3.6
	男性:50代	53	3.8	7.5	83.0	5.7	39.6	28.3	26.4	5.7	49.1	28.3	17.0	5.7
	男性:60代	87	1.1	9.2	85.1	4.6	23.0	29.9	42.5	4.6	28.7	34.5	32.2	4.6
	男性:70歳以上	52	1.9	11.5	80.8	5.8	13.5	23.1	59.6	3.8	15.4	34.6	42.3	7.7
	女性:10・20代	31	16.1	16.1	67.7	－	71.0	16.1	12.9	－	80.6	16.1	3.2	－
	女性:30代	46	8.7	13.0	73.9	4.3	69.6	15.2	10.9	4.3	65.2	26.1	4.3	4.3
	女性:40代	73	6.8	16.4	75.3	1.4	56.2	30.1	12.3	1.4	60.3	34.2	4.1	1.4
	女性:50代	76	5.3	9.2	84.2	1.3	56.6	22.4	19.7	1.3	64.5	23.7	10.5	1.3
	女性:60代	90	5.6	10.0	82.2	2.2	38.9	26.7	32.2	2.2	47.8	28.9	20.0	3.3
	女性:70歳以上	59	1.7	5.1	88.1	5.1	11.9	15.3	67.8	5.1	25.4	27.1	44.1	3.4
	無回答	5	－	－	40.0	60.0	40.0	－	－	60.0	40.0	－	－	60.0

２.「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むこと

●「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むことは、男性は「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」、女性は「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」。

問 23. 苅田町が「男女共同参画社会」づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。（○印は３つまで）

図表８－３　「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むこと［全体、性別］



「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むことは「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」が 43.5%と最も高く、次いで「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」が 38.9%、「審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」が 26.5%などとなっている。

性別でみると、男性の上位３位は全体の結果とかわらないが、第４位に「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」(21.0%)があげられている。女性は上位２位が全体の結果と逆転しており、第１位に「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」(45.4%)があげられ、男性(31.8%)を 13.6 ポイント上回っている。第２位は「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」(40.1%)、第３位は「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」(31.3%) となっており、男性 (14.9%) を 16.4 ポイント上回っている。

年代別でみると、「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」は男性の 60 代以上と女性の 70 歳以上で、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」は男女の 10・20 代と女性の 60 代で５割を超えて高い。「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」は女性の 30 代以下では４割強、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」は男性の 10・20 代で４割と高い。また、「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」は女性の年齢が低い層で割合が高く、10・20 代では 32.3%と３割を超え、「経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う」は男性の 40 代で 27.3%と他の年代に比べて高い。

図表８－４　「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むこと［全体、年代別］

(%)

		標本数	苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる	苅田町男女共同参画行動計画を推進する	審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる	公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める	女性リーダーの養成・研修の場を充実させる	女性の町政への参画につながる講座・研修の場を充実させる	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる	家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する	経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う	男性の家事や健康管理などの生活的自立に関する学習の場や講座を充実させる	女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する	保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める	その他	無回答
全体		720	313	92	191	88	83	75	169	163	94	90	127	280	17	34
		100.0	43.5	12.8	26.5	12.2	11.5	10.4	23.5	22.6	13.1	12.5	17.6	38.9	2.4	4.7
年代別	男性:10・20代	35	34.3	11.4	25.7	5.7	8.6	5.7	17.1	40.0	8.6	14.3	17.1	51.4	2.9	－
	男性:30代	58	31.0	15.5	24.1	8.6	13.8	10.3	22.4	24.1	20.7	17.2	19.0	32.8	1.7	3.4
	男性:40代	55	40.0	14.5	27.3	1.8	20.0	9.1	16.4	23.6	27.3	9.1	23.6	25.5	7.3	3.6
	男性:50代	53	43.4	9.4	28.3	9.4	20.8	15.1	13.2	20.8	13.2	5.7	15.1	35.8	3.8	5.7
	男性:60代	87	65.5	26.4	32.2	16.1	14.9	12.6	11.5	16.1	12.6	6.9	9.2	27.6	1.1	5.7
	男性:70歳以上	52	57.7	21.2	40.4	25.0	11.5	17.3	11.5	11.5	11.5	3.8	9.6	28.8	1.9	5.8
	女性:10・20代	31	35.5	6.5	29.0	12.9	6.5	－	41.9	22.6	9.7	16.1	32.3	51.6	－	－
	女性:30代	46	30.4	4.3	21.7	－	8.7	6.5	41.3	30.4	8.7	23.9	23.9	47.8	－	4.3
	女性:40代	73	32.9	6.8	30.1	6.8	8.2	4.1	32.9	26.0	16.4	17.8	23.3	38.4	5.5	1.4
	女性:50代	76	38.2	13.2	19.7	10.5	10.5	11.8	27.6	27.6	13.2	13.2	18.4	42.1	1.3	6.6
	女性:60代	90	45.6	10.0	20.0	21.1	10.0	13.3	28.9	24.4	7.8	14.4	15.6	54.4	1.1	3.3
	女性:70歳以上	59	54.2	6.8	25.4	18.6	3.4	10.2	25.4	13.6	6.8	11.9	15.3	39.0	1.7	8.5
	無回答	5	－	－	－	20.0	－	20.0	－	－	－	－	20.0	20.0	－	60.0

Ⅲ　調査結果からみえてくる現状と課題

Ⅲ　調査結果からみえてくる現状と課題

特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
武藤　桐子

2007 年に制定された「苅田町男女共同参画推進条例」は、「町は、推進施策を総合的かつ計画的に実施するため、男女共同参画に係る基本的な計画を策定」すると定めている。2018 年３月に策定された「第２次苅田町男女共同参画行動計画（後期）」は、2022 年度までの５年間を計画期間としており、本調査は次期計画の策定に向け、苅田町の男女共同参画の現状や町民の意識を把握し、男女共同参画の実現に向けての基礎資料を得ることを目的として実施したものである。

以下では、本調査の結果をもとに、町民における男女共同参画に関する現状と今後の課題について考察を行う。

１　男女共同参画に関する考え方について

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方、固定的性別役割分担意識についてどう思うかをたずねたところ、『賛成』が約２割、『反対』が６割台半ばで、『反対』が『賛成』を大幅に上回っており、前回調査からも『反対』が大きく増加している。性別でみると、『反対』は男性で約６割だが、女性では７割を超えている。県や国の調査と比較しても、男女とも『反対』が高くなっており、苅田町においては固定的性別役割分担意識が解消されつつあるといえる。

女性が職業をもつことについての考え方について、約半数が「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答しており、前回調査から約 16 ポイント増加している。一方、前回調査で最も回答率が高かった「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は、前回調査から約 13 ポイント減少しており、女性が結婚や出産で就業を中断することなく働き続けることを支持する人が増えている。

男女の地位の平等感について８つの分野についてたずねたところ、「平等」との回答は「学校教育の場」で５割を超えているが、その他の分野は『男性優位』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では『男性優位』が７割台後半から約８割と非常に高くなっている。

性別でみると、いずれの分野についても女性の方が男性よりも不平等感を感じている。特に、「家庭生活で」では、「平等」が男性は３割強であるのに対し、女性は２割弱で、性別による認識の差が大きい。

苅田町では固定的な性別役割分担意識がかなりの程度解消され、また女性の就業継続を望ましいと考える人が増えているが、実際の社会はまだまだ男性優位であると認識されているのが現状といえる。

２　子どもの育て方、教育について

子どもの育て方や教育については、「女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ」は、全体では９割以上の人が『賛成』しているが、「賛成」と「どちらかといえば賛成」に分けてみると、いずれも女性で積極的な「賛成」が高くなっている。特に「炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は、女性は「賛成」が７割台半ばと高く、また男性を 15 ポイント上回っており、男の子の生活自立については女性の方がより肯定的である。

年代別にみると、「炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は、年代が高い層の男性でやや消極的な傾向がみられる。全体としては、子どもの性別に関わらず経済自立も生活自立も必要と考えている人は多いが、性別や世代間での意識差がうかがえ、このような意識のギャップを今後解消していくことが必要である。

３　家庭生活について

現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している人に、家庭内の 10 の役割の分担状況についてたずねた。『夫中心』は「家計を支える（生活費をかせぐ）」で７割超と高く、一方、『妻中心』は「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」が８割台半ば、「日々の家計を管理する」が７割台半ば、「育児、子どものしつけをする」が約５割などで、夫が稼ぎ、妻は家事・育児という性別役割分担が行われていることがうかがえる。

性別でみると「食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「日々の家計を管理する」「育児、子どものしつけをする」「町内会、お祭りなどの地域活動を行う」「育成会などの地域活動を行う」は、「主に妻が行っている」の割合が女性で高く、男性に比べて 10～18 ポイントほど高くなっており、自分が負担しているという認識が女性で強いことがうかがえる。ただし、「町内会、お祭りなどの地域活動を行う」は、「主に夫」との回答が男性で女性より約９ポイント高く、性別により認識が異なっている。

また、「家庭の問題における最終的な決定をする」「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」は「夫と妻が同じ程度に分担している」が４割台半ばとなっているものの、『夫中心』もそれぞれで３割台半ばと比較的高く、高額な買い物や重要事項の決定では夫が中心となる場合も多いなど、重要な決定への女性の参画が十分に進んでいない様子がうかがえる。男女共同参画社会の実現に向け、意識面での変化を具体的な行動につなげていくことが今後の課題といえる。

４　職業について

現在、職業（収入のある仕事）をもっているかについては、男性の７割台半ば、女性の６割弱が「職業をもっている」と回答しており、特に 30 代から 50 代では男性の９割以上、女性の８割前後が職業をもっている。

現在の就業形態をみると、「正社員、正職員」が男性の５割台半ば、女性の４割弱を占め

最も高いが、女性は「パートタイマー」も約３割と高い。また、「会社役員、管理職（課長以上)」は男性では 12.9%だが、女性では 3.6%と低くなっている。

男性が育児休業・介護休業を取得することについては、育児休業・介護休業ともに『賛成』が８割台半ばとなっているが、積極的な賛成である「とる方がよい」は介護休業が約５割であるのに対し、育児休業は４割台前半となっている。また、育児休業については男性で『反対』が１割を超えており、介護休業に比べてやや消極的な傾向がみられる。

現在、男性の９割近くが育児休業などを取得しない（できない）のはなぜだと思うかをたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が５割強、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が４割強、「経済的に困るから」が２割台半ばなどで上位となっている。

性別でみると、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が６割強と男性に比べて高く、一方男性では「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が４割台後半、「仕事が忙しいから」が約２割と女性より高い。また、福岡県の調査と比較すると、「周囲に取得した男性がいないから」が男性で約 10 ポイント高くなっている。

育児休業や介護休業は法律が定める労働者の権利であり、各事業所が取得しやすい環境づくりを進めるよう事業所への啓発を実施するとともに、両立支援のための助成などに関する情報提供も積極的に行う必要がある。また、「広報かんだ」や町のホームページで男性の育児・介護休業取得者を紹介するなど、ロールモデル提示の必要性も本調査から示唆された。

５　社会活動への参画について

地域活動での男女の役割分担の状況にについて現状をたずねたところ、現状で「そうしている」の割合が高かったのは、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」が約５割、「地域の役員はほとんど男性になっている」「地域活動は男性が取り仕切る」が約４割、「自治会・隣組長会などの登録は男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い」が３割台半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」「催し物の企画などは主に男性が決定している」が約３割などとなっている。「地域の役員や意思決定は男性が、雑用は女性が」という役割分担が現在でも行われている地域も少なくないようである。

性別でみると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」の「そうしている」が女性で男性より７ポイント高くなっており、家庭内での家事と同様、女性がより負担を感じていることがうかがえる。

女性が区長やＰＴＡ会長などの地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には妻など身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかたずねたところ、いずれの役職も「断る（断ることをすすめる)」が５割台半から７割強に上った。女性では「断る」が６割強から８割強と高くなっているが、「子ども会会長」「行政区の役員」「町の審議会や委員会のメンバー」「自主防災組織」では「引き受ける」が３割前後、最も低い「行政区長」でも 13.5%の女性が積極的な姿勢をみせている。

「断る（断ることをすすめる)」と答えた理由は、「責任が重いから」「家事・育児や介護

に支障がでるから」「役職につく知識や経験がないから」が上位となっており、性別でみると、女性は「役職につく知識や経験がないから」が男性よりも約 14 ポイント、「家事・育児や介護に支障がでるから」も約６ポイント高くなっている。

年代別でみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」「仕事に支障が出るから」は、30代の女性で高く、「役職につく知識や経験がないから」は年齢の高い層の女性での割合が高い。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なこととしては、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が６割台半ば、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が５割を超えて高くなっている。

性別でみると、女性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」が男性より 10 ポイント以上低くなっている。

しかし、備蓄品や避難所運営に女性の視点を入れたり、災害時に女性が安心して過ごせる環境をつくるためには、平時からの活動や意思決定の場に、女性をはじめ多様な背景をもつ人が参画することが重要である。子育て中や介護中の人、有職の人など様々な人が参画しやすいよう、活動や会合の時間帯や内容を工夫したり、役員にかかる負担や責任を分散・軽減したりするなど、女性や若年層などが経験を積むことができる環境づくりを進めることが求められる。また、それぞれの地域で従来の男性中心的な慣習を見直すなど、日ごろの活動を男女共同参画の視点で見直していくことも重要である。

６　暴力などの人権侵害について

セクシュアルハラスメントの被害経験については、職場では女性 13.0％、男性 4.4％、地域活動の場では女性 2.1％、男性 1.2％、学校に関わる場では女性 2.4％、男性 1.5％が何らかのセクハラを受けたことがあるとしており、いずれも女性で被害経験率が高くなっている。知人・友人の被害経験も含めると、職場においては男女とも３割弱の人が身近で経験しており、働く人や事業所に向けて、セクシュアルハラスメントについての啓発や情報提供を行う必要があるだろう。

ＤＶにあたる行為を暴力であると思うかどうかをたずねたところ、「骨折させる」「打ち身や切り傷などのケガをさせる」「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」「物を投げつける」などの身体的暴力は８割以上が「どんな場合も暴力にあたる」と認識している。また、「いやがっているのに性的な行為を強要する」も７割台半ばが「どんな場合も暴力にあたる」と回答している。一方、「大声でどなる」は「どんな場合も暴力にあたる」が２割強、「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「交友関係や電話、メールを細かく監視する（チェックする）」４割強、「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』という」は５割台にとどまっており、精神的暴力や社会的暴力については暴力と認識する度合いが低くなっている。また、身体的暴力や性的暴力についても、大きな割合ではないとはいえ「場合によっては暴力にあた

る」「暴力にはあてはまらない」との回答がみられる。

これまでにＤＶを受けた経験については、女性の４割台半ば、男性の３割が、何らかのＤＶを受けたと回答している。ＤＶの内容としては、「大声でどなる」「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』という」「理由もわからず、何を言っても無視し続ける」などの精神的暴力が比較的高く、「ものを投げつける」「足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」などの身体的暴力も１割前後の被害経験がみられる。また、ほぼすべての項目で男性より女性の被害経験率が高くなっており、特に「いやがっているのに性的な行為を強要する」で男女の差が約 10 ポイントと大きい。

ＤＶを受けた人が、誰かに打ち明けたり相談したりしたかについては、「相談しなかった」が５割を超えており、特に男性で約６割と高くなっている。誰かに相談した人も、身近な「家族や親戚」「友人・知人」が大半を占めており、公的機関や専門機関に相談した人は非常に低くなっている。

相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも目立って高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」など、被害者が被害を軽くみてしまっていたり、一人で抱え込んでいる様子がうかがえる。被害を受けた人が誰にも相談できずに被害が潜在化してしまうと、被害がより深刻化することも懸念されるため、ＤＶについての啓発と情報提供、相談窓口の周知など、早い段階での相談につなげるような施策が求められる。

「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである」については、『賛成』が 92.8％に上るが、性別でみると、女性は男性を約６ポイント上回っており、積極的な賛成である「そう思う」も男性を約７ポイント上回っている。「妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重される」については『賛成』が７割台半ば、『反対』「わからない」がそれぞれ約１割となっている。性別でみると、男性は『反対』や「わからない」が女性よりも約４ポイント高い。

妊娠等については特に女性の心理的・身体的負担が大きいことや、ＤＶの経験で「いやがっているのに性的な行為を強要する」で男女の差が約 10 ポイントと大きかったことを考えると、リプロダクティブ・ヘルス／ライツに対する町民の理解を深めることが重要である。一般の町民に対する啓発はもちろん、中高生を対象とした講座の実施など、早い段階から人権としてのリプロダクティブ・ヘルス／ライツへ理解を促す取り組みが求められる。

７　男女共同参画社会の実現に向けて

男女共同参画社会に関する法律や条例、言葉、苅田町の取り組みなどの認知については、「言葉も内容も知っている」の割合が高いのは「ジェンダー」「ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ」で４割を超えている。しかし、これらの言葉は年代による認知の差が非常に大きく、年代の高い層での認知度が低くなっている。ＳＤＧｓやダイバーシティなどへの取り組みを進めるうえで、これらの言葉を使用しないということは難しく、年代の高い層にも理解しやすい

よう、啓発や情報提供の方法に工夫が求められるだろう。

「苅田町男女共同参画条例」「苅田町男女共同参画行動計画」「かんだ女性ホットライン」といった苅田町の取り組みについては５割前後認知されており、特に「かんだ女性ホットライン」は７割以上の女性に認知されているが、苅田町の取り組みについてより知ってもらうため、また、ＤＶの早期発見などのためにも、今後さらに認知を高めていきたい。

「男女共同参画社会」づくりを進めるために行政が取り組むことは「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」が４割を超えて最も高く、次いで「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」が４割弱、「審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」が２割台半ばなどとなっている。

性別でみると、女性は両立支援や女性のエンパワメントや再就職のための学習支援などが男性より高く、男性は条例の周知や行動計画の推進、審議会等への女性の登用など、町の男女共同参画行政の推進を求める声が相対的に高い。

年代別では、「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」は男女とも年齢の高い層での割合が高い。「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」は男女の 10・20 代と女性の 60 代で５割を超えて高くなっている。「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」は女性の 30 代以下で、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」は男性の 10・20 代で高い。また、「経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う」は、男性の 40 代で高いなど、性別や年代よって、行政に求めるものは様々である。

もちろん、いずれの取り組みについても着実に進める必要があるが、まずは苅田町男女共同参画条例の理念や苅田町の取り組みを町民に広く周知し町民の理解を深めるとともに、両立支援のための施策や企業への働きかけなど、性別にかかわらず多様な年代の人が家庭や地域、仕事の場など様々な場に参画できる環境を整えることが望まれる。

◎参考資料
使用した調査票

男女共同参画社会に関する町民意識調査

第３次苅田町男女共同参画行動計画策定のための
町民意識調査ご協力のお願い

日ごろから町政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、このたび苅田町では、現行の「第２次苅田町男女共同参画行動計画」の計画期間が令和４年度（令和５年３月）で終了するため、新しい計画を策定することになりました。この計画では、男女共同参画社会を実現するために、町としてめざすべき将来像の姿（町の将来像）、ならびに、必要となるさまざまな施策を定めていきます。

この施策の策定にあたり、本町における男女共同参画の現状や意識について、町民の皆さまのご意見をこの意識調査を通じてお聞きし、よりよい計画にしてまいります。大変お手数ではございますが、町の男女共同参画の施策に反映するうえで、非常に重要なものですので、ぜひご協力ください。

令和３年９月　苅田町長　遠田　孝一

調査対象者

苅田町にお住まいの 18 歳以上の方の中から 2,000 人を無作為に選出しました。

※集計結果は行動計画の中で公表いたしますが、統計的処理を行うため、個人情報が公表されることはありません。
なにとぞ、よろしくお願いいたします。

ご記入にあたってのお願い

1．この調査は、あて名のご本人がお答えください。
2．質問の中に「配偶者と同居」など一定の条件にあてはまる方のみにおたずねする質問もありますので、ご注意ください。「付問」は、前問で一定の条件にあてはまる方だけにおたずねするものです。
3．お答えいただく○印の数は「１つ」、「３つまで」などあります。あてはまる番号に○印をつけてください。お答えが「その他」の場合には、番号に○印をつけたうえで、その内容を（　　）の中に具体的に書いてください。また、カタカナを回答枠内に記入する場合もあります。
4．調査票の記入が終わりましたら、同封の「返信用封筒」に入れ、９月 30 日（木）までに投函してください。調査票には住所、氏名を記入しないでください。切手は不要です。

【問い合わせ先】　苅田町　総務課　人権・男女共同参画推進担当
電話：０９３－４３４－１９５８（直通）　ＦＡＸ：０９３－４３６－３０１４

男女共同参画に関する考え方についておたずねします

問１．「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は１つ）

１．賛成
２．どちらかといえば賛成
３．どちらかといえば反対
４．反対
５．わからない

問２．あなたは次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。（ア）～（ク）の分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない
（ア）家庭生活で	1	2	3	4	5	6
（イ）職業生活で	1	2	3	4	5	6
（ウ）学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
（エ）地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6
（オ）政治の場で	1	2	3	4	5	6
（カ）法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
（キ）社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
（ク）社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6

問３．一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどうお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○印は１つ）

１．女性は職業をもたない方がよい
２．結婚するまでは職業をもつ方がよい
３．子どもができるまでは職業をもつ方がよい
４．子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
５．結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい
６．その他（具体的に　　）
７．わからない

子どもの育て方、教育についておたずねします

問４．あなたは、子どもの教育についてどのような考え方をお持ちですか。次の（ア）から（ウ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（ア）女の子も男の子も経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	1	2	3	4	5
（イ）男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせることが必要だ	1	2	3	4	5
（ウ）子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5

問５．これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○印は３つまで）

１．一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
２．発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
３．家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
４．生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること
５．ＰＴＡなどと連携して、男女平等教育の理解と協力を深めること
６．働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
７．管理職（校長や教頭）に女性を増やすこと
８．教職員に対する男女平等などの研修を行うこと
９．その他（具体的に　　）

家庭生活についておたずねします

【現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方におたずねします】

問６．あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。（ア）～（コ）の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

	主に妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	主に夫が行っている	その他	非該当（子どもや親がいない）
（ア）家計を支える（生活費をかせぐ）							
（イ）食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする							
（ウ）日々の家計を管理する							
（エ）育児、子どものしつけをする							
（オ）親の世話（介護）をする							
（カ）町内会、お祭りなどの地域活動を行う							
（キ）育成会などの地域活動を行う							
（ク）子どもの教育方針や進学目標を決める							
（ケ）高額の商品や土地・家屋の購入を決める							
（コ）家庭の問題における最終的な決定をする							

また、あなたが、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。問６の（ア）～（コ）のうち、主なものを２つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

◎ 配偶者・パートナーにもっとしてほしいこと ⟶ | | |

職業についておたずねします

問７．あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか。（○印は１つ）

１．職業をもっている
２．以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない
３．いままで職業をもったことはない

問８へ

付問１．〔問７で１．「職業をもっている」と答えた方に〕
あなたの就業形態は次のどれですか。（○印は１つ）

１．自営・会社経営
２．家族従業者
３．会社役員、管理職(課長以上)
４．正社員、正職員
５．パートタイマー
６．契約社員、派遣社員
７．臨時、アルバイト
８．内職
９．その他（具体的に　　）

付問１－１．〔問７付問１で３～７と答えた方に〕
次にあげることがらの中で、現在のあなたの職場の女性にあてはまることがありますか。
（○印はいくつでも）

１．募集や採用人数で差があり、女性は男性より不利である
２．女性の昇進・昇格が遅い、または望めない
３．同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある
４．女性の仕事を補助的業務に限っている
５．女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある
６．女性にはつけないポスト・職種がある
７．女性は、同じポストの男性より、社内研修・教育訓練を受ける機会が少ない
８．女性は、同じポストの男性より、出張・視察等の機会が少ない
９．女性は、転勤などの人事異動で、男性より不利である
10．定年の年齢に男女差がある（慣行を含む）
11．結婚退職制がある（慣行を含む）
12．出産退職制がある（慣行を含む）
13．女性は、家族手当、住居手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある
14．その他（具体的に　　）
15．特にない

問８．育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

１．積極的に活用すべきである
２．なるべく活用すべきである
３．活用しなくてもよい
４．わからない

問９．あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

	とる方がよい	どちらかといえばとる方がよい	どちらかといえばとらない方がよい	とらない方がよい	わからない
（ア）男性の育児休業※1	1	2	3	4	5
（イ）男性の介護休業※2	1	2	3	4	5

※１　育児休業・・原則１歳未満の子を養育する労働者が法律に基づいて取得できる休業のことです。
両親がともに育児休業を取得するなど一定の要件を満たす場合、取得可能期間を
１歳２か月まで延長できます。（パパ・ママ育休プラス）

※２　介護休業・・家族が病気や怪我、精神的な疾患などによって介護が必要な状態になった時、
介護を行う労働者が比較的長く取得できる休業のことです。

問 10. 女性の育児休業取得率は 81.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 12.65%（厚生労働省：2020 年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の９割近くが育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。
（○印は２つまで）

１．周囲に取得した男性がいないから
２．職場に取得しやすい雰囲気がないから
３．仕事が忙しいから
４．取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
５．取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
６．経済的に困るから
７．育児・介護は女性の方が担うものなので、男性が取得する必要はないから
８．その他（具体的に　　）
９．わからない

問 11. あなたの生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、おたずねします。（ア）実際の生活、（イ）理想の生活のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つずつ）

	仕事を優先	家庭生活を優先	地域・個人の生活を優先	仕事と家庭生活をともに優先	仕事と地域・個人の生活をともに優先	家庭生活と地域・個人の生活をともに優先	仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先
（ア）実際の生活	1	2	3	4	5	6	7
（イ）理想の生活	1	2	3	4	5	6	7

社会活動への参画についておたずねします

問 12. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。

（A）現状：あなたが参加している地域活動の現状について（ア）から（ク）のそれぞれにあてはまるものを選んでください。（○印は１つずつ）

（B）意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。（ア）から（ク）のそれぞれにあてはまるものを選んでください。（○印は１つずつ）

	（A）現状			（B）意識		
	そうしている	そうしていない	わからない	現状のままでいい	改善すべき	わからない
（ア）催し物の企画などは主に男性が決定している	1	2	3	1	2	3
（イ）地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	1	2	3
（ウ）地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	1	2	3	1	2	3
（エ）地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	1	2	3
（オ）地域の集会では男性が上座に座る	1	2	3	1	2	3
（カ）女性が発言することは少ない	1	2	3	1	2	3
（キ）自治会・隣組長会などの登録は男性（夫）だが、地域の会議の出席は女性（妻）が出ることが多い	1	2	3	1	2	3
（ク）同じ作業に参加しても女性には出不足金※がある	1	2	3	1	2	3

※出不足金・・・地域活動の作業で、女性が出た場合にその世帯からは不足金を徴収する地域の慣行

問 13. 次の（ア）～（カ）の地域の役職について、女性は自分自身が、男性は妻など身近な女性が推薦されたとしたら、あなたはどう思いますか。（○印はそれぞれ１つ）

	引き受ける（引き受けることをすすめる）	断る（断ることをすすめる）
（ア）ＰＴＡ会長	1	2
（イ）子ども会会長	1	2
（ウ）行政区長	1	2
（エ）行政区の役員	1	2
（オ）町の審議会や委員会のメンバー	1	2
（カ）自主防災組織※	1	2

※自主防災組織・・・地域の人が、自主的に防災活動を行う組織

付問１.〔問 13 で（ア）から（カ）のうちひとつでも２.「断る（断ることをすすめる）」と答えた方に〕引き受けないのはどのような理由からですか（○印は３つまで）

1．家族の協力が得られないから
2．女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3．家事・育児や介護に支障がでるから
4．仕事に支障がでるから
5．役職につく知識や経験がないから
6．女性には向いていないから
7．世間体がわるいから
8．責任が重いから
9．その他（具体的に　　）

問 14. 内閣府調査（2020 年４月１日現在）によれば、自治会役員のうち特に女性の会長については、福岡県では 9.6%でした。全国的にもまだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように少ない理由は何だと思いますか。（○印は２つまで）

1．男性中心に組織が運営されている（役職や仕事分担、活動時間帯など）から
2．男性が女性の能力を正当に評価していないから
3．家族の支援・協力が得られないから
4．女性が責任のある役を引き受けたがらないから
5．地域の様々な意見を調整し、組織をまとめていくことは、女性より男性の方が向いているから
6．わからない
7．その他（具体的に　　）

問15. これまでの大規模災害時の経験から男女共同参画の視点による対策や対応が課題となっています。あなたは、災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。

（○印はいくつでも）

１．避難所の運営に女性も参画できるようにする
２．女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
３．備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
４．避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
５．防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
６．日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
７．日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
８．その他（具体的に　　）

問 16. 男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。（○印は３つまで）

１．男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
２．仕事中心という社会全体の仕組みを改めること
３．企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること
４．企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること
５．企業や経営者が、病気療養などから職場復帰をしやすいよう環境整備すること
６．家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと
７．男女が平等に家計を分担できるように、女性も経済的に自立すること
８．家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること
９．男女共同参画に対して関心を高めること
10．その他（具体的に　　）

政治分野における男女共同参画についておたずねします

問 17. あなたは、「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」について、知っていますか。

（○印は１つ）

１．法律の名前も、その内容も知っている
２．法律の名前は知っているが、内容はよく知らない
３．法律があることを知らなかった

問 18. あなたは、地方議会（県議会・市町村議会）における女性議員の割合は何割程度が理想だと考えますか。下の枠内に０から１０までの整数をご記入ください。

[　　]　割程度

暴力などの人権侵害についておたずねします

問 19. 最近３年間くらいの間に、（Ａ）職場、（Ｂ）地域活動の場、（Ｃ）学校に関わる場で、下記にあげたようなセクシュアルハラスメントを受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。

（○印はいくつでも）

	自分が被害を受けたことがある	女性の知人・友人が被害を受けたことがある	男性の知人・友人が被害を受けたことがある	受けたことも見聞きしたこともない	非該当（職場、地域活動、学校に関わっていない）
（A）職場で	1	2	3	4	5
（B）地域活動の場で	1	2	3	4	5
（C）学校に関わる場で	1	2	3	4	5

～セクシュアルハラスメントの例～

・プライベートなことをしつこく聞かれた
・宴席でお酌、カラオケのデュエットやチークダンスを強要された
・「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をされた
・性的なことでからかわれたり、質問をされた
・ヌード写真を見せられたり、性的な会話をまわりでされた
・性的な含みのある不快な視線を送られたり、個人的なメール・電話などを受け取った
・性的関係を迫られたり、意に反して体に触られた
・未婚か既婚か、子どもの有無などで中傷された
・性的な中傷やうわさを流された
・その他性的嫌がらせと思われるもの

付問１ **【問 19 の（A）（B）（C）いずれかで「１．自分が被害を受けたことがある」と答えた方に】**
その時あなたはどのように対応しましたか。（○印はいくつでも）

１．相談機関（行政機関、カウンセラー、弁護士など）に相談した
２．相談窓口に相談した
３．上司、上役に相談した
４．同僚や仲間に相談した
５．家族または友人・知人に相談した
６．相手に抗議した
７．今後に影響すると思い、がまんした
８．何をやっても無駄だと思い、がまんした
９．どこに相談していいのかわからなかったので、がまんした
10．相談するほどのことではないと思ったので、何もしなかった
11．その他（具体的に　　）

問 20.（A）あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の（ア）～（ス）の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。（○印はそれぞれ１つ）

（B）あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人関係にあった人から次の（ア）～（ス）のようなことをされたことがありますか。（○印はそれぞれ１つ）

	(A)暴力であると思うか			(B)暴力をうけたことがあるか		
	どんな場合も暴力にあたる	場合によっては暴力にあたる	暴力にはあてはまらない	まったくない	1、2度あった	何度もあった
(ア) 大声でどなる	1	2	3	1	2	3
(イ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする	1	2	3	1	2	3
(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う	1	2	3	1	2	3
(エ) 交友関係や電話・メールを細かく監視する（チェックする）	1	2	3	1	2	3
(オ) 必要な生活費を渡さない	1	2	3	1	2	3
(カ) 理由もわからず、何を言っても無視し続ける	1	2	3	1	2	3
(キ) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	1	2	3
(ク) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	1	2	3
(ケ) げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす	1	2	3	1	2	3
(コ) 物を投げつける	1	2	3	1	2	3
(サ) 足でけったり、平手で顔や体を打ったりする	1	2	3	1	2	3
(シ) 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3	1	2	3
(ス) 骨折させる	1	2	3	1	2	3

付問１．〔問 20（B）でひとつでも「１、２度あった」「何度もあった」と答えた方に〕

あなたはこれまでに、問 20（ア）～（ス）のようなことをされたとき、誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。（○印はいくつでも）

１．友人・知人に相談した
２．家族や親戚に相談した
３．学校関係者に相談した
４．民生委員に相談した
５．かんだ女性ホットラインに相談した
６．医療関係者に相談した
７．弁護士や民間の専門機関に相談した
８．配偶者暴力相談支援センターに相談した
９．警察に連絡・相談した
10．５、８、９以外の公的な機関に相談した
11．相談しなかった ──→ 付問１－１へ

付問１－１【問 20 付問１で「11. 相談しなかった」と答えた方に】
あなたがどこ（だれ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○印はいくつでも）

１．どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
２．恥ずかしくてだれにも言えなかったから
３．相談してもむだだと思ったから
４．相談したことがわかると、仕返しをうけたり、もっとひどい暴力をうけると思ったから
５．加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
６．相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから
７．自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
８．子どものためにがまんするしかないと思ったから
９．世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
12. そのことについて思い出したくなかったから
13. 自分にも悪いところがあると思ったから
14. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
15. 相談するほどのことではないと思ったから
16. その他（具体的に　　）

問 21. 次の（ア）、（イ）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
（○印はそれぞれ１つ）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
（ア）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）との間で十分話し合うべきである	1	2	3	4	5
（イ）妊娠や性に関して、夫婦・恋人（パートナー）と合意できない場合には、女性の意思が尊重されるべきである	1	2	3	4	5

男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 22. 次の法律や制度、言葉などについて、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。（○印はそれぞれ１つ）

	言葉も内容も知っている	言葉だけ聞いたことがある	聞いたことはない
（ア）男女共同参画社会基本法	1	2	3
（イ）ＤＶ防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）	1	2	3
（ウ）女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
（エ）福岡県性暴力根絶条例	1	2	3
（オ）苅田町男女共同参画条例	1	2	3
（カ）苅田町男女共同参画行動計画	1	2	3
（キ）かんだ女性ホットライン	1	2	3
（ク）ワーク・ライフ・バランス※	1	2	3
（ケ）デートＤＶ※	1	2	3
（コ）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ※	1	2	3
（サ）ＬＧＢＴ/ＬＧＢＴＱ※	1	2	3
（シ）ジェンダー※	1	2	3

※説明は 14 ページにあります。

問 23. 苅田町が「男女共同参画社会」づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。（○印は３つまで）

1．苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる
2．苅田町男女共同参画行動計画を推進する
3．審議会など行政の政策･方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる
4．公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める
5．女性リーダーの養成・研修の場を充実させる
6．女性の町政への参画につながる講座・研修の場を充実させる
7．女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる
8．家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する
9．経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う
10．男性の家事や健康管理などの生活的自立に関する学習の場や講座を充実させる
11．女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する
12．保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める
13．その他（具体的に　　）

最後に、あなたご自身のことやご家族のことについておたずねします

Ｆ１．あなたの性別は。

１．男　性　　２．女　性

Ｆ２．あなたの満年齢は。

１．18、19 歳
２．20～29 歳
３．30～39 歳
４．40～49 歳
５．50～59 歳
６．60～69 歳
７．70 歳以上

Ｆ３．あなたの配偶関係（事実婚も含む）は、次のどれにあてはまりますか。

１．結婚したことはない
２．既婚（共働きである）
３．既婚（共働きでない）
４．死別
５．離別
６．その他（具体的に　　）

Ｆ４．あなたのご家族に次にあげる方はおられますか。（○印はいくつでも）
現在、同居している人についてお答えください。

１．乳幼児（３歳未満）
２．未就学児（３歳～６歳）
３．小・中学生
４．１～３以外の 18 歳未満の子ども
５．65 歳以上の人
６．１～５以外の人

Ｆ５．お住いの小学校区はどこですか。

１．苅田小学校区
２．馬場小学校区
３．南原小学校区
４．与原小学校区
５．片島小学校区
６．白川小学校区

苅田町の男女共同参画について自由にご意見をお聞かせください

12ページ（問22）の言葉の説明

○ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）…仕事と家庭生活や地域活動、趣味などの私生活を調和させ、その両方を充実させることで、相乗効果を高めようとする考え方やそのための取り組みのこと。それぞれのライフスタイルやライフステージに合わせて働き方を柔軟に選べるよう、働き方を見直すことを含みます。

○デートＤＶ…恋人間で起きる暴力のこと。中学生、高校生など若い人の間でも起きています。身体的な暴力だけではなく、言葉や態度による精神的な暴力、行動や交際を制限するなどの社会的暴力、お金を出させるなどの経済的暴力、性行為を強要するなどの性的暴力などを含みます。

○リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康／権利）…性や生殖にかかわるあらゆる事柄において、身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態で、安全で満足のいく性生活を営むことができ、子どもを産むか産まないか、産むならばいつ、何人産むかを決定することができることです。

○ＬＧＢＴ／ＬＧＢＴＱ…Ｌ（レズビアン＝女性同性愛者）、Ｇ（ゲイ＝男性同性愛者）、Ｂ（バイセクシュアル＝両性愛者）、Ｔ（トランスジェンダー＝生まれたときの生物学的・社会的性別とは一致しない、またはとらわれない生き方を選ぶ人）、Ｑ（自分の性のあり方を決められなかったり、迷ったりしている人、または決めたくない、決めないとしている人）などを表現する包括的な言葉です。

○ジェンダー…身体的・生物学的な性別に対して、性別についての固定観念や偏見、「女はこうあるべき」「男はこうするもの」といった規範など、社会的につくられた性のありようのことです。

男女共同参画社会とは

男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担うべき社会のことです。

男女共同参画社会基本法第２条

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。
ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
９月30日（木）までに投函してください。

男女共同参画に関する町民意識調査
報　告　書

令和４年３月

発行　苅田町 総務課 人権・男女共同参画推進担当
〒800-0392
福岡県京都郡苅田町富久町１－１９－１
電　話／０９３－４３４－１９５８
ＦＡＸ／０９３－４３６－３０１４